

児湯郡高鍋町所在

あ お き

青木遺跡

一般県道木城高鍋線（青木工区）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

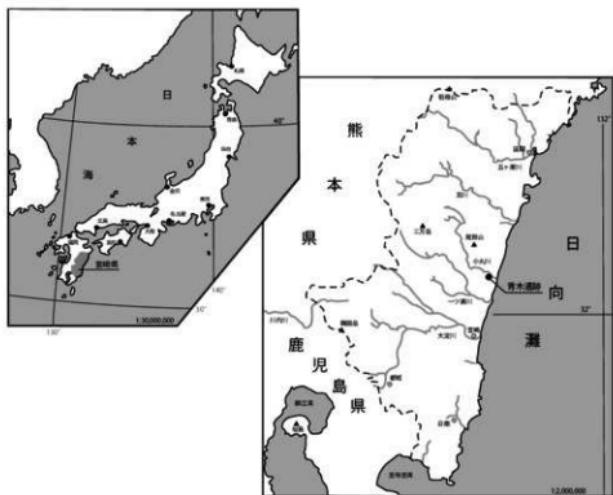
2019

宮崎県埋蔵文化財センター

児湯郡高鍋町所在

あ お き
青 木 遺 跡

一般県道木城高鍋線（青木工区）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第248集

『青木遺跡』正 誤 表

ページ・行	誤	正
p6 11行目	…近辺の崩土遺跡や、…	…近辺の崩戸遺跡や、…
p22 15行目	…口縁部から底部にかけての…	…口縁部から天井部にかけての…
p22 32行目	…小型の蓋が6世紀前半葉、要類…	90
p8 23行目	…重量は523gwをである。4は…	…重量は523gwである。4は…
p14 31行目	…刻目突帯が学校確認できる。…	…刻目突帯が確認できる。…
p15 30行目	…考えたが、それであったとしても、…	…考えたが、それであったとしても、…
p57 16行目	近世については…	近世については…
p57 35行目	…である(第37図)。…	…である(第38図)。…
p57 37行目	38図・図版1参照)。…	39図・図版1参照)。…
p58 8行目	…判断できる(第40図)。…	…判断できる(第41図)。…



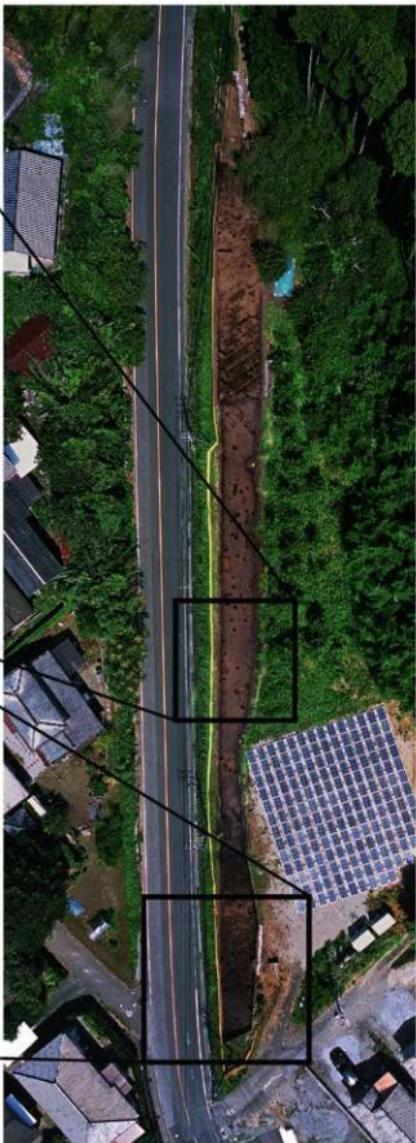
調査区遠景（西より　画面左は小丸川、奥は日向灘）



6号竪穴建物周辺



東側 掘立柱建物群



青木遺跡 調査区 垂直写真

序

宮崎県教育委員会では、平成 29 年度に一般県道木城高鍋線の改良工事に伴う青木遺跡の埋蔵文化財発掘調査を行いました。本書はその報告書です。

青木遺跡は、県内でも有数の大河川である小丸川の南岸に位置します。その対岸には、国指定史跡である持田古墳群や川南古墳群などの大古墳群が展開し、また、すぐ南側にも山王古墳群などの有力な古墳群が存在します。遺跡の西側を通る東九州自動車道の発掘調査においても、野首第 1・第 2 遺跡や崩戸遺跡などで貴重な発掘成果が上がっており、青木遺跡の周辺は、県内でも埋蔵文化財が集中する地域のひとつといえます。

今回の調査では、縄文時代の石器を埋納した土坑、古墳時代の竪穴建物跡、古代から中世と考えられる大型の掘立柱建物群などが確認されており、高鍋町にとどまらず、古代の児湯や日向地域を考えるうえで非常に重要な成果が得られています。

本書が学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場などで活用され、文化財保護に対する理解の一助になれば幸いです。

最後に、調査・報告にあたって御協力いただいた関係諸機関、地元の方々、並びに御指導・御助言を賜った先生方に対して、厚くお礼申し上げます。

平成 31 年 3 月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長 長峯 勝志

例　言

- 1 本書は一般県道木城高鍋線（青木工区）道路改良工事に伴い、宮崎県教育委員会が実施した宮崎県児湯郡高鍋町大字上江字野首に所在する青木遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡名については、今回の調査範囲は字野首であるが、周知の遺跡の範囲が字青木から字野首にわたっており、その範囲の大部分が字青木に含まれるため、「青木遺跡」と呼称する。
- 3 発掘調査は高鍋土木事務所の依頼を受け、宮崎県教育委員会が主体となり宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査は、平成 29 年 6 月 14 日から平成 29 年 9 月 29 日まで（現地調査 62 日間）行った。
- 5 現地での実測等の記録は甲斐尚和、高村哲、二宮満夫、和田理啓が発掘作業員の協力を得て作成した。
- 6 整理作業は図面作成・遺物実測及びトレースは和田が整理作業員の協力を得て宮崎県埋蔵文化財センターで行った。
- 7 本書に掲載した空中写真は、巻頭図版 1～2 及び図版 1（青木遺跡遠景（東より）・青木遺跡全景）については有限会社スカイサーベイに委託を行い撮影したものである。
- 8 本書で使用した第 1 図「青木遺跡と周辺遺跡の位置図（1：25,000）」は国土地理院発行の 2 万 5 千分の 1 図『高鍋』、『妻』および高鍋町教育委員会発行の『高鍋町遺跡詳細分布調査報告書』を、第 38 図、第 40 図、第 41 図については高鍋町作成の 1 万分の 1 図『高鍋町全図』をもとに作成した。
- 9 本書で使用した土層断面および遺物の色調等は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を参考にした。
- 10 本書で使用した方位は、全て座標北で、標高は海拔絶対高である。また、本書で使用した座標は世界測地系（WGS84）九州第Ⅱ系に準拠している。
- 11 本書の執筆および編集は和田が行った。
- 12 出土遺物・その他の諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

第Ⅰ章 はじめに ······	1
第1節 調査に至る経緯 ······	1
第2節 調査の組織 ······	1
第Ⅱ章 遺跡周辺の環境 ······	2
第1節 立地と歴史的環境 ······	2
第2節 古墳時代から律令期にかけての周辺環境 ······	3
第Ⅲ章 調査の記録 ······	5
第1節 調査の方法と経過 ······	5
第2節 調査の概要 ······	6
第3節 繩文時代以前の遺構と遺物 ······	8
第4節 弥生時代の遺物 ······	19
第5節 古墳時代の遺構と遺物 ······	19
第6節 古代から中世の遺構と遺物 ······	35
第7節 近世以降の遺構と遺物 ······	42
第8節 時期不明の遺構と遺物 ······	45
第Ⅳ章 総括 ······	56
第1節 調査成果の概観 ······	56
第2節 青木遺跡で確認された大型掘立柱建物群と周辺にみられる方形区画について ······	57
第3節 まとめ ······	60

挿図目次

第 1 図 青木遺跡と周辺遺跡の位置図 (S=1:25,000)	4
第 2 図 青木遺跡基本層序 (S=1:40)	6
第 3 図 青木遺跡 周辺地形図 (S=1:2,500) および遺構分布図 (S=1:400)	7
第 4 図 青木遺跡 1 号土坑 (S=1:40) および出土遺物 (S=1:3)	9
第 5 図 青木遺跡 1 号土坑出土遺物 (S=1:3)	10
第 6 図 青木遺跡出土石器 繩文時代① (S=1:3)	11
第 7 図 青木遺跡出土石器 繩文時代② (S=1:3)	12
第 8 図 青木遺跡出土石器 繩文時代③(21~25 S=1:3 26・29 S=1:2 27~28・30~33 S=1:1)	13
第 9 図 青木遺跡出土繩文土器① (S=1:3)	16
第 10 図 青木遺跡出土繩文土器② (S=1:3)	17
第 11 図 青木遺跡出土繩文土器③ (S=1:3)	18
第 12 図 青木遺跡出土遺物 (弥生時代) (S=1:3)	19
第 13 図 青木遺跡 1 号竪穴建物 (S=1:40)	20
第 14 図 青木遺跡 1 号竪穴建物出土遺物 (92~99 S=1:4 100・101 S=1:2)	21
第 15 図 青木遺跡 2 号および 3 号竪穴建物 (S=1:40)	23
第 16 図 青木遺跡 2 号および 3 号竪穴建物出土遺物① (S=1:4)	24
第 17 図 青木遺跡 2 号および 3 号竪穴建物出土遺物② (S=1:3)	25
第 18 図 青木遺跡 4 号竪穴建物 (S=1:40)	26
第 19 図 青木遺跡 4 号竪穴建物出土遺物① (116~124 S=1:4 125~129 S=1:3)	27
第 20 図 青木遺跡 4 号竪穴建物出土遺物② (S=1:3)	28
第 21 図 青木遺跡 5 号および 6 号竪穴建物 (S=1:40)	29
第 22 図 青木遺跡 5 号および 6 号竪穴建物出土遺物① (S=1:4)	30
第 23 図 青木遺跡 5 号および 6 号竪穴建物出土遺物②(154~173 S=1:4 174~175 S=1:2)	31
第 24 図 青木遺跡 5 号および 6 号竪穴建物出土遺物③ (176~177 S=1:3 178 S=1:1)	32
第 25 図 青木遺跡 2 号土坑 (S=1:40) および出土遺物 (179~182 S=1:3 183 S=1:2)	33
第 26 図 青木遺跡出土遺物 古墳時代① (184~190・194~209 S=1:3 191 S=1:4)	34
第 27 図 青木遺跡出土遺物 古墳時代② (S=1:3)	35
第 28 図 青木遺跡 1 号掘立柱建物 (S=1:40)	36
第 29 図 青木遺跡 2 号~4 号掘立柱建物 (S=1:40)	38
第 30 図 青木遺跡 5 号~7 号掘立柱建物 (S=1:50)	39
第 31 図 青木遺跡 8 号掘立柱建物 (S=1:40)	40
第 32 図 青木遺跡出土遺物 古代~中世 (S=1:3)	41

第 33 図 青木遺跡 畠跡 (S=1:50)および出土遺物 (S=1:3) ······	42
第 34 図 青木遺跡 1号溝状遺構 (S=1:40)および出土遺物 (S=1:3) ······	43
第 35 図 青木遺跡 2号溝状遺構 (S=1:40) ······	44
第 36 図 青木遺跡出土遺物 近世 (S=1:3) ······	44
第 37 図 青木遺跡出土遺物 時期不明 (S=1:2) ······	46
第 38 図 青木遺跡の位置と旧道の経路 (1:1000) ······	58
第 39 図 青木遺跡の方形区画 ······	58
第 40 図 青木遺跡周辺にみられる一町四方の区画 ······	59
第 41 図 方形区画の広がり ······	60

表目次

第 1 表 青木遺跡出土土器等観察表① ······	47
第 2 表 青木遺跡出土土器等観察表② ······	48
第 3 表 青木遺跡出土土器等観察表③ ······	49
第 4 表 青木遺跡出土土器等観察表④ ······	50
第 5 表 青木遺跡出土土器等観察表⑤ ······	51
第 6 表 青木遺跡出土土器等観察表⑥ ······	52
第 7 表 青木遺跡出土土器等観察表⑦ ······	53
第 8 表 青木遺跡出土石器観察表① ······	54
第 9 表 青木遺跡出土石器観察表② ······	55

図版目次

図版1 (青木遺跡遠景(東より)・青木遺跡全景・1号土坑検出状況・1号土坑完掘状況・1号土坑出土遺物①・1号土坑出土遺物②・1号土坑出土遺物③) ······	61
図版2 (青木遺跡出土遺物①・青木遺跡出土遺物②・青木遺跡出土遺物③・青木遺跡出土遺物④・青木遺跡出土遺物⑤・青木遺跡出土遺物⑥) ······	62
図版3 (青木遺跡出土遺物⑦・青木遺跡出土遺物⑧・青木遺跡出土遺物⑨) ······	63
図版4 (青木遺跡出土遺物⑩・青木遺跡出土遺物⑪・青木遺跡出土遺物⑫) ······	64

図版5（青木遺跡出土遺物⑬・青木遺跡出土遺物⑭・青木遺跡出土遺物⑮）	65
図版6（1号竪穴建物・1号竪穴建物出土遺物①・1号竪穴建物出土遺物②・1号竪穴建物出土遺物③・1号竪穴建物出土遺物④・1号竪穴建物出土遺物⑤）	66
図版7（2号および3号竪穴建物・2号および3号竪穴建物出土遺物①・2号および3号竪穴建物出土遺物②・2号および3号竪穴建物出土遺物③・2号および3号竪穴建物出土遺物④・2号および3号竪穴建物出土遺物⑤）	67
図版8（4号竪穴建物・4号竪穴建物内の粘土塊・高环(117)出土状況）	68
図版9（4号竪穴建物出土遺物①・4号竪穴建物出土遺物②・4号竪穴建物出土遺物③）	69
図版10（4号竪穴建物出土遺物④・4号竪穴建物出土遺物⑤・5号および6号竪穴建物）	70
図版11（5号竪穴建物出土状況・5号および6号竪穴建物出土遺物①・5号および6号竪穴建物出土遺物②）	71
図版12（5号および6号竪穴建物出土遺物③・5号および6号竪穴建物出土遺物④・5号および6号竪穴建物出土遺物⑤）	72
図版13（2号土坑（北より）・2号土坑出土遺物・青木遺跡出土遺物⑯）	73
図版14（青木遺跡掘立柱建物群（5号から8号掘立柱建物））	74
図版15（崩跡・1号溝状遺構・1号溝状遺構出土遺物）	75
図版16（青木遺跡出土輸入陶磁器（左 青花碗、右 同安窯青磁）・青木遺跡出土遺物⑰）	76

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

一般県道木城高鍋線は、高鍋町と木城町の両市街地を結ぶ主要道路のひとつである。今回改良工事の対象となった青木工区は、道を挟んで南北に住宅地が広がり、小丸川の蛇行に合わせ、野首丘陵を大きく回り込むため、道幅が狭く見通しも悪い状況であった。また、東九州自動車道高鍋インターチェンジへのアクセス道路として交通量の増加も確認されていた。そのような状況下でありながら当該地区は歩道が整備されておらず交通上危険な状態であり、平成26年度には通学路交通安全プログラムにおいても要対策箇所となるなど、前後の歩道整備区间と合わせて、自転車、歩行者の安全を確保するために自歩道を整備し交通安全の向上を図る必要に迫られていた。このため、高鍋土木事務所では平成29年度供用を目指し事業が開始されることとなつた。

平成25年度に文化財課が行った事業照会により上記計画が確認され、対象地が周知の遺跡の隣接地で、過去に野首第1・第2遺跡や崩戸遺跡などの調査が行われ大きな成果が得られていることや、近隣に山王古墳群、老瀬横穴墓群など様々な時代の遺跡が集中していることから、埋蔵文化財に影響がある可能性が高いと考えられた。そのため平成25年度から26年度にかけ文化財課は高鍋土木事務所と協議を行い、平成26年12月17日及び平成27年2月9日に試掘調査を行った。その結果、縄文時代以降の遺物、遺構が確認できたため平成27年4月13日付で遺跡の周知化がなされ、5月2日付で高鍋土木事務所から宮崎県教育委員会に工事通知が提出された。併行して高鍋土木事務所より宮崎県埋蔵文化財センターあて平成29年4月28日付で調査依頼がなされ、実施の回答の後、平成29年6月14日から調査に着手した。

第2節 調査の組織

青木遺跡の発掘調査・整理作業及び報告書作成は以下の組織で実施した。

調査主体：宮崎県教育委員会

調査機関：宮崎県埋蔵文化財センター

平成29年度 発掘調査及び整理作業

宮崎県埋蔵文化財センター

所長 菅付 和樹

副所長 甲斐 久志

総務担当リーダー 寺原 真由美

総務担当 主査 赤木 恭子

主査 山崎 智子

調査課長 吉本 正典

調査第一担当リーダー 松林 豊樹

調査第一担当 主査 和田 理啓

主査 甲斐 尚和

主査 高村 哲

調査第二担当 主査 二宮 満夫

平成 30 年度 整理作業及び報告書作成

宮崎県埋蔵文化財センター

所長	長峯 勝志
副所長	田中 礼子
総務担当リーダー	寺原 真由美
総務担当	主査 赤木 恵子
	主査 山崎 智子
調査課長	吉本 正典
調査第一担当リーダー	松林 豊樹
調査第一担当	主査 和田 理啓

事業調整

宮崎県教育庁文化財課埋蔵文化財担当	堀田 孝博(平成 25 年度)
	松本 茂(平成 26~28 年度)
	甲斐 貴充(平成 29~30 年度)

第Ⅱ章 遺跡周辺の環境

第 1 節 立地と歴史的環境

青木遺跡は小丸川の南岸、標高 24 m 前後の河岸段丘上に位置する。

小丸川は、椎葉村三方岳にその源を発する、総長 73km に及ぶ一級河川である。尾鈴山西麓を南進し、低地に入るとその向きを東へと変え高鍋町域の北部を南北に分断する。

小丸川の北側には、国光原や持田など約 24 万年前の海進海退によって形成された高位段丘面が、南側には牛牧など約 14~8 万年前の期間に温暖期と寒冷期が繰り返されたことによって形成された中位段丘面が広がり（赤崎広志 2015）、いわゆる原（はる）と呼ばれる地形を形成している。

これらの段丘面には旧石器時代から人類の生活の痕跡が若干ではあるが確認できる。小丸川の北岸、持田丘陵の東南端に位置する持田中尾遺跡では、1981 年に行われた調査でナイフ形石器や搔器などが出土しており（高鍋町教育委員会 1982）、野首遺跡（第 1 図 16）においても後期旧石器の遺物が確認できており、複数の文化層の面的な広がりがとらえられている（宮崎県埋蔵文化財センター 2004、2007b）など発掘調査により大きな成果が上がっている。

縄文時代については、野首第 1・2 遺跡（第 1 図 16）、崩戸遺跡（第 1 図 17）、小丸川北岸の尾花坂上遺跡（第 1 図 9）、尾花 A 遺跡（第 1 図 7）など早期の集石遺構や炉穴など非常に高い遺跡密度をみせている（宮崎県埋蔵文化財センター 2004、2005、2007b、2010）。それに対して前期には遺跡の密度が極めて希薄になるが、野首第 1 遺跡や崩戸遺跡では前期の轟式土器がまとまって出土している（宮崎県教埋蔵文化財センター 2004、2005）。中期から晩期では下耳切第 3 遺跡や野首第 2 遺跡でまとった集落の調査例

が知られており（宮崎県埋蔵文化財センター 2006a、2008）当該期の集落構造を考えるうえで貴重な資料となっている。

弥生時代では、小丸川北岸の高位段丘上で前期の集落が調査されている（高鍋町教育委員会 1989）ほか、尾花A遺跡では中期から終末期にかけての集落が確認されている（宮崎県埋蔵文化財センター 2011）。また、小丸川南方では野首第1・第2遺跡に若干の報告があるほか中・低位の段丘上でも弥生時代の遺物が表採されており、当該期の集落が展開していたものと考えられる。

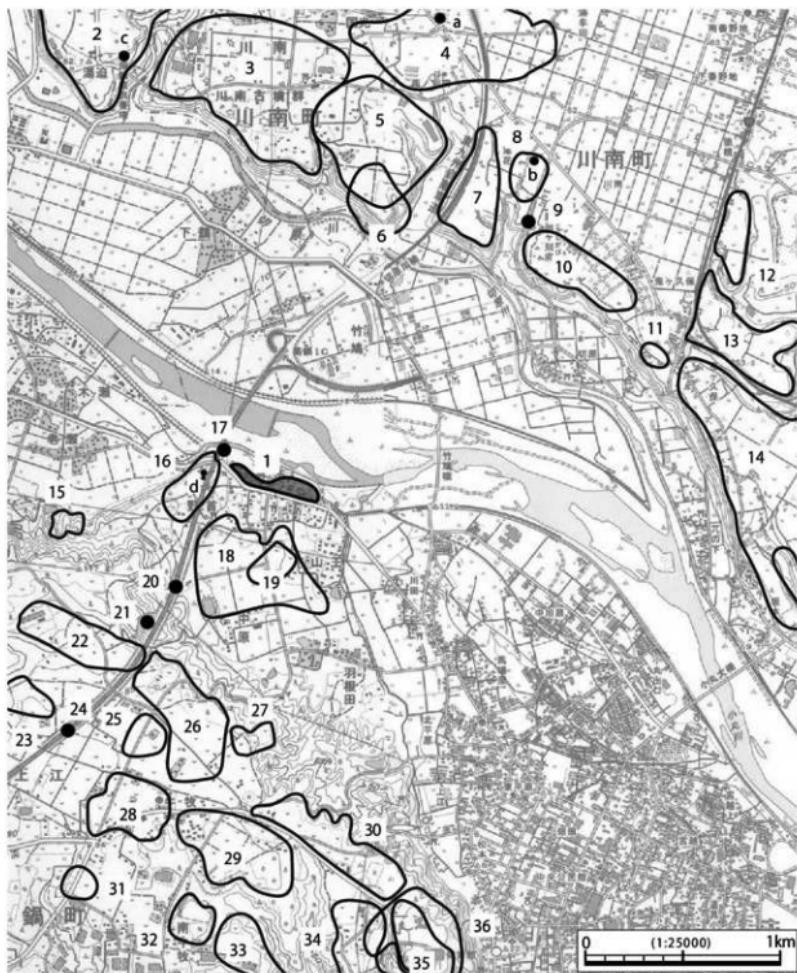
古墳時代に入ると、小丸川左岸で九州でも有数の規模を誇る持田・川南の両古墳群の築造が開始される。その形成に大きく関わったと考えられる集落が尾花A遺跡で確認されている。尾花A遺跡の集落からは布留式土器をはじめ、多くの搬入遺物が出土し、古墳群の形成に日向以外からの多くの技術が導入されたことがわかっている。小丸川の南岸では、近隣の野首第2遺跡で古墳時代中期を主体とする集落が確認され、34基の竪穴建物調査されている（宮崎県埋蔵文化財センター 2008）。

古代の遺跡周辺の状況はあまり明確ではないが、現状で約一町四方の区画が調査区周辺で確認でき、今回の調査で比較的大型の掘立柱建物群が検出されていることから、古代条里の地割の名残の可能性も考えられる。

中世においては、高鍋（財部）城を拠点に土持氏や伊東氏の勢力範囲となる。伊東氏のいわゆる「豊後落ち」「伊東崩れ」に伴って、木城町高城周辺では、島津氏と大友氏の大規模な合戦が行われており、青木遺跡の近辺でもこの合戦時に島津以久が構えた陣跡と想定される遺構が見つかっている（老瀬坂上第2遺跡）。この後、豊臣氏の島津征伐のおりに筑前より転封された秋月氏の所領となり、1604年からは高鍋城が江戸時代を通してその居城となる。遺跡近辺には、「馬場原下」や「牛牧」などの小字がみられ、この当時の牧の位置を反映しているのかもしれない（高鍋町史編さん委員会 1987）。

第2節 古墳時代から律令期にかけての周辺環境

青木遺跡の周辺には、早くから比較的規模の大きな古墳群が展開する。南側の牛牧台地上にある牛牧古墳群（第1図26）は内容が明らかなものが少ないが、東側の台地縁辺には前期のものと考えられる前方後円墳が存在する。遺跡南方の低位段丘上には、前期後半から中期が主体を成すと考えられる山王古墳群（第1図19）が築造され、小丸川を挟んで北方の台地上には、持田古墳群（第1図14）や川南古墳群（第1図3）など大規模な古墳群が前期の早い段階から築造を開始されていると考えられている。これらの古墳群は、いずれも後期段階まで継続しており、近辺の野首古墳群（第1図d）では横穴式石室から金銅製の馬具が出土しているなど古墳時代を通して有力な集団が存在したことが伺える。その直後の律令期になると情報は極端に少なくなるが下耳切第3遺跡（第1図22）から出土した円面鏡や老瀬坂上第3遺跡（第1図21）から出土した転用鏡など識字層が生活する環境が近辺に存在したことがわかる。また、近接する野首第1遺跡（第1図16）の竪穴建物から畿内から搬入されたと考えられる土師器が出土する（宮崎県埋蔵文化財センター 2007a）など中央との交流をもつ集団の存在も示唆されている。前述したように青木遺跡の調査では公的な建物と目される掘立柱建物跡が確認できており、これまでの調査例からも、周辺地域が古代において政治的な拠点のひとつであった可能性は高いと考えられる。



1. 青木遺跡 2. 湯迫遺跡・松山塁跡 3. 川南古墳群 4. 湯牟田遺跡 5. 天神前遺跡 6. 河原之陣跡 7. 尾花A遺跡 8. 尾花B遺跡 9. 尾花坂上遺跡 10. 勝司ヶ別府遺跡 11. 鬼ヶ久保遺跡 12. 俵橋遺跡 13. 下り松遺跡 14. 持田遺跡・持田古墳群
 15. 老瀬坂上横穴墓群 16. 野首遺跡 17. 崩戸遺跡 18. 北中原遺跡 19. 山王古墳群 20. 南中原第1遺跡 21. 老瀬坂上第3遺跡
 22. 下耳切第3遺跡 23. 下耳切第2遺跡 24. 北牛牧第5遺跡 25. 北牛牧第1遺跡 26. 北牛牧第4遺跡・牛牧古墳群 27. 北牛牧第3遺跡 28. 大戸ノ口第1遺跡 29. 南牛牧第2遺跡 30. 大戸ノ口第1遺跡 31. 南牛牧第1遺跡 32. 伊波牛牧第4遺跡
 33. 南牛牧第3遺跡 34. 大戸ノ口第3遺跡 35. 大戸ノ口第2遺跡 36. 大戸ノ口古墳群 a. 国光原古墳 b. 尾花塚古墳 c. 宗頼原供養塔 d. 野首古墳群

第1図 青木遺跡と周辺遺跡の位置図 (S=1 : 25,000)

第Ⅲ章 調査の記録

第1節 調査の方法と経過

今回の調査は県道木城高鍋線の歩道設置に伴うものであり、調査範囲は西北から東南に向かう非常に細長い範囲が対象であった。また、丘陵端部を開削した部分であり、調査対象地と隣接する現道部分に最大で2mを超える段差があり、調査においては落下物や転落に対する配慮が必要であった。加えて、排土を搬出する手段がなく調査地内で処理を行う事となったため、調査区を西区、東区、中央区に便宜上分割し、西区、東区の調査後に中央部の調査を行うこととした。

調査の経過は以下のとおりである。

6月 14 日	・重機掘削工程の打ち合わせ ・発掘調査事務所設置の確認 ・周辺住民への発掘調査のお知らせ	8月 18 日 ・東区、西区空中写真撮影
6月 19 ~ 20 日	・重機による表土掘削（東区、西区）	8月 19 日～ ・東区、西区 遺構実測作業
6月 21 日	・作業員雇用開始 ・周辺環境整備	8月 24 日～ ・東区、西区 重機により埋め戻し
6月 23 日～	・西区包含層掘削	8月 25 日～ ・中央区 重機による表土掘削
7月 3 日～	・測量杭設置等 ・西区包含層掘削 ・西区平面図作成	8月 29 日 ・中央区測量杭設置等
7月 5 日～	・西区遺構検出作業	8月 30 日～ ・中央区包含層掘削
7月 10 日～	・西区遺構検出作業、下層確認作業 ・東区包含層掘削、下層確認作業	9月 7 日～ ・中央区遺構検出作業
7月 20 日～	・西区遺構掘削作業 ・東区遺構検出作業	9月 8 日～ ・中央区遺構検出作業 ・中央区遺構掘削作業
8月 2 日～	・西区遺構実測作業 ・東区遺構掘削作業	9月 12 日～ ・中央区遺構実測作業
		9月 25 日 ・中央区空中写真撮影
		9月 26 日～ ・重機による埋め戻し開始 ・現場事務所等撤収準備
		9月 29 日 ・埋め戻し終了 ・現場事務所等撤収終了

第2節 調査の概要

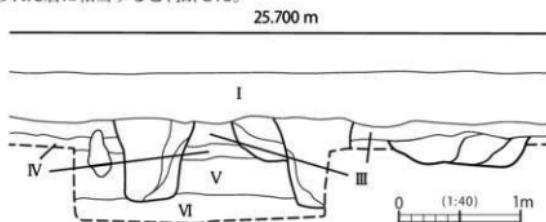
1 基本層序

調査地は小丸川の南岸に伸びる野首丘陵の先端部分の非常に緩やかな斜面を東西に横切る形で設定された。

旧耕作土（I層）が現地表面から30~50cmほど達しており、その下に深い部分で25~30cm程度の黒褐色土（II層）が堆積する。II層中からは縄文時代後期から古代に及ぶ遺物が含まれており、長期間攪拌されていると考えられる。II層は調査区中央付近では耕作により削平され確認できない。その下に縄文時代後期から晩期の包含層（III層）が堆積する。

III層下に間層を挟んで堆積しているV層には、黄褐色バミスが含まれており、アカホヤ火山灰が降灰したのと近い時期に形成されたものと考えられる。VI層については、近辺の崩土遺跡や、野首第1・第2遺跡などで縄文早期の遺物を包含する層に相当すると考えられるが、当遺跡については層中からの当該期の遺物は確認されていない。ただし、後世の遺構の埋土から縄文早期の遺物（第9図34、35）が若干混入している。

VII層については、層の観察結果や層序から、東九州自動車道関係の発掘調査時に「ソフトローム」と名付けられた層に相当すると判断した。

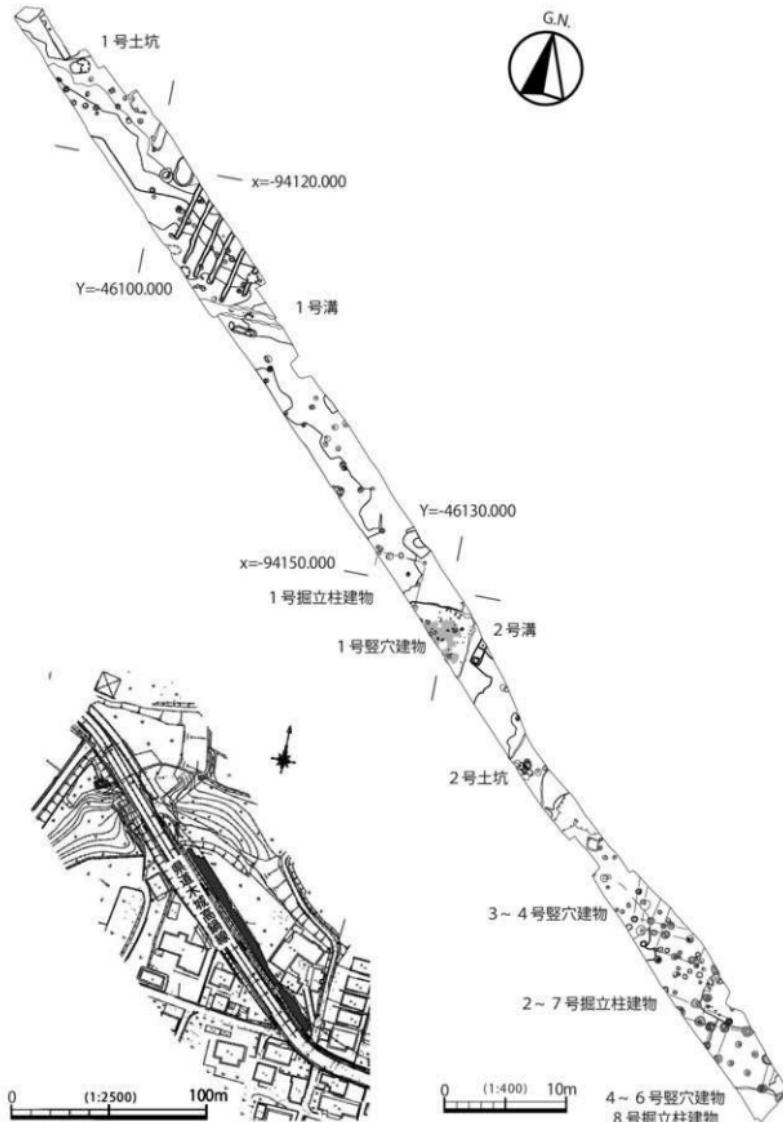


- I : 黒褐 (10YR3/1) 粘土混じり粗砂。炭化物を3%ほど含む。近世以降の耕作、造成土。
- II : 黒褐 (10YR2/2) 粘土混じり粗砂。縄文時代から古代の遺物が混在して含まれる。
- III : 黒褐 (10YR2/3) 粘土混じり粗砂。縄文時代後期から晩期の包含層。
- IV : 黄褐 (10YR3/3) 粘土混じり粗砂。
- V : にぶい黄褐 (10YR4/3) 黄褐色バミスを含む。アカホヤ火山灰を含む層か。
- VI : 褐 (10YR4/4) 粘土混じり粗砂。
- VII : 褐 (7.5YR4/3) 粘土混じり粗砂。白色バミス、褐色土ブロックが混ざる。東九州自動車道関連調査における「ソフトローム」に相当。

第2図 青木遺跡基本層序 (S=1:40)

2 確認された遺構と遺物

青木遺跡では、縄文早期から近代にかけての遺物が出土しているが縄文早期および弥生時代の遺物の出土は希薄である。遺構では、縄文時代晩期の土坑が1基、古墳時代の竪穴建物6軒と土坑1基、古代から中世のものと考えられる掘立柱建物8棟、近世のものと考えられる畠跡および溝状遺構1条、その他、時期不明の土坑や小穴が確認された。



第3図 青木遺跡 周辺地形図 (S=1:2,500) および遺構分布図 (S=1:400)

第3節 繩文時代以前の遺構と遺物

青木遺跡で縄文時代のものと確認できた遺構は1号土坑の1基である。

遺物は、後世の遺構から出土した押型文土器など早期の土器や、古手の石器類などが出土しているが、下層を確認したトレンチからは、遺構、遺物ともに確認できなかった。そのほか、縄文時代の遺物は、主に後世の遺構の埋土やⅢ層中から出土している。

なお、縄文時代と確定できるような遺物や遺構は確認できていないが、時期不明の土坑の中には縄文時代の所産となるものがあるかもしれない。

1 1号土坑(第4図・第5図)

調査区北西端で確認された土坑である。長軸約160cm 短軸100cmで、検出面からの深さは約20cmである。遺構の東半分は樹根により破壊されている。

土坑底面より20cmほど上部の検出面とはほぼ同じ位置でつぶれた状態で縄文晩期の深鉢が出土しており、その内部に、頁岩製の打製石斧が2点、砂岩製の磨製石斧が1点納められていた(第4図)。石斧は全て刃部が潰されており、実用品ではないと考えられる。非実用品を深鉢内に入れ土坑に納めるという行為から、祭祀的意味合いが強い遺構であると判断した。

(1) 出土遺物

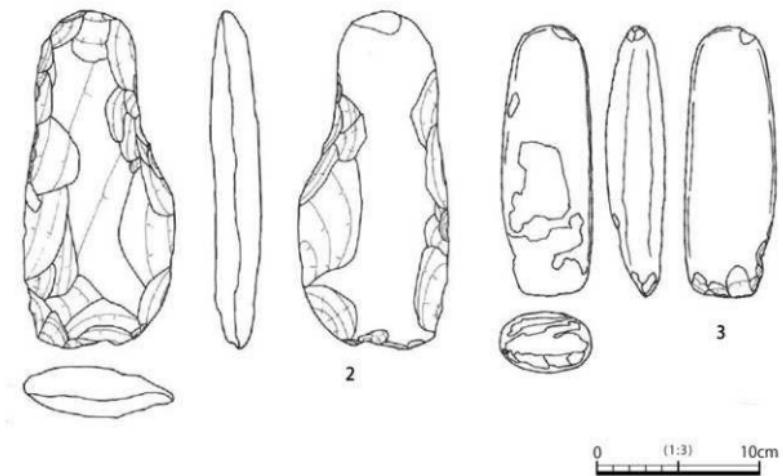
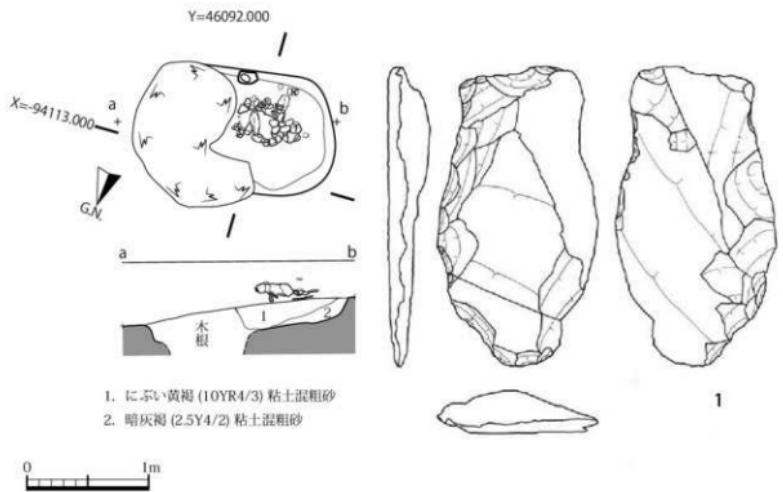
前述したように、深鉢1点に納められた状態で石斧が3点出土している。1は頁岩製の石斧で最大長18.5cmで重量は406gwである。腹面に自然面を1面残す。先端は加工されているが鋭利ではなく、刃潰し加工であると判断した。2は打製石斧で、1よりもやや厚みがある。最大長20.8cm、重量676gwと1よりやや大型である。頁岩製で正面は周縁の加工部分以外は自然面を残す。1同様刃部は鋭利ではない。3は先端部が欠損した砂岩製の磨製石斧で、欠損後に刃部を加工し刃潰しを施しているようである。最大長16.7cm 重量は523gwである。4は砂岩製の台石であると判断した。上面に擦痕跡があり、全体に被熱して周囲が欠損している。重量は4922gw。5は縄文時代晩期の深鉢である。無文で焼成は良好であり内外共に丁寧なナデが施される。胴部が大きく屈曲し平底の底部へと達する。出土した深鉢は全体の半分ほどであり、縱に半裁されたような状態で復元できる。遺構上面は後世の耕作や造成で削平されていたことから、その影響を受けたものと考えられる。

2 遺構に伴わない出土遺物

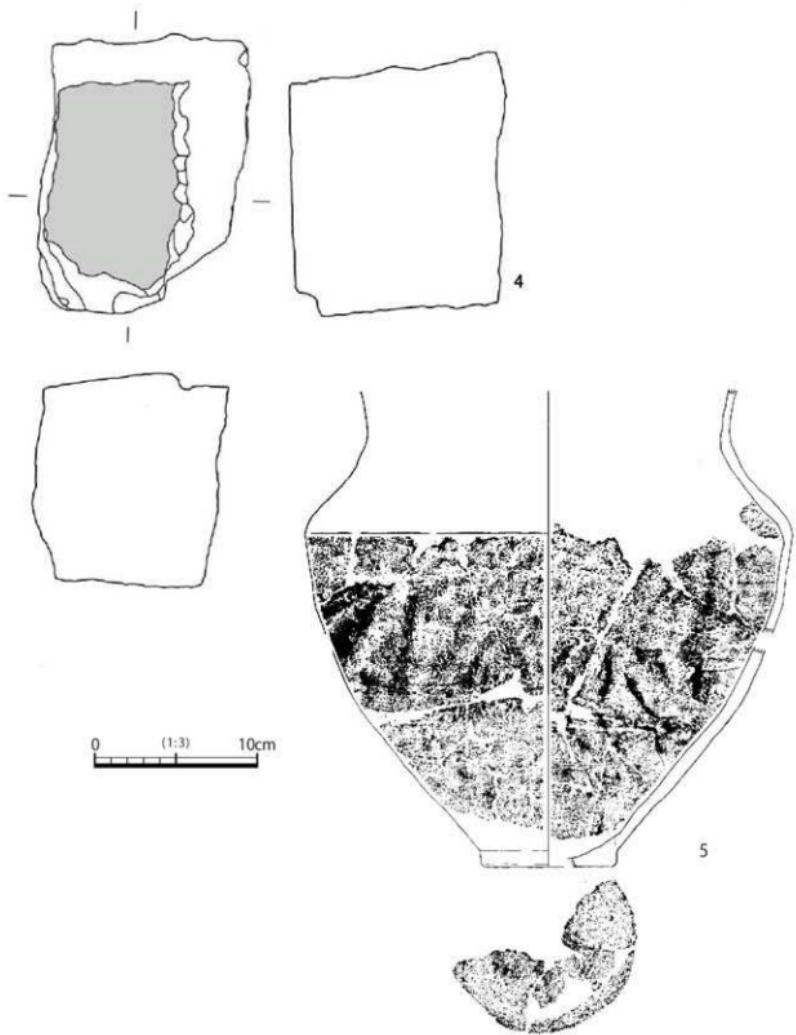
遺構には伴わないが、縄文時代のものと考えられる遺物が主にⅢ層と後世の遺構埋土中から出土している。今回の調査範囲では、縄文時代に比定される遺構は非常に密度が低いが、遺物の出土は比較的多い。崩戸遺跡や野首遺跡など近辺に縄文時代の遺跡も多く、今回の調査区に近接した箇所にも縄文時代、特に後期から晩期にかけての集落が展開する可能性は非常に高いと考えられる。

(1) 石器(第6図～第8図6～33)

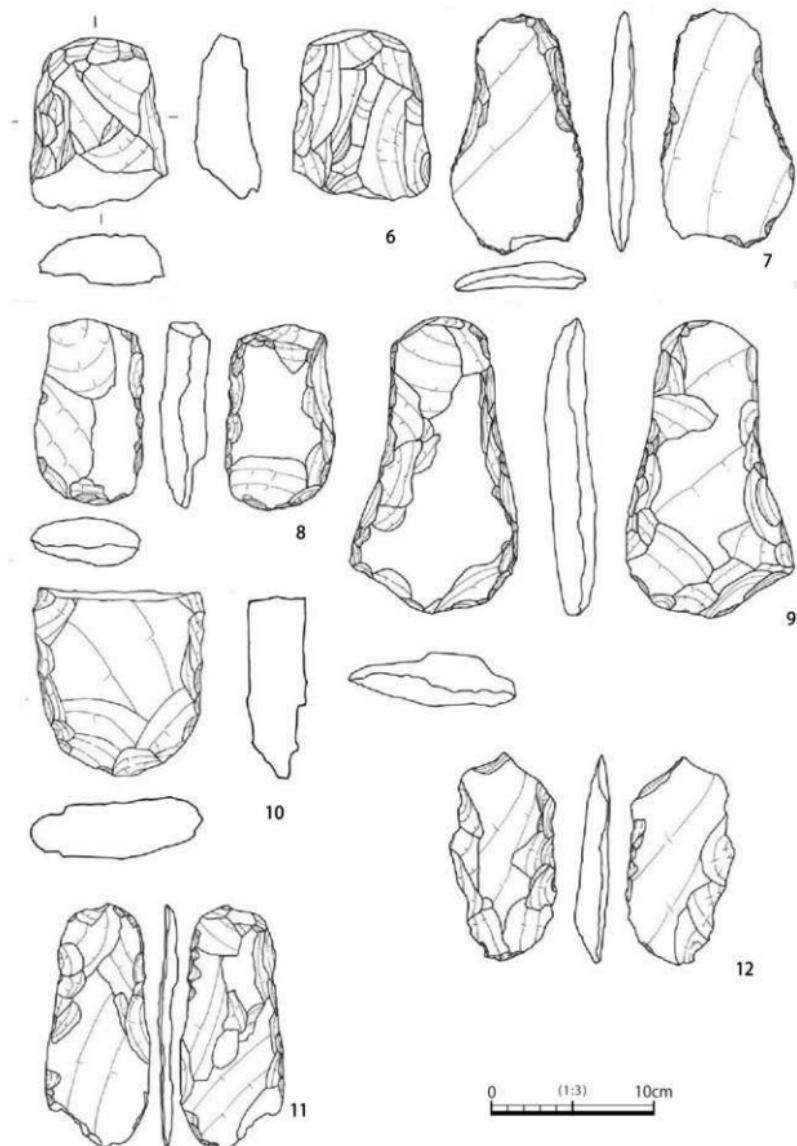
6から33は包含層および後世の遺構埋土から出土した石器である。6～17は打製石斧で、18～24は磨製石斧、もしくはその未成品である。打製石斧は頁岩製で扁平なものが多く、(第6図7、9、11など) 土掘具として使用されたものが主であるようだが、6のようにホルンフェルス製で重厚



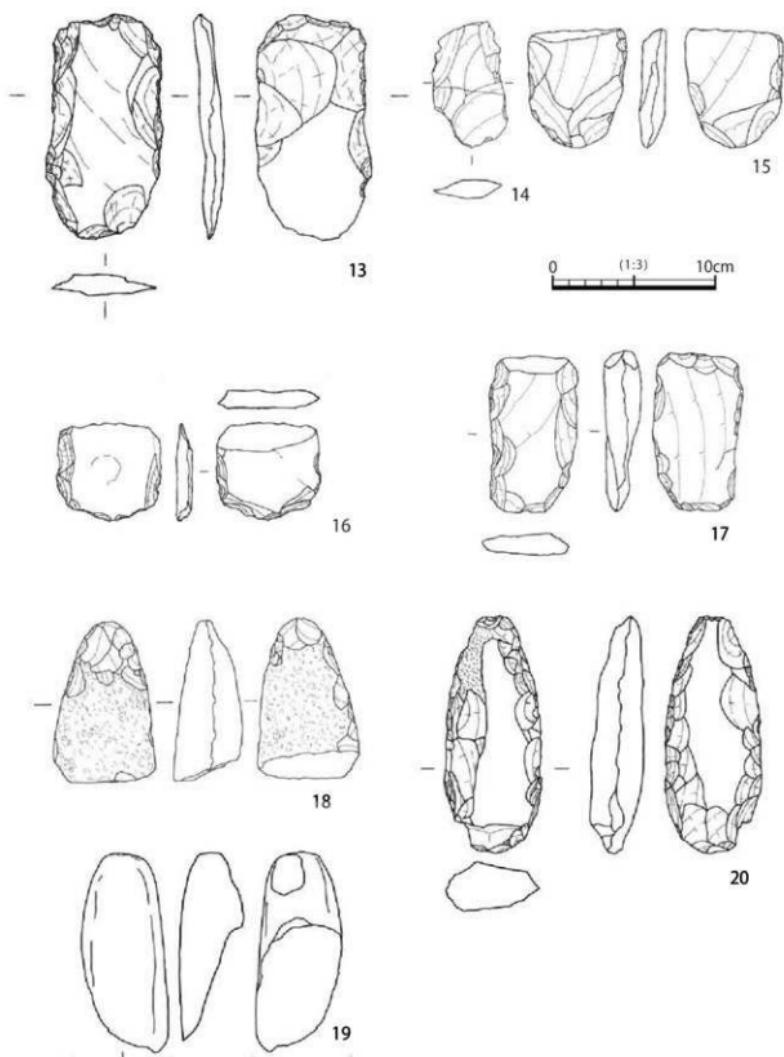
第4図 青木遺跡 1号土坑 (S=1:40) および出土遺物 (S=1:3)



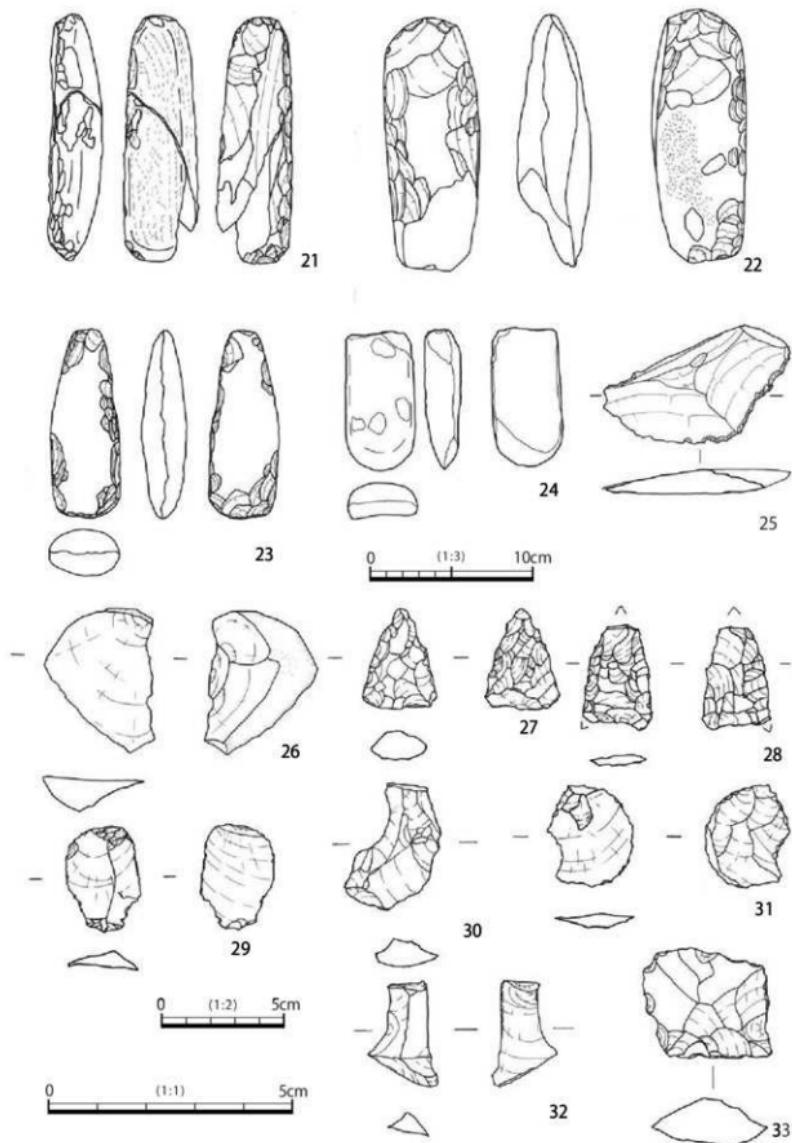
第5図 青木遺跡 1号土坑出土遺物 (S=1:3)



第6図 青木遺跡出土石器 縄文時代① (S=1:3)



第7図 青木遺跡出土石器 縄文時代② (S=1:3)



第8図 青木遺跡出土石器 繩文時代③ (21-25 S=1:3 26・29 S=1:2 27~28・30~33 S=1:1)

なものもある。18から24は未成品を含む磨製石斧と判断した。砂岩、頁岩、ホルンフェルスを使用している。18、19は先端部を欠損している破損品であると考えられるが、20から23は刃部に加工が施され敲打して形状を整えている部分も確認できるが研磨されていない。24はホルンフェルス製の磨製石斧の破片と判断した。表面は風化が激しく調整等が判然としない。

25は頁岩製の剥片石器である。スクレイパーであろうか。26はホルンフェルス製で、製品ではなく母岩の一部であると考えられる。石材の雰囲気から旧石器時代に遡りうる遺物であると判断し今回の報告書に掲載した。

27、28はチャート製の打製石錐で、27は基部や刃部が明瞭に造り出されていないことから未成品の可能性もある。29から33は二次加工や使用痕が確認できる剥片石器である。31が黒曜石製、その他がチャート製である。その他、図化していないが、姫島産黒曜石の剥片が数点確認されている。

(2) 繩文土器（第9図～11図34～86）

石器同様、包含層や後世の遺構の埋土中から相当数の土器片が出土している。多くが縄文後～晩期のもので小片が主である。本報告では図化に耐えうるものについて掲載した。

34、35は檐円押型文土器で、34は口縁部付近の破片で縄文後～晩期の包含層に混入していた。35は体部の破片で後世のピットの埋土中から出土している。下層確認を行ったトレンチからは、縄文時代早期以前の遺物、遺構とともに確認できなかったが、後世の混入遺物として少数ではあるが当該期の遺物が確認できている。37から43は深鉢の口縁部で口縁部下部に突帯をもつものである。ほとんどのものが内外面ともに丁寧なナデ調整が施されている。36の内面については、貝殻腹縁による条痕が確認できる。44から54はその他口縁部に突帯をもたない深鉢の口縁部である。44は内外面に横方向の条痕が施されている。45は外面は丁寧なナデが施され、内面には横位の条痕が確認できる。46の内面は口縁部下部に横位の条痕が巡り、口縁部に2列の連続した刺突文が施される。外面は縦位の条痕の後、横位の沈線が施され口縁部付近は押し引きされた沈線が波状に巡る。また口唇部に1列の連続した刺突文が施される。47の外面は縦位の条痕の後、横位の沈線が施され、口縁部には2列の連続する刺突文が施されている。内面は口縁部付近に二条の沈線が施され、口唇部に押圧する刻みが施されている。48は口縁端部が外反し、外面に斜位の条痕、内面の口縁部付近に二条の沈線が巡る。49は内外面ともに条痕が施される。50は波状口縁をなし、外面は口縁部付近に二列の刺突文、その下部に横位の沈線が施され、内面は三列以上の刺突文が施されている。51は内外面ともに斜位の条痕後に沈線が施され、口唇部に連続する刺突文が施される。52は口縁部が屈曲して直立しており外面に横位の沈線が施される。53は波状口縁をなし、口縁部付近が穿孔されている。穿孔部付近には刻目をもつ突帯がある。また、内外面ともに横位の沈線が施されている。54は袋状の口縁をなし、外面は口縁端部に押圧された刻目を持つ突帯が巡る。斜め方向にも刻目突帯が学校確認できる。また、内外面ともに条痕が確認できる。55から74は深鉢の体部である。55、56は斜位の沈線が互い違いに組み合わされた文様をもつ。57の外面には横位の沈線の間に二列の連続する刺突文が施されている。58は内外面ともに条痕が条痕が強く残り、外面には斜位の沈線が互い違いに施されている。59は外面に斜位の条痕が確認できる。60は外面を縦方向の条痕、内面をナデで調整される。61は外面に貝殻条痕が確認でき、内面はナデ調整が施される。62は縦方向に条痕が確認でき、その後に横方に多条の沈線と連続する刺突文が施されている。63の外面は縦方向の条痕の後、山形の短沈線文が二列施される。64は内外面ともに丁寧

にナデが施されており、外面には斜方向に突帯が貼り付けられている。突帯には連続する刺突文が確認できる。65は外面に横方向の波状の沈線と連続する刺突文が施されている。66は外面に縦方向の撫糸文が確認できる。67は縦横に連続する沈線が施され、横方向の沈線に沿って刺突文が確認できる。68の外面は縦方向の沈線のうち横方向に緩やかな波状の沈線が巡る。69は斜方向に沈線を施した後、横方向に沈線を巡らせ、それに沿って連続する刺突文を施している。70は器表面がかなり劣化しているが横方向の貝殻条痕が確認できる。71は内外面ともにナデを施しており、外面はその後に横方向の沈線が施されている。72の外面は、縦及び斜方向に短沈線が施された後に、斜及び横方向に刻目をもつ細い突帯が貼り付けられている。73の外面は縦や斜方向に条痕を施した後、横方向に連続する刺突文が施されている。74は内外面ともに丁寧にナデであり、胸部が明瞭に屈曲している。

75から78は深鉢の底部で、75と76は上げ底、77と78は平底である。75は深く湾曲しながら上げ底をなすのに対し、76は高台状の底部である。77は底部内面と体部内面の接続が直線的であるのに対し、78はやや緩やかに接続される。

79から86は黒色磨研系の浅鉢である。79から82は口縁部付近の破片で、79～81は大きく外反した口縁部端に二次口縁を貼り付けている。いずれも内外面ともにミガキを施している。82は二次口縁を形成せず直線的に立ち上がり、外面には口縁部に沿って二条の沈線が施されている。内外面とともに丁寧にミガキが施される。83から86は浅鉢の体部である。83は浅鉢の肩部で残存部下端で大きく内側に屈曲する。87は浅鉢の底部近くの破片で、外側に開き胴部途中で明瞭な稜をもち大きく外反する。85は体部の屈曲部から上部の破片で、屈曲部からやや直立気味に外反している。86は丸みを帯びた体部をもち、頭部を成し、口縁部は外反する。いずれも外面はミガキが施され、内面はナデ調整である。

3 小結

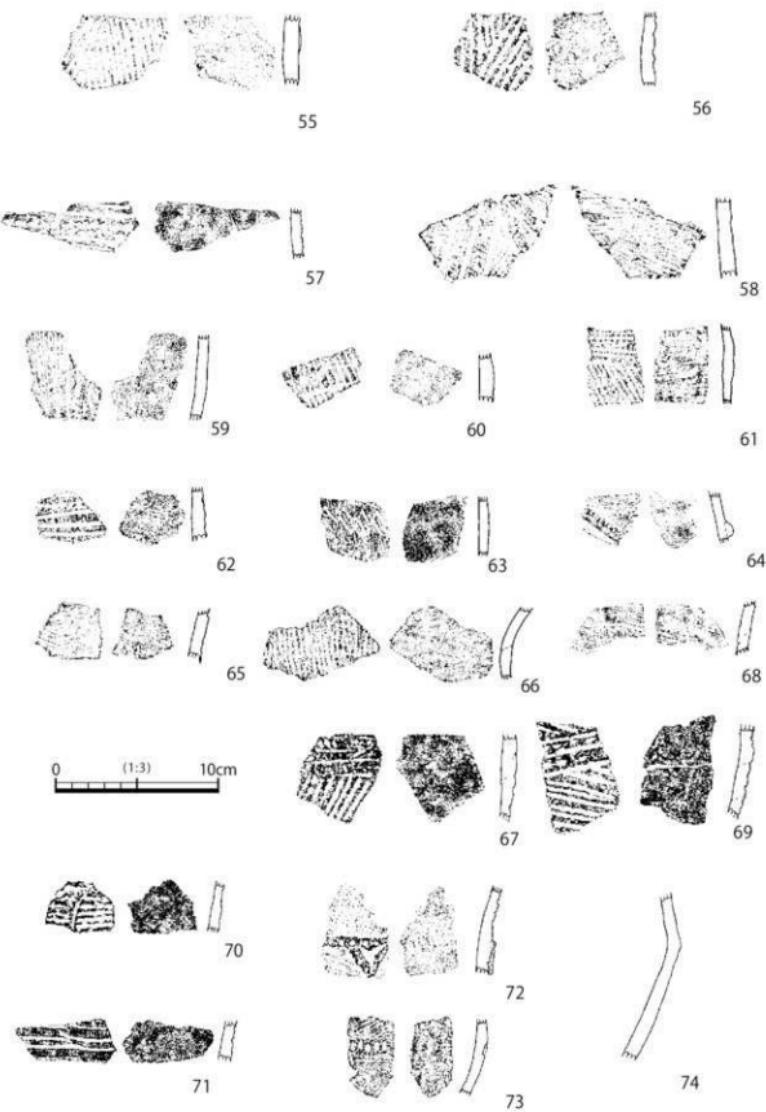
今回の調査では、確実に縄文時代の遺構として捉えられたものは1号土坑のみで、その密度は非常に希薄であったが、出土した遺物は決して少なくなく、石斧の未成品と考えられるものが多く見つかるなど、ごく近接した地域に後～晩期の集落が展開する可能性は大きい。以前、東九州自動車道関連で調査された野首第2遺跡（宮崎県埋蔵文化財センター2008）では、今回、青木遺跡で主に出土している縄文時代の遺物の時期とほぼ重なる比較的大規模な集落が展開しており、野首丘陵下にも同時期の集落が展開している可能性が高い。

1号土坑については、深鉢内に実用品でない石器を納めて埋めていたことから、祭祀的性格の強い遺構と考えたが、そうでであったとしても、1基だけの確認という制約や、また、今まで類例の確認ができていないこともあり、具体的な目的を推察しかねる状態である。製作途中の未成品を埋納した可能性も残しておきたい。

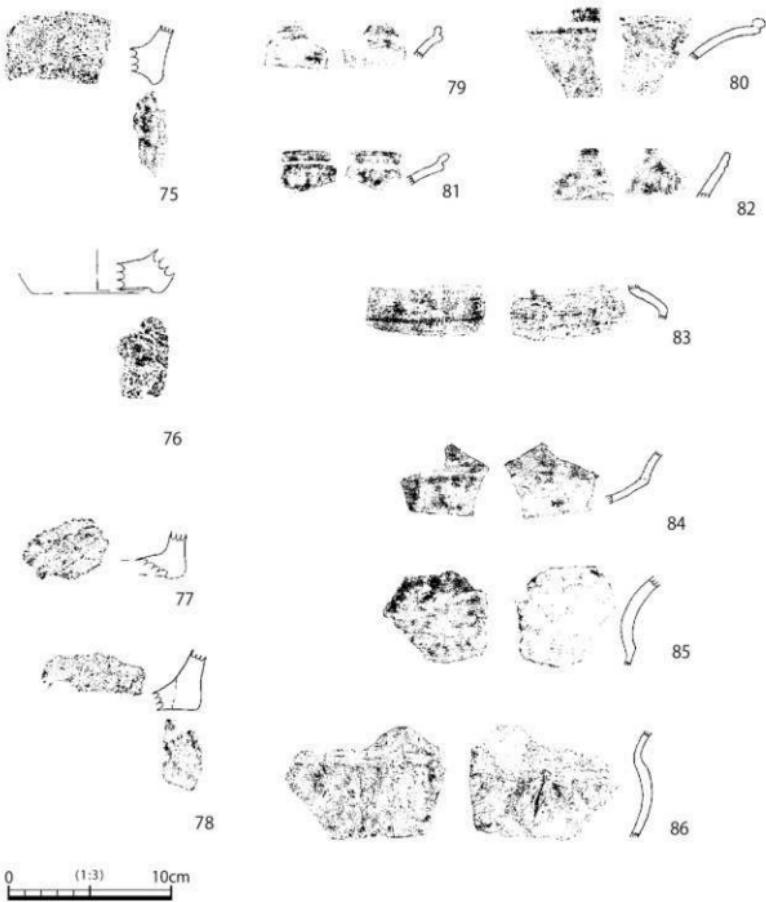
縄文時代早期については隣接する崩戸遺跡（宮崎県埋蔵文化財センター2005）や野首第1遺跡（宮崎県埋蔵文化財センター2004）でも多くの遺構・遺物が確認されている。今回は遺構は確認できず遺物量も非常に希薄であったが、過去の調査例からは早期の遺跡が近辺に広がっていることが強く示唆されている。



第9図 青木遺跡出土縄文土器① (S=1:3)



第10図 青木遺跡出土縄文土器② (S=1:3)



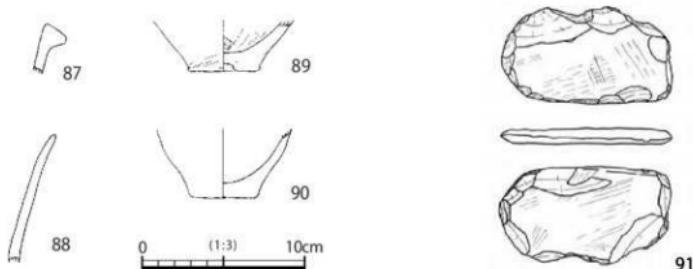
第 11 図 青木遺跡出土縄文土器③ (S=1:3)

第4節 弥生時代の遺物

今回の調査では弥生時代の成果は非常に希薄であった。わずかに壺類と石包丁の未成品が出土したのみである。

87から90は弥生土器の壺である。87は口縁部で浅い沈線を持つ突帯が巡る。88は長頸壺の口縁部から頸部の破片で、調整は器表の劣化により判断としないが、内外面ともにナデ調整されているようである。89と90は壺の底部で、89は外面がタタキを施した後ナデ調整、内面はハケメ調整が確認できる。90は画面の調整は器表の劣化のためはっきりしないが、ミガキが施されていると判断した。91は頁岩製で石包丁の未成品と判断した。

前述したように、今回の調査における弥生時代の成果は非常に少なく評価が難しい。今後の近辺の情報の蓄積を待ちたい。



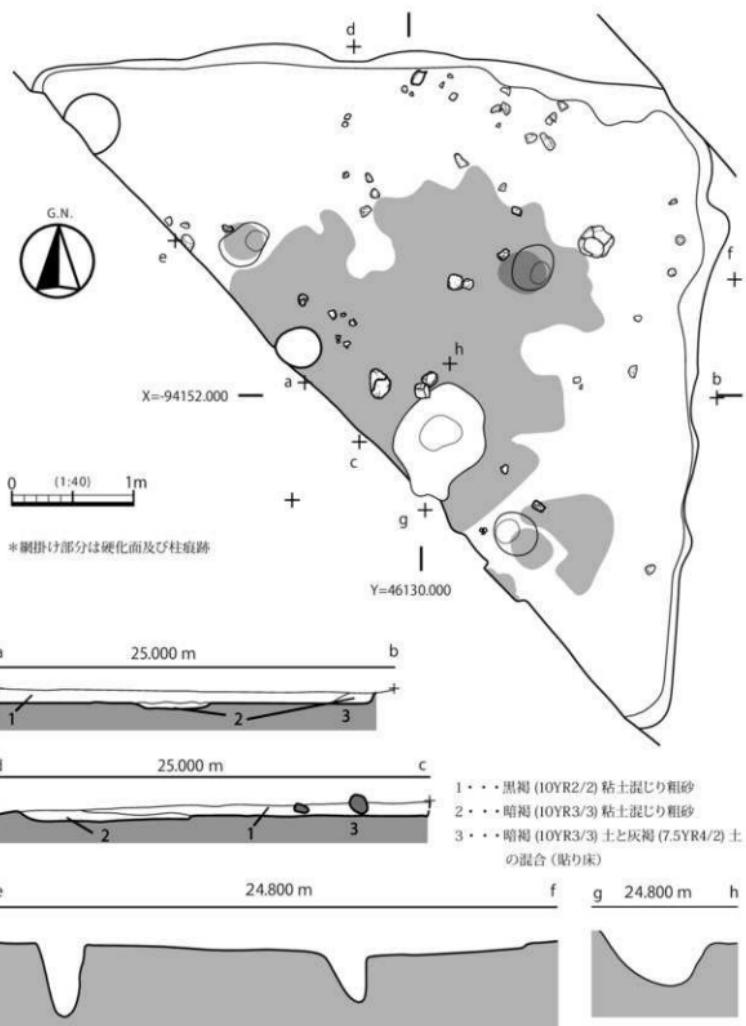
第12図 青木遺跡出土遺物（弥生時代）(S=1:3)

第5節 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構としては、竪穴建物跡6軒と土坑が1基確認されている。竪穴建物は古墳時代中期初頭から古墳時代終末期にかけて構築されたものである。調査区南東側については遺構の重なりが多く出土遺物にはかなりの混入がみられる。

1 1号竪穴建物（第13図）

調査区のほぼ中央で確認された竪穴建物である。各辺が調査区を超えており正確な計測値が確認できないが、一辺5m強である。主軸はほぼ南北に併行しており、南西側がほぼ対角線上で調査区外となっている。調査区の南側は県道で大きく削平されていることから、県道施工時に南西側は破壊されていると考えられる。主柱穴は調査範囲内で3本検出されており、床面からの深さは40cm～60cmである。中央からやや南東寄りに土坑が1基確認され、焼土を含むことなどから屋内炉と判断した。また、

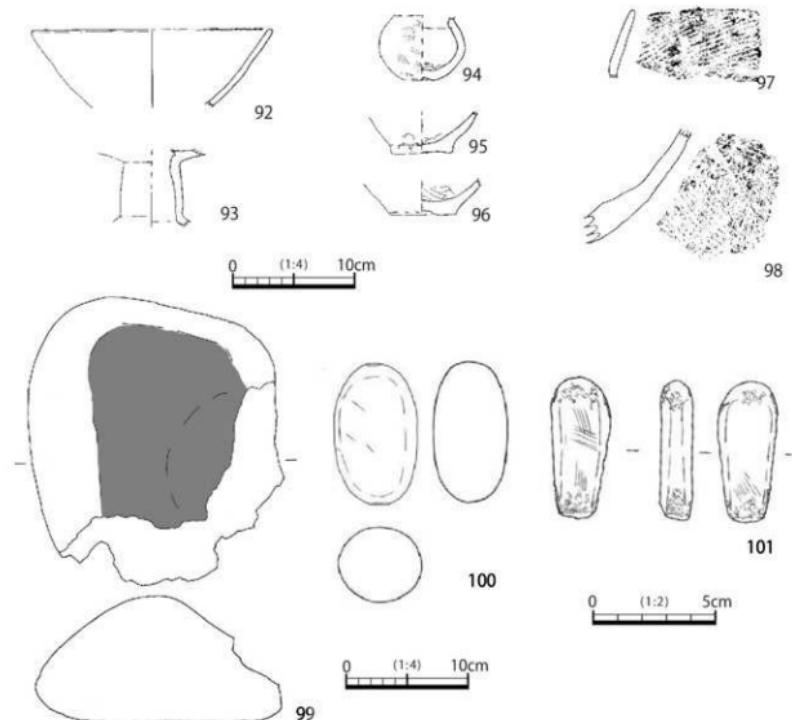


第13図 青木遺跡1号竪穴建物 (S=1:40)

硬面が主柱で囲まれた範囲で確認されている。床面は検出面から10cm程度と非常に浅く、上部のかなりの部分が削平されている。周壁溝は確認できていない。

(1) 出土遺物 (第14図 92~101)

92と93は高坏で、92は坏部、93は脚柱部である。92は口縁部に向かって大きく開く形状をしており内外面ともにナデ調整が施される。93はエンタシス状を成し、内外面ともにナデ調整が施されている。94から96は壺である。94は小型丸底壺の系譜をひく平底の小型壺で内面はナデ、外面はヘラミガキで調整されている。豊穴建物の北東に直立した状態で出土した。頸部から上を欠くが、削平時に破壊されたと考えられる。95はやや上げ底気味の底部を成しており、内外面ともにナデ調整がされている。96は高台状の底部をもち、外面をナデ、内面を工具によるナデで調整されている。97と98は甕である。97は口縁部で外面に平行タタキが施されている。98は底部付近の破片で、97と同様に平行タタキが施される。99は台石で、中央が窪み表面の風化が激しい。100と101は敲石で、両端に敲打痕が確認できる。また、100、101ともに表面に擦痕が残り、擦石や砥石としても使用されたと考えられる。



第14図 青木遺跡1号豊穴建物出土遺物 (92~99 S=1:4 100・101 S=1:2)

(2) 遺構の時期

出土した遺物は決して多くないが、94は出土状況から住居の廃棄時期を示すものと考えられる。94は5世紀初頭に位置づけられる（今塙屋毅行・松永幸寿 2002）もので、その他の遺物も5世紀前半に位置づけて差し支えないものなので、1号竪穴建物の時期は5世紀前半と判断した。

2 2号および3号竪穴建物（第15図）

2号および3号竪穴建物は調査区の東側や北寄りに重なって検出された。削平が激しく壁などは明瞭に検出できていない。調査区外の部分が多く形状や規模は明確にしがたいが、検出状況から、少なくとも1辺4mを超えると考えられる。主柱穴の判断は困難であるが、調査範囲で検出された小穴のうち可能性があるものを図示した。貼り床や周壁溝などの付属施設は確認できていない。土層断面の確認から、2号竪穴建物が3号竪穴建物に先行すると判断した。

(1) 出土遺物（第16図102～111・第17図112～115）

両竪穴建物が重なっており、限られた調査範囲も影響してどちらに帰属する遺物であるか判断が困難であるため、出土遺物をまとめて報告する。

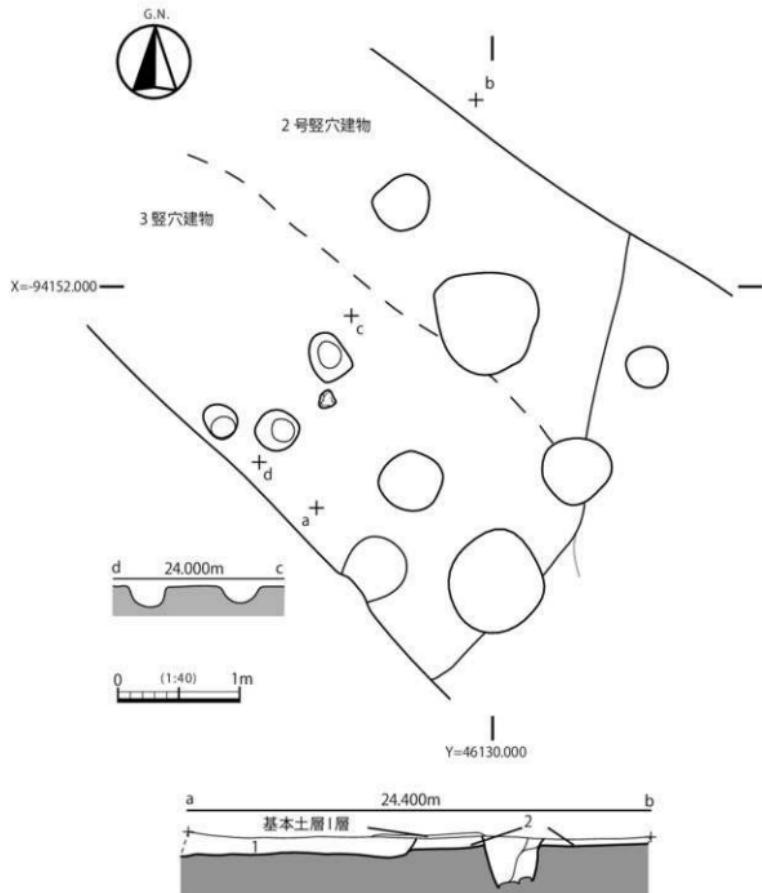
102から104は須恵器である。102は環蓋で口縁部から底部にかけての変換部分に鋭く明瞭な稜がある。103は环身で、104は立ち上がりが比較的高い。受け部端が欠けており、打ち欠かれた可能性がある。102と103についてはともにTK23からTK47型式のものと考えられる。104は環蓋のつまみである。両竪穴は古代以降のものと考えられる掘立柱建物と重なっており、後世の混入の可能性も高い。105から111は土師器である。105と106は壺形土器、105はやや肩部が張る。調整は外面が丁寧なナデ、内面は工具を使ったナデが施される。107は高杯の环部の破片で内外面ともにナデ調整が施されている。108は壺型の土器で、外面には格子のタタキ目が残る。内面はナデ調整されているが焼成は甘く全体に作りが粗い。109から111は甕で、109は110と同様に外面に格子のタタキが施され内面がナデ調整される。焼成が甘く作りは粗い。110の外面はタタキ後にナデ調整が施されており、108、109に比較して焼成もよくやや丁寧なつくりをしている。111は甕の底部付近の小片で、外面に平行タタキが確認できる。

112から114は石製品で、112、114は蔽石、113は台石であると判断した。114は表面に擦痕が確認できている部分もあり、砥石などとしても使用されたと考えられる。113は一部被熱して赤化した部分もあり、金床石の可能性もある。

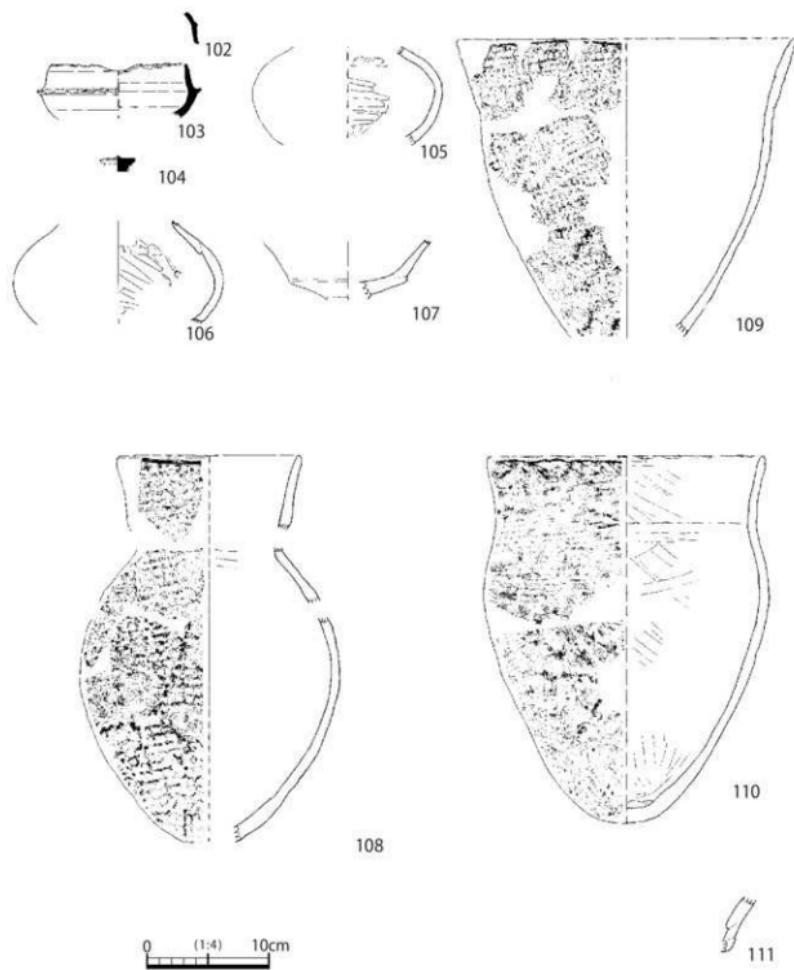
115は底部がヘラ切りの土師皿で、口縁部の一部にススが濃く付着しており、灯明皿として使用されたものと考えられる。形状から中世から近世にかけての遺物と考えられ、遺構が後世の破壊を受けており、このような遺物が混入する状態であることを示すために掲載した。

(2) 遺構の時期

出土遺物では、須恵器はTK23～47併行、土師器は高杯、小形の壺が5世紀前半葉、甕類などが5世紀の後半から6世紀の前半にかけてのものと考えられる。明らかに後世の混入であるものを除けば、5世紀の前半から中葉にかけてのものと、5世紀の後半から6世紀の前半にかけてのものに分かれそうである。以上のように出土遺物の検討と、土層断面の観察から、先行する2号竪穴建物が5世紀の中葉前後、3号が5世紀の後葉前後としてとらえておきたい。



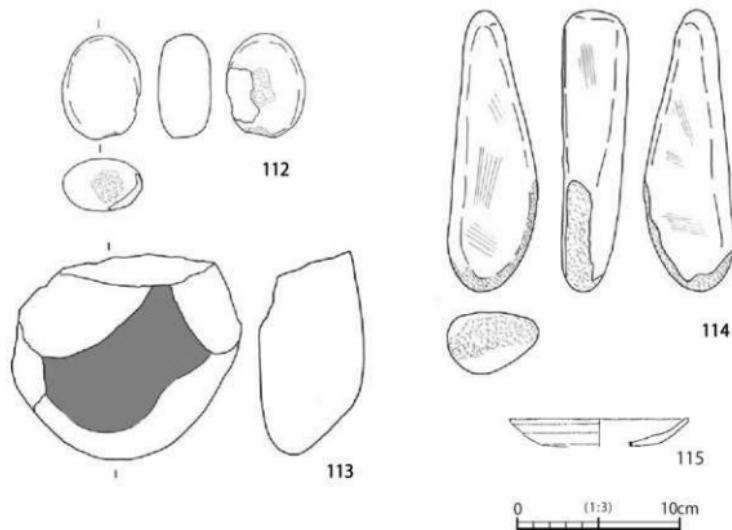
第15図 青木遺跡 2号および3号竖穴建物 (S=1:40)



第16図 青木遺跡2号および3号竪穴建物出土遺物① (S=1:4)

3 4号竪穴建物(第18図)

4号竪穴建物は、調査区の東側で確認された。主軸は座標北から10度ほど東に振れる。調査外の部分が多く規模や形状が明確ではないが、方形であれば少なくとも1辺が5m以上になる。貼り床や周壁溝は確認できていないが、西壁に白色の粘土が集中した箇所があり、竈などの痕跡である可能性が考え

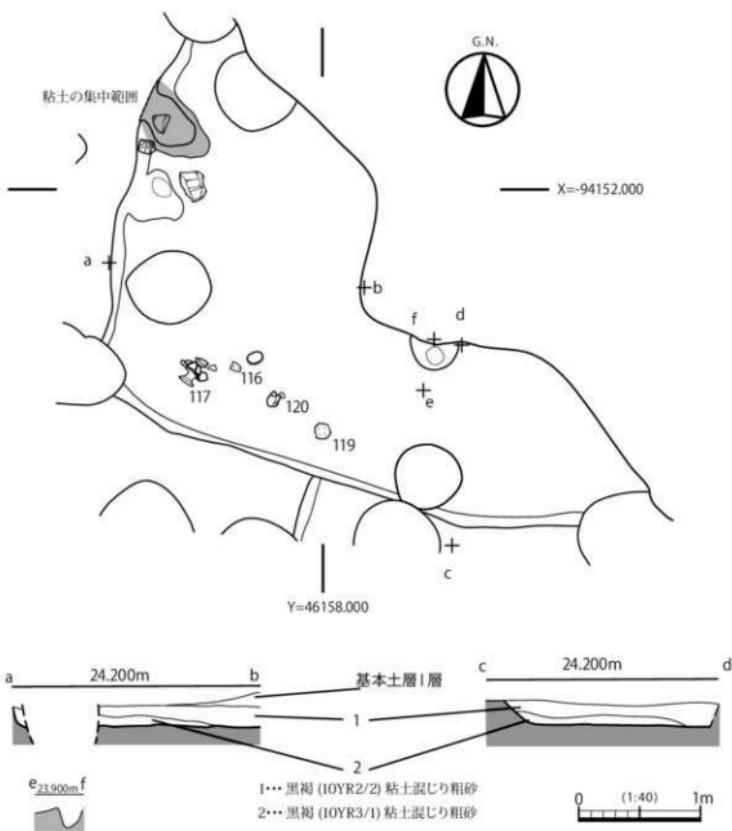


第17図 青木遺跡2号および3号竪穴建物出土遺物② (S=1:3)

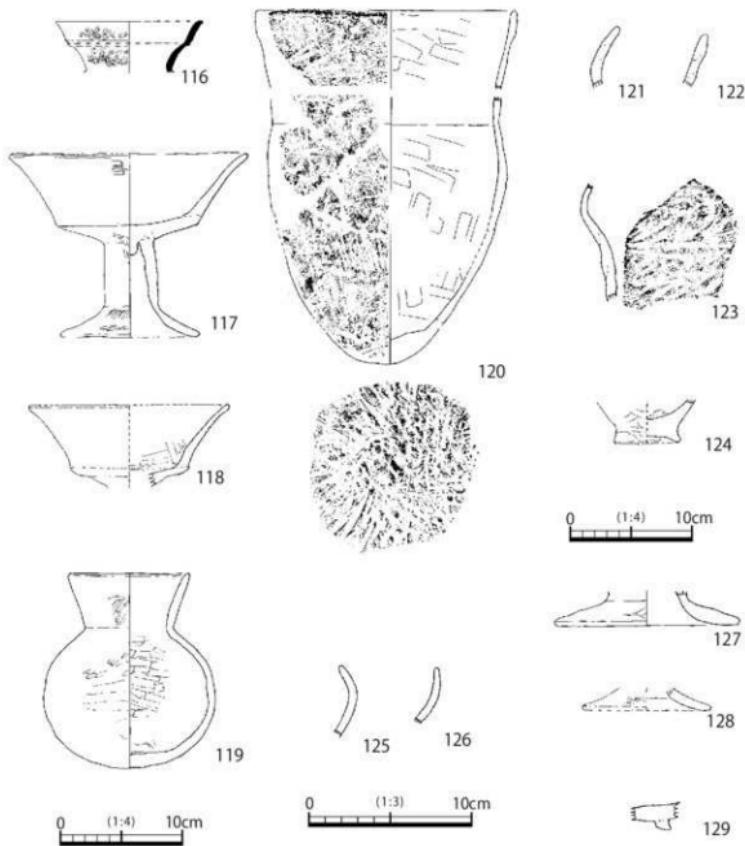
られる。主柱穴と確定できるものは確認できていない。検出面からの深さは20cmほどあり、今回の調査範囲で確認された竪穴建物では遺構の残存状況は比較的良好である。

(1) 出土遺物(第19図 116~129・第20図 130~134)

116は須恵器である。形状から壺、もしくはハソウの口縁部から頸部と考えられる。117と118は土師器の高環である。117は竪穴建物の南西隅付近で完形のままつぶれた状況で出土しており、住居の廃棄時期を示すものと考えられる。内外面ともにヘラミガキで調整されている。118は117に比べやや粗い作りで内外面ともにナデ調整される。119は壺で外面はヘラミガキと工具によるナデ、内面は工具によるナデで調整される。120から124は壺で、120は外面はタタキの後ナデが施され、内面は工具によるナデで調整される。121、122は口縁部付近の破片で、内外面とともにナデ調整されている。123は外面がタタキ後ナデ、内面がナデ調整される。124は甕の底部で上げ底状をなし、内外面とともに主にナデ調整される。125、126は鉢の口縁部の破片で、125は内外面ともにナデ、126の調整は器表の風化が激しく明瞭ではないが、ヘラミガキが施されているようである。227と228は脚付鉢の脚部で、127は内外面ともにナデ調整、128の外面はヘラミガキが施されている。129は高台付环の底部である。130から134は敲打の痕跡が残る敲石や台石である。被熱して赤化したものもあり、鍛冶関連遺物の可能性も考え掲載した。



第18図 青木遺跡4号竪穴建物 (S=1:40)

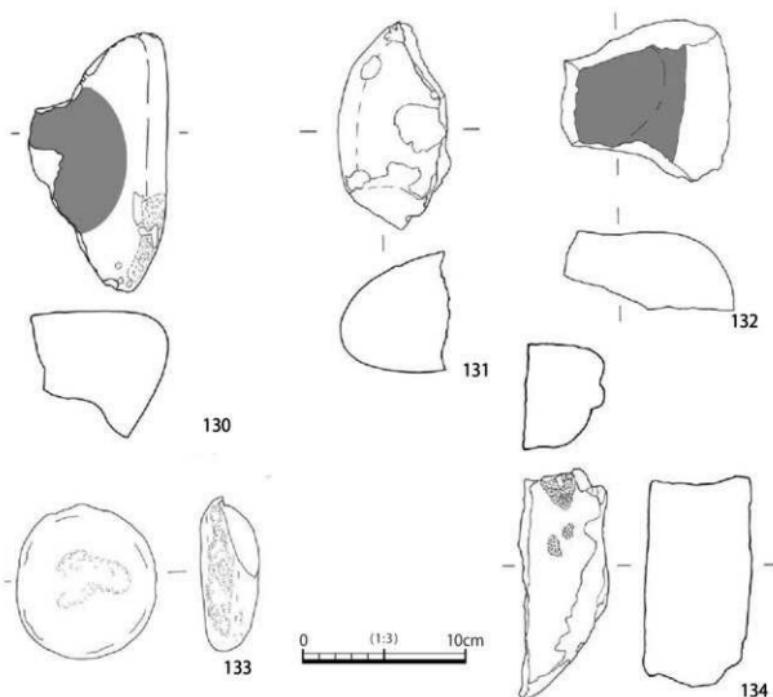


第19図 青木遺跡4号竪穴建物出土遺物① (116~124 S=1:4 125~129 S=1:3)

(2) 遺構の時期

ほぼ完形で出土した高杯117は、5世紀の前半代におさまる形状である。ただし、119や120などは5世紀の後半代以降に位置づけられるものと考えられる。前述のように117は竪穴建物廃棄時に伴うものと考えられ、119や120も出土状況から竪穴建物に伴う可能性が高い。

以上から、4号竪穴建物の時期は5世紀中葉前後と考えたい。



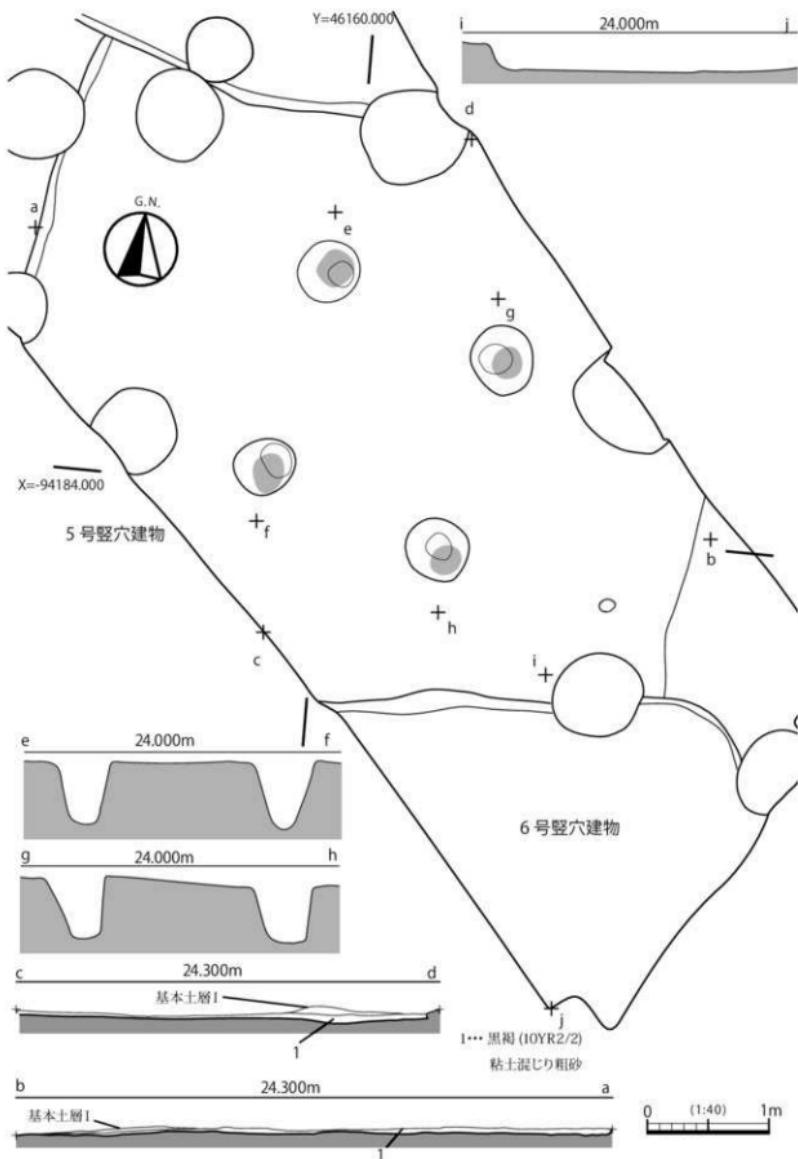
第20図 青木遺跡4号竪穴建物出土遺物② (S=1:3)

4 5号および6号竪穴建物（第21図）

調査区の東南端で確認された竪穴建物である。両遺構ともに調査区外に位置する部分が多く、規模や形状を確定することは困難であるが、5号竪穴建物は少なくとも一辺5mを超える建物であると考えられる。5号は主柱穴が4本確認でき、床面からの深さは44cmから52cm程度である。床面は全体にやや硬化しているが、貼り床等を施した形跡はない。検出面からの深さが数cm程度と非常に浅く、遺構上部は後世の造成等により破壊されている。6号については北東部分が一部検出されているのみで、規模等は不明である。貼り床、周壁溝などの屋内施設は確認できていない。検出面からの深さは20cm前後である。

(1) 出土遺物（第22図 135～153・第23図 154～175）

135から139は須恵器である。135と136は環蓋で内外面ともに回転ヨコナデ、外面には回転ヘラケズリも施される。137は环身で、受部端が欠けており打ち欠きの可能性もある。138は透かしをもつ高环の脚部端である。139は甕の胴部片で外面に格子のタタキ、内面に同心円のアテ具痕跡が残る。140から153は土師器の甕である。140、141は球胴で口縁下部で外に屈曲するものの、142はやや長同で口縁部が直線的に立ち上がる。外面には格子のタタキ目が確認できる。143から147は甕の口縁

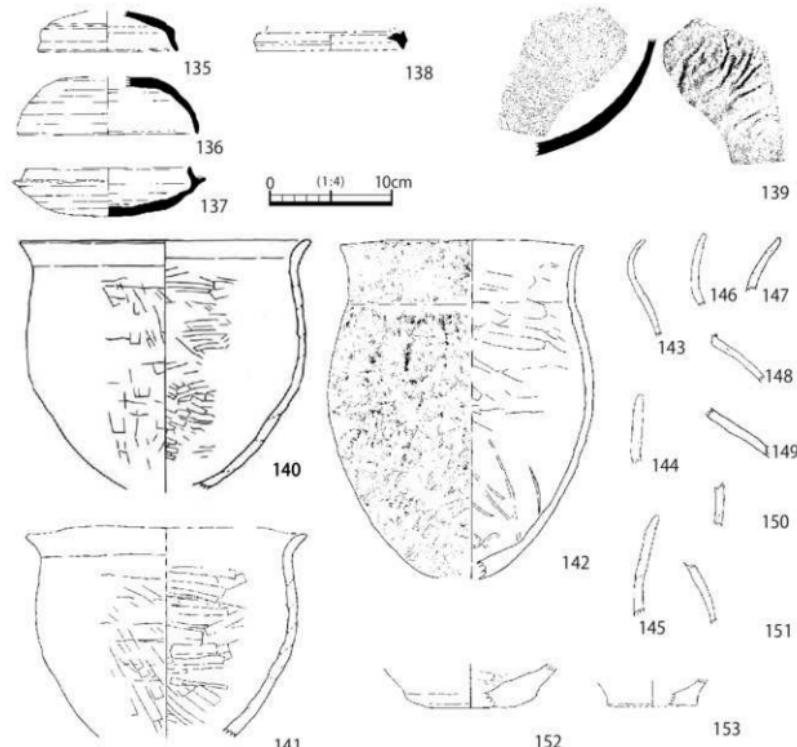


第21図 青木遺跡5号および6号竪穴建物 ($S=1:40$)

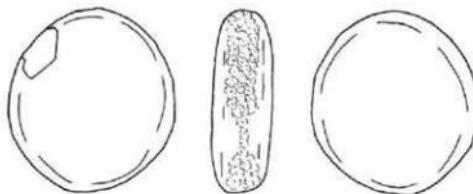
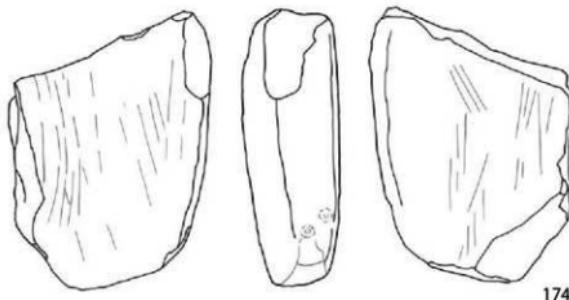
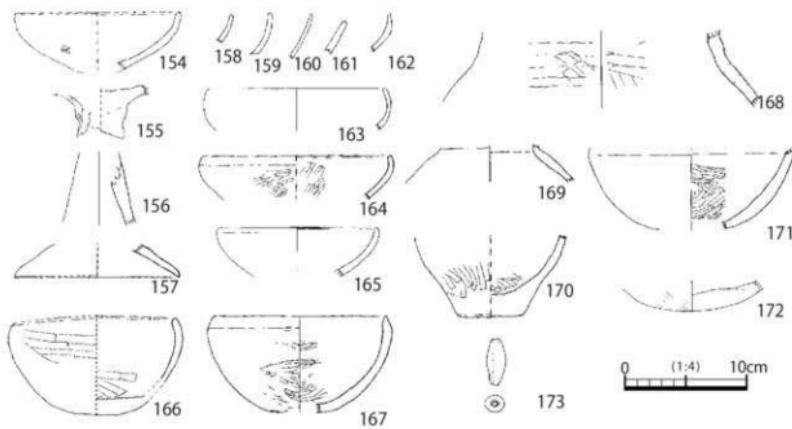
部の破片、148から151は甕の胴部の破片で、150は外面に格子のタタキ、148と151には平行タタキが確認できる。152と153は甕の底部で152はやや丸底、153は平底をなす。154から157は土師器の高杯で154は杯部、153は杯部と脚柱部が接する部分、156は脚柱部、157は裾部の破片である。158から167は鉢で、165、167は内外面ともにヘラミガキが施されている。166は内外面ともに工具によるナデが確認できる。168から172は壺の破片で、168、169は肩部、169から170は底部付近の破片である。173は土錘である。174は砥石、175、176は敲石である。177は台石である。178は管玉で淡い緑色である。石材は緑色凝灰岩か。

(2) 遺構の時期

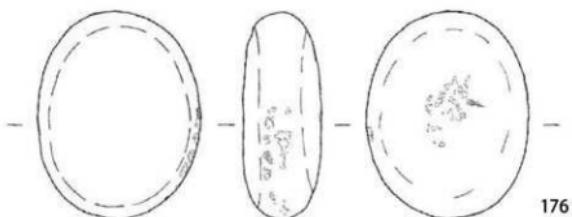
出土遺物の共伴関係、帰属をとらえきれないが、比較的完形に近い遺物の時期を確認すると、須恵器の135-137、土師器甕140、141などは6世紀末葉、土師器甕142、土師器鉢166、167などは5世紀後葉に位置づけられる。従って、5号に先行する6号竪穴が5世紀後葉、5号竪穴が6世紀末葉をそれぞれ前後する時期と考えておきたい。



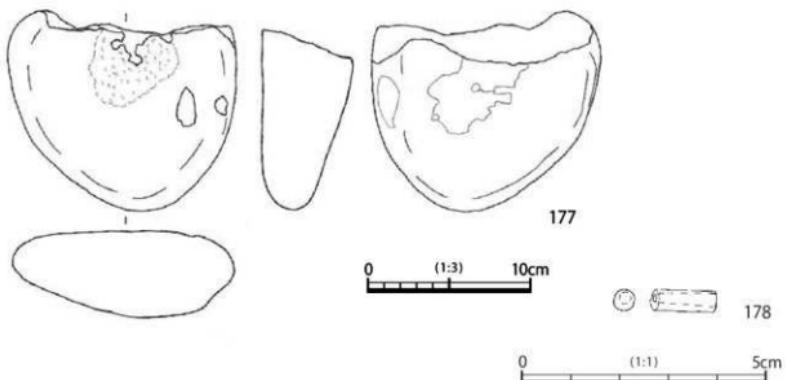
第22図 青木遺跡5号および6号竪穴建物出土遺物① (S=1:4)



第23図 青木遺跡5号および6号竪穴建物出土遺物② (154~173 S=1:4 174・175 S=1:2)



176



177

178

第24図 青木遺跡5号および6号竪穴建物出土遺物③ (176~177 S=1:3 178 S=1:1)

5 2号土坑(第25図)

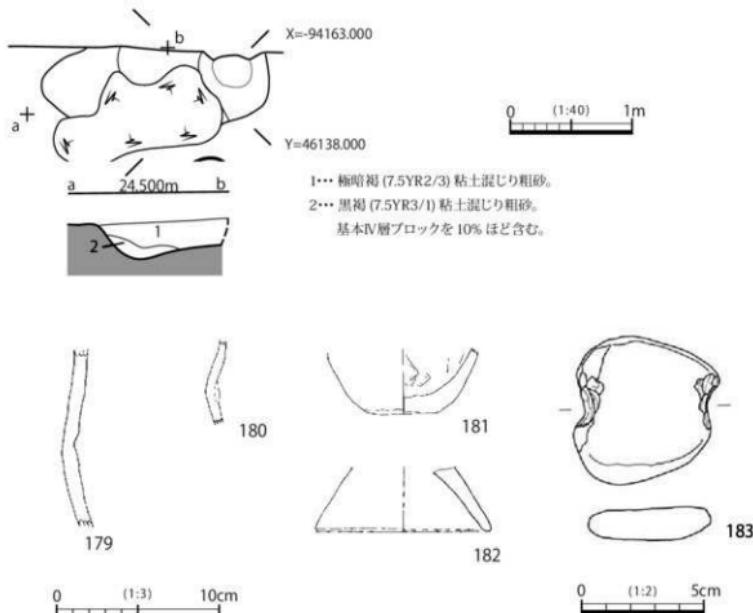
2号土坑は調査区の中やや東寄りで確認された土坑である。不正形で木の根や後世の攪乱によって遺構のかなりの部分が破壊されていた。性格等は不明である。長軸は180cm、検出面からの遺構の深さは40cm程度である。

(1) 出土遺物(第25図179~183)

179と180は甕の頸部の破片である。179は外面に平行タタキが施されている。180は頸部に幅広の刻み目突帯が巡る。181は鉢の底部と判断した。182は脚付鉢の底部で、内外面ともにナデ調整が施される。183は頁岩製の石錘である。

(2) 遺構の時期

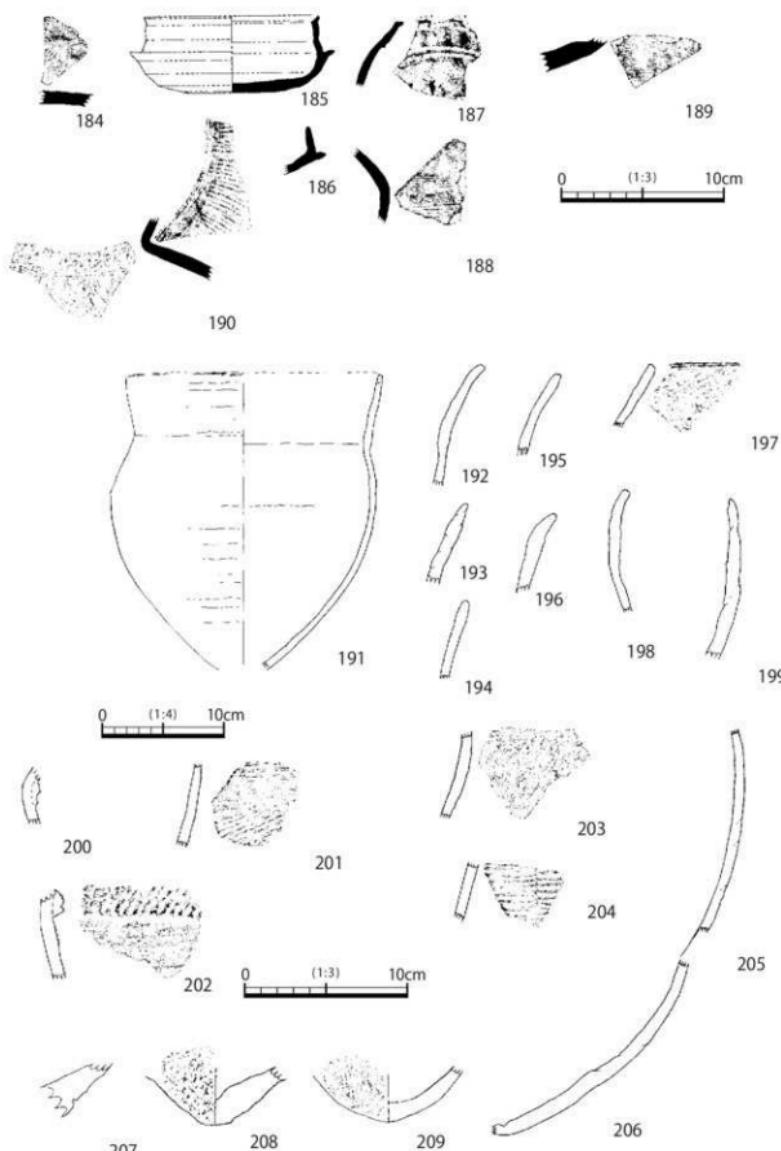
出土した遺物に縄文土器や弥生土器が含まれておらず、古墳時代の土師器のみであったことから、古墳時代の遺構と判断した。出土した遺物に詳細な時期を確認するのに適当な部位がなく、具体的な時期は類推できなかった。



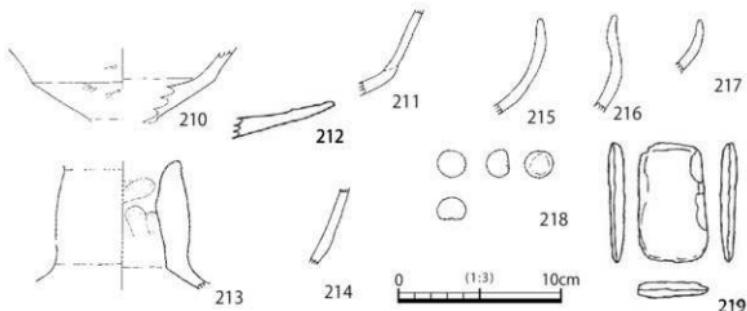
第25図 青木遺跡2号土坑 (S=1:40) および出土遺物 (179~182 S=1:3 183 S=1:2)

6 遺構に伴わない出土遺物 (第26図 184~206・第27図 210~219)

184から219は古墳時代の遺構に伴わない遺物である。184から190は須恵器で、184は壺蓋で天井部に同心円のアテ具で施している。185と186は壺身である。185は立ち上がりが高く日向では古手のものとなる。TK216型式に併行するものか。187は壺の口縁で、形状からハソウの可能性が高い。188は壺の肩部で、外面はカキ目調整がなされ櫛描波状文が巡る。189は壺の底部付近と判断した。全体にカキ目が巡る。190は壺の肩部で外面は平行タタキ、内面には同心円のアテ具痕が確認できる。191から209は土師器の甕である。191は内外面ともにナデ調整で粘土紐の繋目が残る。192から199は甕の口縁部で、197の外面には格子のタタキ目が残る。200から206は甕の体部の破片で、200には刻目突帯が巡る。201は外面に平行タタキが確認できる。202は調査区に接した箇所で採集された資料で、頸部に刻目突帯、胴部に格子のタタキが確認できる。焼成は非常に良い。205、206は甕の胴部で内外面ともにナデ調整が施される。207から209はやや尖底状をなす甕の底部で、208は外面に格子目タタキの痕跡が、209は平行タタキが確認できる。210から213は高杯で、210から212は壺部、213は脚柱部である。210は外面にヘラミガキが確認できる。217は内外面ともにナデ調整が施されている。215から217は鉢の口縁部である。内外面ともにナデ調整が施されている。218は土製の玉で、底面が平たく安定するようになっている。使用目的等が不明であるが、胎土や焼成から古墳時代のものと判断した。219はホルンフェルス製で扁平な石斧状の石器で、202同様に調



第26図 青木遺跡出土遺物 古墳時代① (184~190・194~209 S=1:3 191 S=1:4)



第27図 青木遺跡出土遺物 古墳時代② (S=1:3)

査区近くで採集された資料である。202、219については今回の調査区と連続する箇所の資料であり、遺跡の評価にも影響を与えると考え掲載した。

第6節 古代から中世の遺構と遺物

古代から中世にかけては掘立柱建物が8棟が確認できた。詳細な時期を示す資料はないが、掘立柱建物が全て古墳時代に後出していること、かつ、遺構から近世以降の遺物が出土しないこと、さらに近世以降の遺物自体が今回の調査区では全体に希薄であることから、掘立柱建物は古代以降中世までのものであると判断した。

1 1号掘立柱建物（第28図）

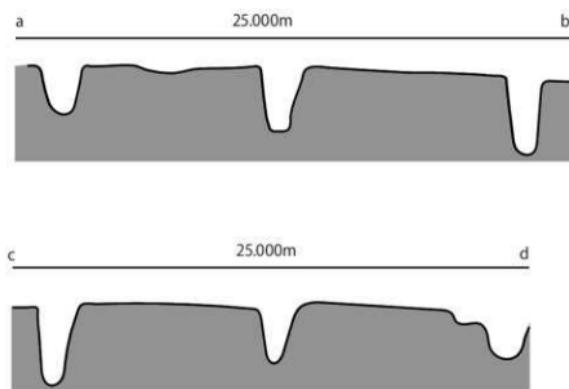
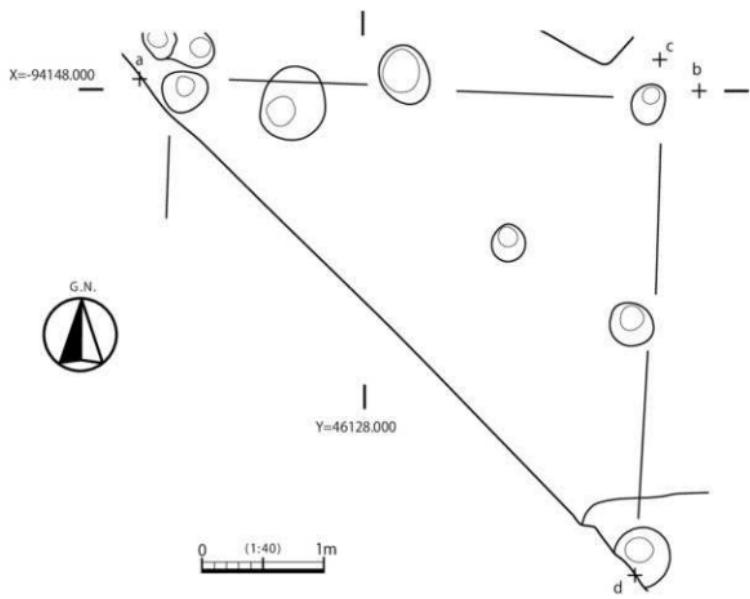
調査区のほぼ中央、1号竪穴建物に一部重なって検出された掘立柱建物である。主軸はほぼ南北に併行する。桁行は約3.8mで二間、梁行は調査区外へのびており不明である。柱間は梁、桁とともに180cmから200cmの間に取まる。各柱穴の径は25cmから40cmで、柱痕跡等は確認できていない。検出面からの柱穴の深さは40cmから60cmである。遺構に伴う遺物は出土していない。

2 2号掘立柱建物（第29図）

調査区の東側、2号および3号竪穴建物を切って構築されている。主軸はほぼ南北に併行する。桁行、梁行はともに調査区外へのびており不明である。柱間は東西が150cmから160cm程度、南北が220cm前後である。各柱穴の径は50cm前後で、柱痕跡等は確認できていない。検出面からの柱穴の深さは20cm程度で遺構上部はかなり削平されているようである。1号同様に遺構に伴う遺物は出土していない。

3 3号掘立柱建物（第29図）

調査区の東側、2号掘立柱建物に重なって柱穴が並ぶ。主軸は2号同様ほぼ南北に併行する。桁行、梁行きはともに調査区外へのびており不明である。柱間は東西・南北ともに200cm前後である。各



第28図 青木遺跡1号掘立柱建物 (S=1:40)

柱穴の径は 60cm から 80cm と比較的大型で、各柱穴径 30cm 程度の柱痕跡が確認できている。検出面からの柱穴の深さは 30cm から 40cm である。遺構に伴う遺物は出土していない。

4 4号掘立柱建物（第 29 図）

調査区の東側、2号および3号掘立柱建物の東側に重なって柱穴が並ぶ。主軸は座標北から東に 10 度ほど振れる。桁行は 3.6m 前後、梁行きは調査区外へとのびており不明である。柱間は桁行で 170cm から 190cm 、梁行きで 200cm 前後である。各柱穴の径は 30cm から 50cm で一部 20cm 強の柱痕跡が確認できる。検出面からの柱穴の深さは 20cm から 40cm である。遺構に伴う遺物は出土していない。

5 5号掘立柱建物（第 30 図）

調査区の東側、2号および3号竪穴建物に重なって柱穴が並ぶ。主軸は南北に併行する。桁行、梁行はともに調査区外へとのびており不明である。柱間は東西、南北ともに 200cm 強である。各柱穴の径は 60cm から 90cm と大型で 30cm 程度の柱痕跡が確認できる柱穴もある。検出面からの柱穴の深さは 60cm 前後である。全体に非常にしっかりとした掘形を持っており、今回の調査で確認された掘立柱建物の中では中心的なものと考えられる。遺構に伴う遺物は出土していない。

6 6号掘立柱建物（第 30 図）

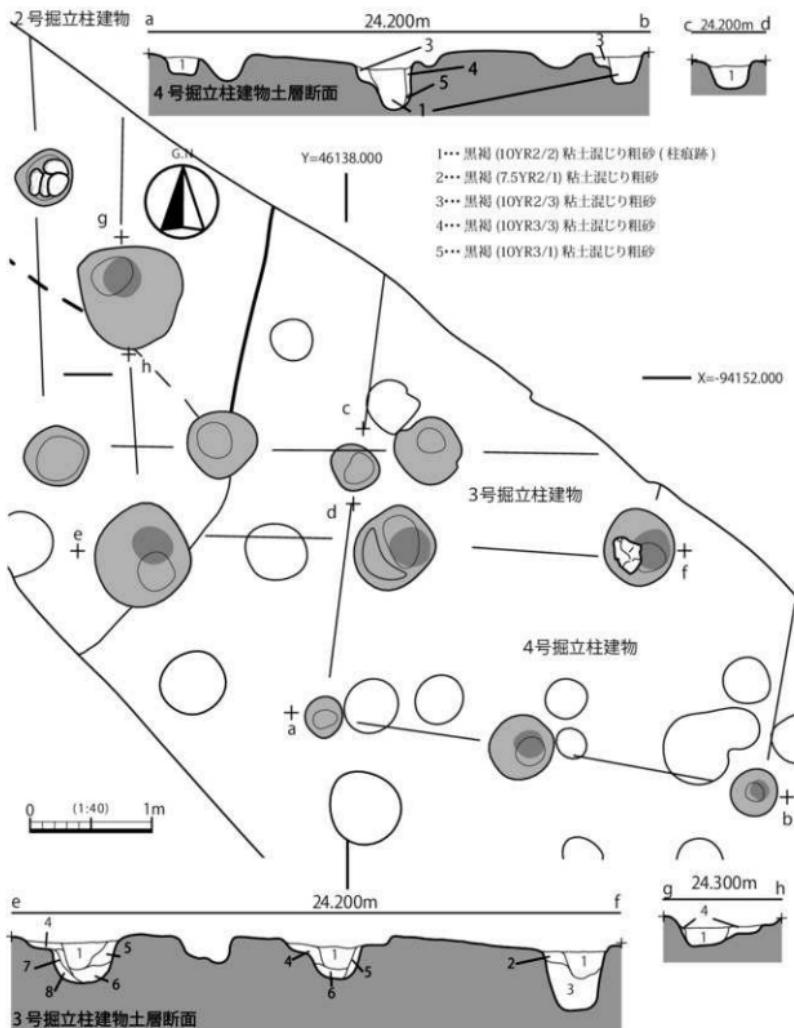
調査区の東側、5号同様、4号および5号竪穴建物に重なって柱穴が並ぶ。主軸は南北に併行する。桁行、梁行はともに調査区外へとのびており不明である。柱間は東西、南北ともに 300cm と非常に広い。各柱穴の径は 50cm から 70cm で 5号と比較するとやや小さい。柱痕跡が確認できた柱穴はない。検出面からの柱穴の深さは 30cm 前後である。柱の並びは 5号と一部重なっており、柱穴の切りあいを確認したところ、6号が先行するようである。遺構に伴う遺物は出土していない。

7 7号掘立柱建物（第 30 図）

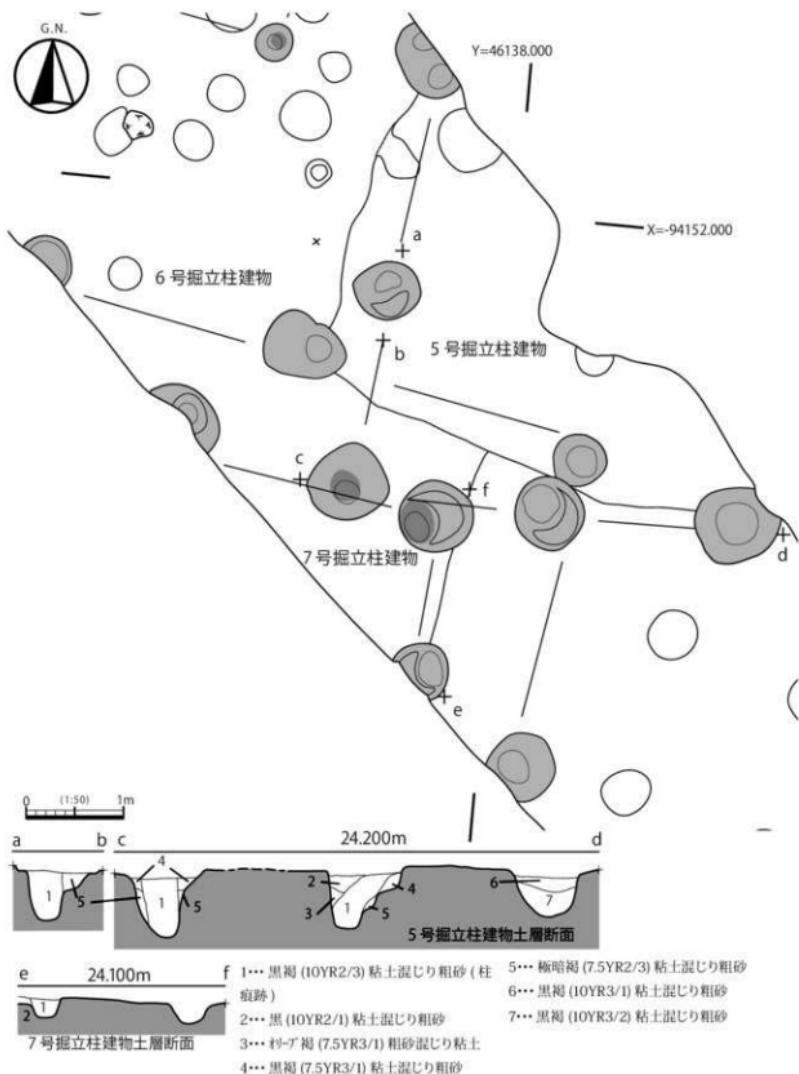
調査区の東側、5号竪穴建物に重なって柱穴が並ぶ。主軸は 5号、6号と同じく南北に併行する。桁行、梁行はともに調査区外へとのびており不明である。柱間は東西 240cm 、南北 150cm と東西に比べ南北の柱間がかなり狭く造られている。各柱穴の径は 60cm ~ 80cm で 5号に匹敵するが、建物の北東隅が確認されているのみで全体像を把握しかねる。径 35 ~ 40cm となる柱痕跡が確認できている。検出面からの柱穴の深さは 50cm 前後である。柱の並びは 5号と一部重なっているが、柱穴自体の切りあいがなく、先後関係は不明である。また、6号の内側に沿うように柱が配置されており、6号と 7号は同一の建物である可能性も考慮に入れるべきかもしれない。遺構に伴う遺物は出土していない。

8 8号掘立柱建物（第 31 図）

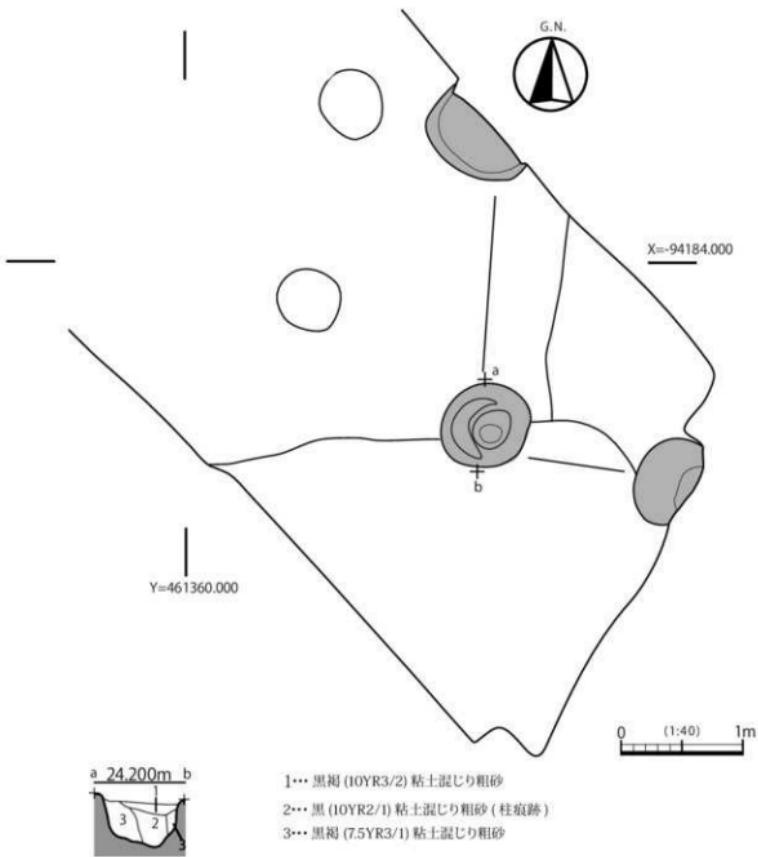
調査区の東端、5号および6号竪穴建物に重なって柱穴が並ぶ。主軸は座標北にほぼ併行する。桁行は 3.6m 前後、梁行は調査区外へとのびており不明である。柱間は東西で 150cm 前後、南北で 230cm 前後である。各柱穴の径は 80cm 程度で 5号に匹敵する。柱痕跡は確認できていない。検出面からの柱穴の深さは 30cm から 40cm である。遺構に伴う遺物は出土していない。



第29図 青木遺跡 2号～4号掘立柱建物 (S=1:40)



第30図 青木遺跡 5号～7号掘立柱建物 (S=1:50)



第31図 青木遺跡8号掘立柱建物 ($S=1:40$)

9 遺構に伴わない出土遺物（第32図）

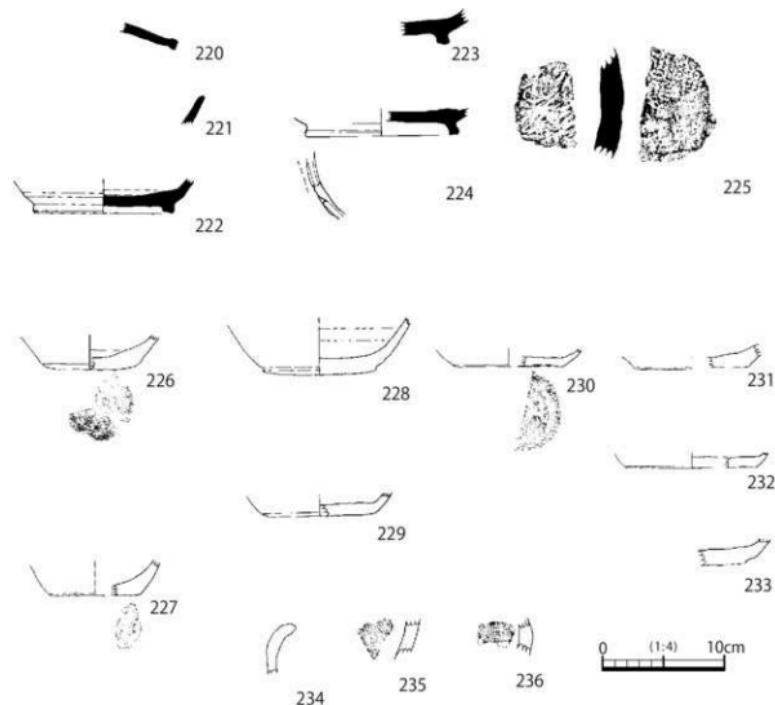
古代から中世にかけての遺物は、遺構に伴ったものはほとんどないが、包含層中から少數ではあるが出土している。220から225は須恵器である。220は須恵器の環蓋で内外面ともに回転ヨコナデで調整されている。221は环の口縁部である。222から224は高台が付く环身の底部付近の破片である。225は須恵器の土師片であるが、器形がはっきりとしない。須恵器としては焼成が甘く、器表の劣化もみられるが、表面には格子のタタキが確認できた。

226から236は土師器である。226から229は土師器の环である。底部は全てヘラ切りで内外面ともに

回転ヨコナデで調整されている。230から233は土師皿である。230の底部にはヘラ切りの痕跡が確認できる。231から233については器面の摩耗が激しく調整は明確ではない。234は甕の口縁部、235と236は内面に布目の圧痕が確認できる。そのほか、輸入陶磁器として同安窯の青磁、青花の碗の破片などが出土している(図版16)。

10 小結

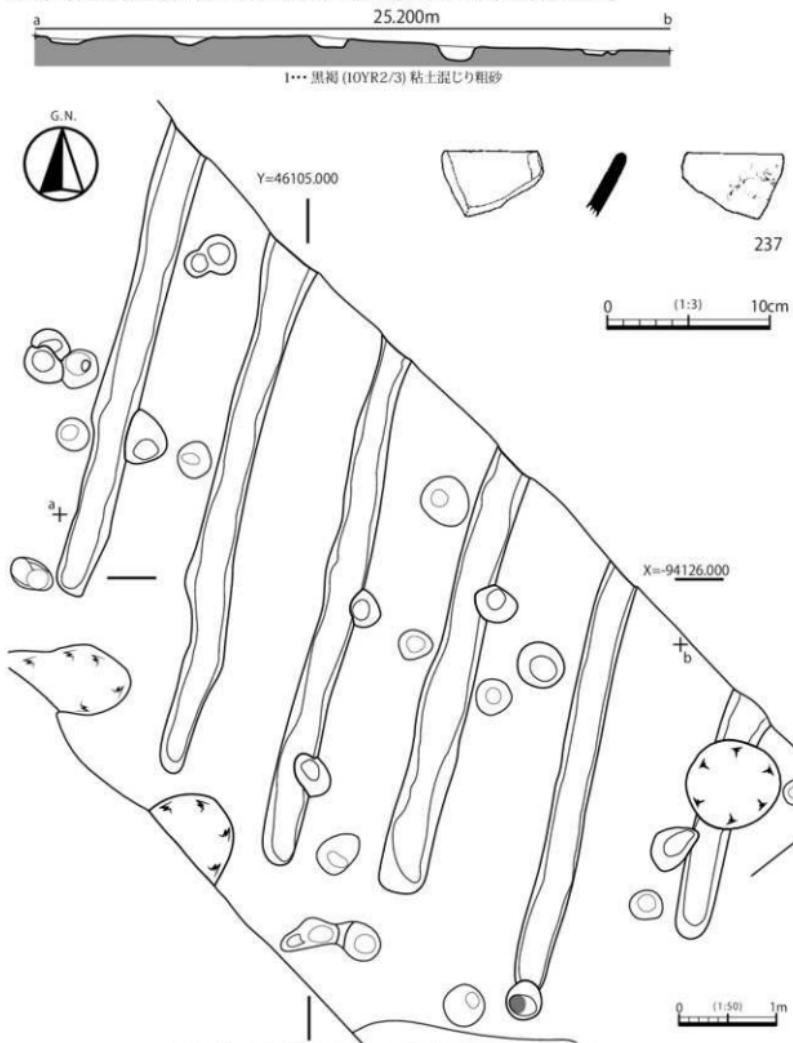
前述したように、遺構の重なりや遺物の出土状況から検出された掘立柱建物は古代から中世の所産であると判断した。また、比較的大型の柱穴をもつものが多く、方位に強く規制されているようである。当該期の遺物自体は決して多くはないが、有力者の屋敷地やなんらかの公的施設の存在が示唆されている。



第32図 青木遺跡出土遺物 古代～中世 (S=1:3)

第7節 近世以降の遺構と遺物

青木遺跡では溝状遺構や竈跡など、近世以降の遺物が確認された。近世の遺構の出土数は決して多くなく、今回の調査区内に限って言えば日常生活の場としての印象は希薄である。



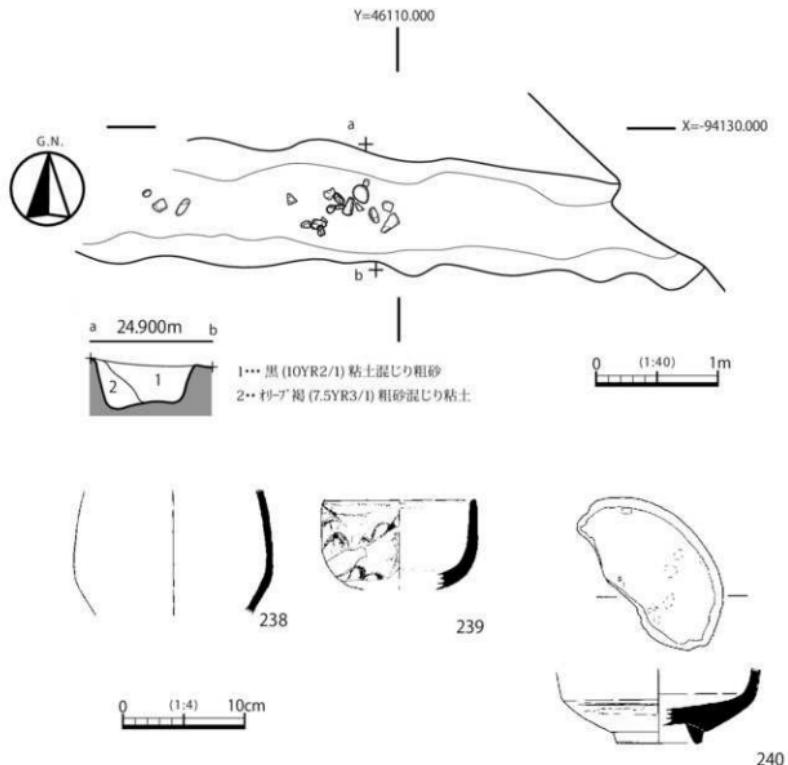
第33図 青木遺跡 突跡 ($S=1:50$) および出土遺物 ($S=1:3$)

1 島跡（第33図）

西側中央よりで確認された島跡である。平行した6条の浅い溝が北北東から南南西にかけて掘削されており畠間と判断した。畠間幅は35～50cmほどで検出面からの深さは10cm前後である。畠間の一つから染付の破片（237）が出土した。

2 1号溝状遺構（第34図）

1号溝状遺構は調査区の中央北よりで検出された東西に走る溝である。遺構内からは縄文時代のものと考えられる石器類のほか、近世の陶磁器類が出土した。検出面での幅は80cmから100cm、検出面からの深さは50cm前後である。断面は逆台形を成す。硬化面などは確認できていない。ほぼ東西に併行しており底面は東に傾斜している。



第34図 青木遺跡1号溝状遺構（S=1:40）および出土遺物（S=1:3）

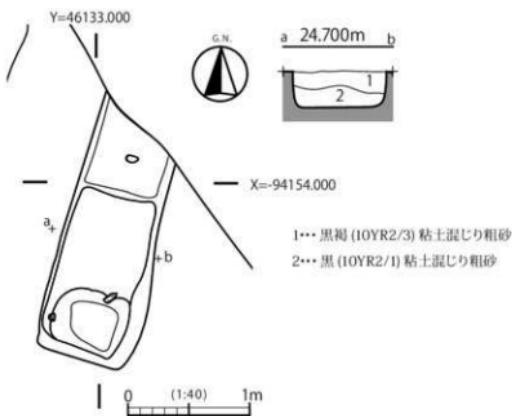
(1) 出土遺物

238は陶器の花器であろうか。外面は褐釉が施され、内面は回転ヨコナデで調整されている。239は肥前の染付碗、240は陶器の碗で赤褐色の胎土に白色に発色した灰釉がかかっている。

3 2号溝状遺構（第35図）

1号竪穴建物に沿うように検出された溝状遺構である。当初は位置関係から1号竪穴建物の付随施設である可能性も考慮したが、埋土の状況及び、主軸が畠跡と同一であったことから近世の遺構と判断した。

検出面での幅は75cmから85cm、検出面からの深さは30cm程度で南端と北側が一段低く掘削されている。調査区内では2m程度が確認されたが、調査区外へ北北東に向かってのびるため、正確な規模等は不明である。遺構の性格を類推させるような遺物などもなく、機能等は不明である。



第35図 青木遺跡2号溝状遺構 (S=1:40)

4 遺構に伴わない遺物

遺構外からは近世の所産と考えられる染付の破片が出土している。高台付碗の破片であると考えられるが、小片のため器形ははっきりしない。このほか、玉髓製の火打石なども出土している。



241

第36図 青木遺跡出土遺物 近世 (S=1:3)

5 小結

近世の遺構は、溝状遺構2条と畠跡のほかは確認できなかつた。遺物も希薄であり近世の生活痕跡は乏しいが、近隣の集落は少なくとも近代までは確實に遡ることができ、隣接した野首第1遺跡でも近世の集落は確認されているので、今回の調査範囲が偶然に集落などの一般生活範囲から外れたものと考えられる。

第8節 時期不明の遺構と遺物

時期不明の遺構としては、小ピットや性格不明の土坑などがある。今回、特に詳細な図面の提示は行わないが、いずれも伴う出土遺物がなく、調査範囲が限定されていたこともあり性格等の推定も困難であった。遺構の状況からも、今後、周囲の調査による情報の蓄積されたとしても、再評価は困難であると考えられる。

1 出土遺物

時期不明の出土遺物として、石器類を提示した。主に擦石、石錘である。242は砂岩製の砥石で、残存長7.8cm、幅2.1cm、重量100gwを測る。砥面は残存部分では1面のみである。

243と244は擦石である。243は時期不明の土坑のひとつから出土した。長軸6.5cm、短軸5.7cmで平面形はやや縱に長い楕円形を成す。石材は砂岩。表面のほぼ全面に擦痕が確認できた。重量は160gw。244は1号溝状遺構から出土した。花崗岩製で、平面形は長軸14.1cm、短軸9.8cmと縱に長い楕円形をなす。243と同じくほぼ全面を使用している。重量は1066gwで擦石としては非常に重い。

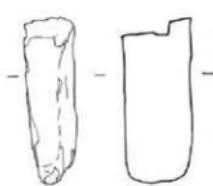
245は敲石で7号掘立柱建物の柱穴の一つから出土した。花崗岩製で側面全面に敲打痕が残るほか、擦痕が残り、擦石としても使用されたことがわかる。平面形は径7cm程度の正円に近い形を成し、重量は213gwである。

246と247は石錘である。246は時期不明の土坑の一つから出土した。頁岩製で長軸8.2cm短軸7.2cm、重量は136gwである。247は1号溝状遺構から出土した。頁岩製で長軸4.5cm、短軸3.9cmで重量は28gwである。

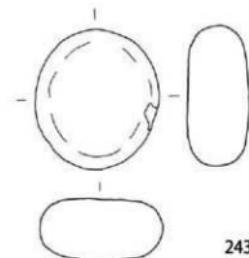
248は平面形態が釣鐘状を成す性格不明の石器である。自然物の可能性もあるが、遺物として提示する。頁岩製で表面の風化が激しく調整などが行われていたかは不明である。径8mm程度の孔が一箇所穿たれており、あるいはこの部分に網などを繋げ錘として用いたかもしれない。縱5.6cm、横4.6cm、重さは42gwである。

2 小結

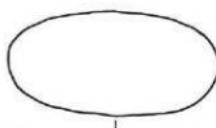
時期不明遺物として扱った遺物は、今回の超範囲の出土傾向からすると縄文時代の可能性が高いと考えられる。248に関しては、遺物であるかどうかも含め、今後の課題としたい。



242



243

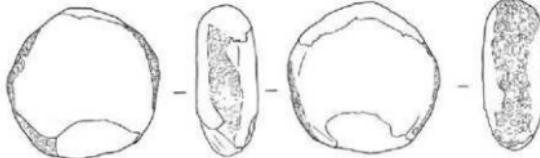


244

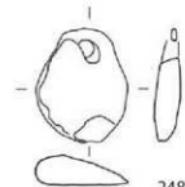


0 (1:2) 5cm

245



247



248

第37図 青木遺跡出土遺物 時期不明 (S=1:2)

第1表 青木遺跡出土土器等観察表①

遺物 番号	被削 部	器種	部位	出土地点	剖面			調整技法・文様等	色調	形状	断土	備考
					内面	外面	内部					
5	縄文土器	深鉢	底部	1号工場	-	(112)	-	ナゲ	にこい・削痕 (010010)	良好	2mm以下の灰白・赤褐色・褐灰色 の粘土を7%ほど含む	1号工場がいづつ
34	縄文土器	深鉢	口縁	調査区東側	-	-	-	ナゲ	細円柱型文 (010010)	良好	1mm以下の灰白・透明	1号工場がいづつ
35	縄文土器	深鉢	側面	3号掘立柱 建物	-	-	-	横方向のナ ゲ	にこい・削痕 (010010)	良好	1mm以下の灰白・褐灰色・光沢 の粘土を7%含む	3号工場がいづつ
36	縄文土器	深鉢	口縁	堆積内	-	-	-	ナゲ・點付突 溝	にこい・削痕 (010010)	良好	2mm以下の灰白・1mm以下 の黄褐色粘土を1%含む	3号工場がいづつ
37	縄文土器	深鉢	口縁	6号窯穴建 物	-	-	-	ナゲ	にこい・削痕 (010010)	良好	2mm以下の灰白・1mm 以下の灰白・浅黃褐色粘土を1% 含む	3号工場
38	縄文土器	深鉢	口縁	調査区中央	-	-	-	横方向のナ ゲ	にこい・削痕 (010010)	良好	2mm以下の灰白・褐灰色 の粘土を7%含む	3号工場
39	縄文土器	深鉢	口縁	調査区中央	-	-	-	ナゲ・點付突 溝	にこい・削痕 (010010)	良好	1mm以下の黄褐色粘土を2%含 む	3号工場
40	縄文土器	深鉢	口縁	調査区西側	-	-	-	横方向のナ ゲ	にこい・削痕 (010010)	良好	2mm以下の灰白・赤褐色粘土を 7%含む	3号工場
41	縄文土器	深鉢	口縁	6号窯穴建 物	-	-	-	横方向のナ ゲ	にこい・削痕 (010010)	良好	2mm以下の灰白・褐灰色粘土を1% 含む	3号工場
42	縄文土器	深鉢	口縁	6号窯穴建 物	-	-	-	横方向のナ ゲ	にこい・削痕 (010010)	良好	2mm以下の灰白色粘土を1%含 む	3号工場
43	縄文土器	深鉢	口縁	調査区西側	-	-	-	日本ナゲ・點付突 溝	にこい・削痕 (010010)	良好	1mm以下の灰白・褐・黒褐色 の粘土を1%含む	3号工場
44	縄文土器	深鉢	口縁	6号窯穴建 物	-	-	-	横方向のナ ゲ	にこい・削痕 (010010)	良好	1mm以下の灰白・褐灰色粘土を3% 2mm以下の灰白・褐灰色粘土を1% 含む	3号工場
45	縄文土器	深鉢	口縁	5号窯穴建 物	-	-	-	ナゲ	にこい・削痕 (010010)	良好	1mm以下の透明色粘土を1%以 下、灰白色粘土を5~7%含む	3号工場
46	縄文土器	深鉢	口縁	1号工場調査区中央 部	-	-	-	ナゲ・點付突 溝	にこい・削痕 (010010)	良好	2mm以下の灰白・黄褐色粘土を 10%含む	3号工場
47	縄文土器	深鉢	口縁	調査区中央	-	-	-	横方向のナ ゲ	にこい・削痕 (010010)	良好	1mm以下の黄白・褐灰色粘土を 2%含む	3号工場
48	縄文土器	深鉢	口縁	調査区中央	-	-	-	ナゲ・横方 向のナゲ	にこい・削痕 (010010)	良好	2mm以下の灰白・透明光沢粘 土を1%含む	3号工場
49	縄文土器	深鉢	口縁	調査区中央	-	-	-	横方向のナ ゲ	にこい・削痕 (010010)	良好	1mm以下の黄白・褐・黒褐色 の粘土を3%含む	3号工場
50	縄文土器	深鉢	口縁	調査区東側	-	-	-	ナゲ・横方 向のナゲ	にこい・削痕 (010010)	良好	1mm以下の灰白・褐灰色粘土を 2%含む	3号工場
51	縄文土器	深鉢	口縁	調査区東側	-	-	-	横方向のナ ゲ	にこい・削痕 (010010)	良好	1mm以下の赤褐色・黄褐色・褐 灰色粘土を3%含む	3号工場
52	縄文土器	深鉢	口縁	7号掘立柱 建物	-	-	-	ナゲ	横方向の横 向	良好	1mm以下の灰白・赤褐色粘土を 1%含む	3号工場
53	縄文土器	深鉢	口縁	調査区中央 部	-	-	-	ナゲ・穿孔 穴	にこい・削痕 (010010)	良好	1mm以下の透明光沢粘土を1% 以下含む	3号工場
54	縄文土器	深鉢	口縁	1号工場調査区中央 部	-	-	-	沈縫・ナ ゲ	にこい・削痕 (010010)	良好	1mm以下の灰白・透明光沢粘 土を1%含む	3号工場
55	縄文土器	深鉢	口縁	6号窯穴建 物	-	-	-	ナゲ	通過する沈縫 (010010)	良好	3mm以下の灰白・半透明、 1mm以下の黑色光沢粘土を1%、 1mm以下の灰白色粘土を5%含む を1%以下含む	3号工場
56	縄文土器	深鉢	口縁	5号窯穴建 物	-	-	-	日コナゲ	多方向に通 過する沈縫 (010010)	良好	1mm以下の灰白・半透明光沢粘 土を1%以下含む	3号工場
57	縄文土器	深鉢	口縁	5号窯穴建 物	-	-	-	ナゲ	沈縫×2列 の連續刺文 (010010)	良好	1mm以下の灰白・褐褐色・光沢 粘土を1%以下含む	3号工場
58	縄文土器	井	口縁	4号窯穴建 物	-	-	-	系縫	貝方向の沈縫 (010010)	良好	1mm以上の透明光沢粘土を3% 含む	3号工場
59	縄文土器	井	口縁	4号窯穴建 物	-	-	-	ナゲ	貝方向の 系縫	良好	1mm以下の黒褐色・透明光沢 粘土を5%含む	3号工場

第2表 青木遺跡出土土器等観察表②

遺物番号	種類	種類	部位	出土地点	復元		調査方法・文様等		色調	焼成度	胎土	備考
					上口	底径	高さ	内面				
60	縄文土器	鉢	網部	2号窓穴建物	-	-	-	子テ	横方向の直線文	灰・灰褐色	良好	1mm以下の灰白色を5%含む
61	縄文土器	深鉢	網部	1号窓穴建物	-	-	-	横方向の直線文	灰・灰褐色	良好	2mmの黄褐色を1%未満、外面に黒斑あり	
62	縄文土器	深鉢	網部	1号窓穴建物	-	-	-	横方向の直線文	灰・灰褐色	良好	1mm以下の灰白・褐色を10%含む	
63	縄文土器	深鉢	網部	3号窓穴建物	-	-	-	横方向の直線文	灰・灰褐色	良好	3mmの褐灰色を1%、1mm以下の黒斑・褐灰色を10%、灰白色を5%含む	
64	縄文土器	深鉢	網部	1号窓付近3号竪立柱～網部建物	-	-	-	横方向の直線文	灰・灰褐色	良好	1mm以下の黄褐色を5%、灰褐色を10%含む	
65	縄文土器	深鉢	網部	調査区東側	-	-	-	調整不明	横方向の直線文	灰・灰褐色	良好	1mm以下の灰白・透明灰白色を含む
66	縄文土器	深鉢	網部	調査区中央	-	-	-	子テ	横文	灰	良好	2mm以下の褐灰・黑色を5%含む
67	縄文土器	深鉢	網部	調査区東側	-	-	-	横方向の直線文	横方向の直線文	灰	良好	1mm以下の黄褐色・希薄・光沢を5%含む
68	縄文土器	深鉢	網部	調査区西側	-	-	-	子テ・知多テ	本の波線文	灰・灰褐色	良好	3mm以下の褐褐色を1%以下、2mm以下の灰白色を1%以下、極小の灰白色を1%含む
69	縄文土器	深鉢	網部	調査区東側	-	-	-	横方向の直線文	横方向の直線文	灰	良好	1mm以下の灰褐色・ふつう褐色
70	縄文土器	深鉢	網部	調査区東側	-	-	-	横方向の直線文	横方向の直線文	灰	良好	1mm以下の黄褐色を1%含む
71	縄文土器	深鉢	網部	調査区中央	-	-	-	横方向の直線文	横方向の直線文	灰	良好	2mm以下の灰白・希薄・希薄色を3%含む
72	縄文土器	深鉢	網部	-	-	-	-	横方向の直線文	横方向の直線文	灰	良好	1mm以下の黄褐色・灰白・黄褐色を10%、雲母を1%未満含む
73	縄文土器	深鉢	網部	-	-	-	-	横方向の直線文	横方向の直線文	灰	良好	1mm以下の黄褐色・灰褐色を2%、灰白・黒褐色を1%未満含む
74	縄文土器	深鉢?	網部	調査区西側	-	-	-	横方向の直線文	横方向の直線文	灰	良好	3mm以下の褐褐色を1%含む
75	縄文土器	深鉢?	底部	調査区西側	-	-	-	横方向の直線文	横方向の直線文	灰	良好	1mm以下の灰白色を1%含む
76	縄文土器	深鉢?	底部	調査区東側	(8)	-	-	子テ	子テ	灰	良好	3mm以下のふつう褐色
77	縄文土器	深鉢?	底部	調査区中央	-	-	-	子テ	子テ	灰	良好	2mm以下の灰白・褐灰色を10%含む
78	縄文土器	深鉢?	底部	調査区西側	-	-	-	炭化物付石子テ	石子	灰	良好	1mm以下の灰白・褐灰色を2%含む
79	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	-	-	丁寧な子テ・工具による直線文	直線文	灰	良好	灰白・光沢を1%含む
80	縄文土器	深鉢	口縁～調査区東側	-	-	-	-	横方向の直線文	横方向の直線文	灰	良好	1mm以下の黄褐色を1%含む
81	縄文土器	深鉢	口縁	調査区西側	-	-	-	玉ガホ	玉ガホ	灰	良好	1mm以下の灰白色を1%含む
82	縄文土器	深鉢	口縁	調査区西側	-	-	-	玉ガホ	玉ガホ	灰	良好	1mm以下の灰・褐灰色を5%含む
83	縄文土器	口縁付近1号窓穴建物	-	-	-	-	-	横方向の直線文	横方向の直線文	灰	良好	1mm以下の灰白・黒褐色を2%、赤褐色を1%未満含む
84	縄文土器	深鉢	網部	調査区西側	-	-	-	玉ガホ	玉ガホ	灰	良好	1mm以下の灰白色を1%以下含む
85	縄文土器	口縁付近3号窓穴建物	-	-	-	-	-	玉ガホ	玉ガホ	灰	良好	3mm以下の灰白・1mm以下の灰白・透明色を1%以下含む

第3表 青木遺跡出土土器等観察表③

遺物 番号	種別	基種	部位	出土地点	1回 法用 成形	高さ	調査目次・文様等		色調	形状	出土	備考	
							内面	外側					
86	縄文土器	浅鉢	南縁一側	南西区西側	-	-	丸ガキ・ナデ	ミガキ・強い ナデ	0.5mm白 0.5mm白	良好	1mm以下の灰白色を1% 下、黒色鉄粉を1%含む		
87	赤土土器	鉢	1縁	南西区中央	-	-	ナデ	ヨコナデ・ナ シナデ	0.5mm白 0.5mm白	良好	2mm以下の範囲・褐色鉄粉を 1%含む		
88	赤土土器	長縦槽	1縁	南西区東側	-	-	ナデ	ナデ	0.5mm白 0.5mm白	良好	1mm以下の範囲・灰白色を1% 含む		
89	赤土土器	鉢	底部	南西区西側	-	(4.4)	ハケヌ	タタキ・ナデ	0.5mm白 0.5mm白	良好	1mm以下の範囲・赤褐色・灰白 色鉄粉を5%含む		
90	赤土土器	鉢	南縁一底縁高付	南西区西側	-	(4.15)	-	ナデ	ミガキ・ナデ	0.5mm白 0.5mm白	良好	2mm以下の範囲・灰白色を1% 含む	
92	土器	鉢	1縁一底縁付	1号窯穴建 物	(10.4)	-	-	ヨコナデ・ナ シナデ	ヨコナデ・ナ シナデ	0.5mm白 0.5mm白	良好	1mm以下の灰白・赤褐色を1% 含む	
93	土器	鉢	南縁一底縁付	1号窯穴建 物	-	-	ナデ	横力方向のナ デ	0.5mm白 0.5mm白	良好	2mm以下の範囲・に赤い斑 点を含む		
94	土器	鉢	南縁一底縁付	1号窯穴建 物	-	2.4	-	ヨコサエニ 横力方向のナ デ	0.5mm白 0.5mm白	良好	1mm以下の範囲・赤褐色 を1%含む		
95	土器	鉢	底部付近1号窯穴建 物	-	5.1	-	ヨコナデ・ナ シナデ	ヨコナデ・ナ シナデ	0.5mm白 0.5mm白	良好	3mm以下の灰白・灰白色を 1%含む	表面に黒斑あり	
96	土器	鉢	底部付近1号窯穴建 物	-	5.6	-	上斜ナデ	平行タタキ・ 横力方向のナ デ	0.5mm白 0.5mm白	良好	2mm以下の灰白・褐灰・に 赤褐色粉を5%含む		
97	土器	鉢	1縁一底縁付	1号窯穴建 物	(15)	-	-	横力方向の工 な・タタキ・ナ シナデ	横力方向の工 な・タタキ・ナ シナデ	0.5mm白 0.5mm白	良好	1mm以下の灰白・赤褐色 を1%含む	
98	土器	鉢	1縁一底縁付	1号窯穴建 物	-	-	ナデ	タタキ	0.5mm白 0.5mm白	良好	2mm以下の灰白・赤褐色 を1%以下含む	表面に黒斑あり	
102	土器	環甌	1縁一底縁付	1号窯穴建 物	-	-	回転ヨコナ デ	回転ヨコナ デ	0.5mm白 0.5mm白	中継	中継		
103	土器	環甌	1縁一底縁付	1号窯穴建 物	(11)	-	回転ヨコナ デ	回転ヨコナ デ	0.5mm白 0.5mm白	中継	中継		
104	土器	環甌	1縁一底縁付	1号窯穴建 物	3.2	-	-	回転ヨコナ デ	回転ヨコナ デ	0.5mm白 0.5mm白	中継	中継	
105	土器	鉢	底部	1号窯穴建 物	-	-	上斜ナデ	横力方向の工 な・タタキ・ナ シナデ	0.5mm白 0.5mm白	良好	2mm以下の灰白・褐色を1% 含む	表面に黒斑あり	
106	土器	鉢	南縁一底縁付	1号窯穴建 物	-	-	-	ヨコサエニ 横力方向の工 な・タタキ・ナ シナデ	ヨコサエニ 横力方向の工 な・タタキ・ナ シナデ	0.5mm白 0.5mm白	良好	表面に透光光沢有り、1mm以 下の褐色粉を1%含む	
107	土器	鉢	1縁付近	3号窯穴建 物	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ・ナ シナデ	0.5mm白 0.5mm白	良好	4mm以下の範囲、3mm以 下の灰白、2mm以下に赤褐色 を1%含む		
108	土器	鉢	1縁一底縁付	1号窯穴建 物	(4.6)	-	ナデ	横力方向のナ デ・横力ナタタ キ・横力・ナ シナデ	0.5mm白 0.5mm白	良好	2mm以下の範囲・灰 色粉を3%含む		
109	土器	鉢	1縁一底縁付	1号窯穴建 物	(2.7)	-	ナデ	横力タタキ・ 横力ナタタキ のナデ	0.5mm白 0.5mm白	良好	3mm以下の褐色粉を7%， 外側の一部に3付有 る・透光光沢粉を1%以 下、4mm以下の5%・褐色粉 を1%以下、褐色粉を3%， 3mm以内に赤褐色粉を 5%含む		
110	土器	甌	1縁一底縁付	1号窯穴建 物	(22.4)	-	30.15	上斜アド・ユ ビオサエ・エ ビサエ	0.5mm白 0.5mm白	良好	4mm以下の黒・褐 色粉を2%含む	外側に3付有 る・黒斑あり	
111	土器	鉢	底部付近	1号窯穴建 物	-	-	横力方向のナ シナデ	横力方向のナ シナデ ・平行タタキ	0.5mm白 0.5mm白	良好	2mm以下の範囲・灰 色粉を1%含む		
115	土器	灯明皿	1縁一底縁付	1号窯穴建 物	(11)	-	-	回転ヨコナ デ	回転ヨコナ デ・回転ヘラ カタリ	0.5mm白 0.5mm白	良好	1mm以下の褐色粉を1%未 満含む	外側に炭化物付着
116	土器	甌	1縁一底縁付 ウニ	1号窯穴建 物	(11.9)	-	-	回転ヨコナ デ	回転ヨコナ デ・ ナ・ 番文・自然 模様	0.5mm白 0.5mm白	中継	1mm以下の範囲・灰 色粉を1%含む	
117	土器	鉢	ばば穴付	4号窯穴建 物	(19.3) (31.45)	15.15	ナデ・ケズリ 横・斜方向のナ シナデ・ナ シナデ	0.5mm白 0.5mm白	0.5mm白 0.5mm白	良好	1mm以下の粗・褐色粉を1% 含む	外側上面に黒斑あり	
118	土器	甌	1縁付近	4号窯穴建 物	(16)	-	ヨコナデ	ヨコナデ・強 いヨコナデ・ナ シナデ	0.5mm白 0.5mm白	良好	3mm以下の赤系、1mm以 下の褐色粉を1%以内含む	外側に黒斑あり	
119	土器	甌	1縁付近	4号窯穴建 物	(9.7)	-	15.9	ヨコナデ・ヨ コナデ・エ ビナデ・ヘラ ナタタキ	0.5mm白 0.5mm白	良好	3mm以下の赤系、1mm以 下の褐色粉を1%以下含む		
120	土器	甌	1縁付近	4号窯穴建 物	(21.4)	-	上斜ナデ	横力方向のナ デ・タタキ・ エナナデ	0.5mm白 0.5mm白	良好	4mm以下の灰白・褐 色粉を5%以下含む	外側に3付有 る・黒斑あり	

第4表 青木遺跡出土土器等観察表④

遺物番号	種類	品種	部位	出土地点	造形		調査技法・文様等		色調		焼成	胎土	備考	
					上口	底径	底高	内面	外面	内面	外面			
125	土師器	甕	上口部	4号櫛六連 物	-	-	-	ヨコナード	ナ・上貝ナ	陶器質	陶器質	良好	7mm以下の褐色、3mm以下の明褐色、2mm以下の灰褐色を1%未満含む	
122	土師器	甕	上口部	4号櫛六連 物	-	-	-	上貝ナード	横方向の工具ナード	陶器質	陶器質	良好	3mm以下の褐色、灰褐色、褐色を1%未満含む	
123	土師器	甕	腹部	4号櫛六連 物	-	-	-	ユビオサエ・タキナ・ナード	陶器質	陶器質	陶器質	良好	4mm以下の褐色、褐色色料を2%含む	
124	土師器	甕	底部	4号櫛六連 物	-	5.45	-	ナード・スピナード・斜方向の ナード	工具ナード・斜 方向のナード・ ヨビオサエ・ ナード	陶器質	陶器質	良好	3mm以下の褐色、灰褐色、光沢料を3%含む	
125	土師器	甕	上口部	4号櫛六連 物	-	-	-	ナ・横・力ナード・斜方向の ナード	工具ナード	陶器質	陶器質	良好	1mm以下の褐色色料を1%含む	
126	土師器	甕	上口部	4号櫛六連 物	-	-	-	調整4号	スルヌ	陶器質	陶器質	良好	薄緑な透明光沢料を1%含む	
127	土師器	側付鉢	腹部	4号櫛六連 物	-	-	-	L3.77	横方向の工具ナード・ ナード・ツガナード	陶器質	陶器質	良好	外面部に灰又付着	
128	土師器	側付鉢	腹部	4号櫛六連 物	(10.6)	-	-	ヨコナード	ヨコナード・上貝ナード	陶器質	陶器質	良好	1mm以下の褐色色料を1%未満含む	外面部に黒斑あり
129	土師器	高台付 鉢	腹部	4号櫛六連 物	-	-	-	上貝ナード	陶器質・ヨコナード	陶器質	陶器質	良好	1mm以下の褐色、灰白色色料を1%含む	
135	土師器	甕	上口部～大口部櫛六連 物	(11.2)	-	-	-	陶器質・ヨコナード	ヨコナード	陶器質	陶器質	良好	2mm以下の灰白色色料を2%含む	
136	土師器	身舟	腹部	6号櫛6連	(33.4)	9.5	4	陶器質・ヨコナード	ヨコナード・斜 方向ベニア グリ	陶器質	陶器質	良好	1mm以下の黒褐色色料を2%含む	受ける部に打ち穴か?
137	土師器	甕	上口部～大口部櫛六連 物部付近	(44.6)	-	-	-	ナード	回転ヘタヌ リ・回転ヨコ ナード	陶器質	陶器質	壊損		
138	土師器	高环	腹部	6号櫛6連 物	(12)	-	-	陶器質・ヨコナード	ヨコナード	陶器質	陶器質	良好	1mm以下の灰褐色色料を1%未満含む	
139	土師器	甕	腹部	6号櫛6連 物	-	-	-	円心内アラ・平行タキ ナード	陶器質	陶器質	陶器質	良好	1mm以下の灰白色色料を2%含む	
140	土師器	甕	上口部～底6号櫛6連 物附近	(23.6)	-	-	-	ヨコナード・上貝ナード・斜 方向窓の工具ナード	陶器質	陶器質	陶器質	良好	4mm以下の黒褐色、灰褐色色料を5%含む	外面部に灰又付着
141	土師器	甕	上口部～側6号櫛6連 物	(22.5)	-	-	-	工具ナード	横・斜方向のナード・窓の工具ナード	陶器質	陶器質	良好	5mm以下の黒褐色、灰褐色色料を7%含む	外底部に灰又付着
142	土師器	甕	上口部～底5号圓立柱 部附近	建物	(9.9)	-	-	横方向のナード・上貝ナード ・ヨコナード・工具ナード ・ヨビナード・ヨコナード	陶器質	陶器質	陶器質	良好	5mm以下の黒褐色、灰褐色色料を10%含む	外底部に灰又付着
143	土師器	甕	上口部～底6号櫛6連 物	建 物	-	-	-	ナード	ヨコナード・ナード	陶器質	陶器質	良好	3mm以下の黒褐色色料を10%含む	
144	土師器	甕	上口部	6号櫛6連	-	-	-	ヨコナード・ナード	ヨコナード・ナード	陶器質	陶器質	良好	2mm以下の黒褐色色料を1%未満含む	
145	土師器	甕	上口部	5号圓立柱 建物	-	-	-	ナード	横・直前のナード ・ヨコナード	陶器質	陶器質	良好	5mm以下の黒褐色、灰褐色色料を3%含む	外底部に灰又付着
146	土師器	甕	上口部	5号圓立柱 建物	-	-	-	ヨコナード・ナード・丸窓・ ナード	ヨコナード・通 航する波線文	陶器質	陶器質	良好	4mm以下の灰褐色色料を1%、 2mm以内の灰白色色料を1%未満含む	内面部
147	土師器	甕	上口部	5号圓立柱 建物	-	-	-	工具ナード	ヨビオサエ・ 工具ナード	陶器質	陶器質	良好	3mm以下の黒褐色、灰褐色色料を5%含む	
148	土師器	甕	上口部	6号櫛6連 物	-	-	-	横方向のナード	ナード	陶器質	陶器質	良好	1mm以下にぶら施釉料を含む	
149	土師器	甕	上口部～5号圓立柱 建物	建 物	-	-	-	横方向のナード	横方向の工具ナード ・ナード	陶器質	陶器質	良好	2mm以下の黒褐色、灰褐色色料を3%含む	
150	土師器	甕	上口部	6号櫛6連 物	-	-	-	ナード	斜め口タキナード	陶器質	陶器質	良好	3mm以下の黒褐色、灰褐色色料を3%含む	
151	土師器	甕	上口部	5号圓立柱 建物	-	-	-	ナード	平行タキナード	陶器質	陶器質	良好	2mm以下の灰褐色、灰褐色色料を3%含む	
152	土師器	甕	上口部	5号圓立柱 建物	-	(12.2)	-	工具ナード	横・斜方向のナ ード・ナード	陶器質	陶器質	良好	4mm以下の黒褐色、灰褐色色料を2%含む	
153	土師器	甕	上口部	6号櫛6連 物	-	-	-	横方向のナード	横・斜方向のナ ード・横方向のナ ード	陶器質	陶器質	良好	2mm以下の灰褐色、灰褐色色料を3%含む	
154	土師器	高环	腹部	5号圓立柱 建物	(35.0)	-	-	ナード・左・右ナード・左丸窓 ナード	陶器質	陶器質	陶器質	良好	1mm以下の灰白色色料を1%以上未満含む	内面部・黑色施釉
155	土師器	高环2	腹部	6号櫛6連 物	-	-	-	ナード・工具ナード	ヨビオサエ・ ヨコナード	陶器質	陶器質	良好	1mm以下の黒褐色、灰褐色、半透明 色料を1%未満含む	
156	土師器	高环	腹部	5号圓立柱 建物	-	-	-	調整不明	調整不明	陶器質	陶器質	良好	1mm以下の赤褐色、灰褐色、90.0 色料を2%含む	
157	土師器	高环	腹部	5号圓立柱 建物	(33.0)	-	-	ヨコナード・斜 方向のナード ・波線文	ヨコナード・斜 方向のナード ・波線文	陶器質	陶器質	良好	1mm以下の赤褐色、浅黄褐色色料 を1%未満含む	

第5表 青木遺跡出土土器等観察表⑤

遺物 番号	樹種	部類	出土地点	1回 法量 成績	最高 高さ	調査目法・文様等	色調	地成	出土	備考	
158	土植田	环	1回縁-6号6号6号建 物	-	-	ミガキ 北ガキ	北ガキ 0.25V60% 0.25V60%	良好 1mm以下	1mm以下の赤褐色・褐色を 1%未満含む		
159	土植田	环	1回縁-6号6号6号建 物	-	-	縦方向のナメ・縦方向のナ メ・横方向のナメ・横方向の ナメの工具ナメ	相 0.25V60% (0.25V60%)	良好 2mm以下に	2mm以下の赤褐色・褐色・ 白色を3%含む		
160	土植田	环	1回縁-6号6号6号建 物	-	-	ヨコナメ・ミヨコナメ・ヨ コナメ	良品 0.25V60% (0.25V60%)	良好 1mm以下	1mm以下の赤褐色を1% 含む		
161	土植田	环	1回縁-6号6号6号建 物	-	-	ヨコナメ	相 0.25V60% (0.25V60%)	良好 1mm以下	1mm以下の赤褐色を1% 含む		
162	土植田	环	1回縁-5号5号5号建 物	-	-	ミガキ 北ガキ・初段 北ガキ	北ガキ 0.25V60% (0.25V60%)	良好 1mm以下	1mm以下の赤褐色・褐色を 1%未満含む	表面に赤色系材質	
163	土植田	环	1回縁-6号6号6号建 物	(16.0)	-	ナメ	ナメ 0.25V60% (0.25V60%)	良好 1mm以下	1mm以下の赤褐色を1%未 満含む		
164	土植田	环	1回縁-5号5号5号建 物	(35.2)	-	ヨコナメのナメ・ヨコナメ ミガキ	良品 0.25V60% (0.25V60%)	良好 1mm以下	1mm以下の赤褐色を1%未 満含む		
165	土植田	环	1回縁-6号6号6号建 物	(14.0)	-	縦方向のナメ	良品 0.25V60% (0.25V60%)	良好 1mm以下	1mm以下の赤褐色を1%未 満含む	表面に赤色系材質	
166	土植田	环	1回縁-5号5号5号建 物	13	-	8.0 ヨコナメ・ミ ヨコナメ・ナ メ・工具ナ メ・ヨコナメ エ	良品 0.25V60% (0.25V60%) 0.25V60% (0.25V60%) 0.25V60% (0.25V60%)	良好 3mm以下	3mm以下の褐色・ふた赤褐色 色を1%以下含む	表面底部に黒斑あり	
167	土植田	环	1回縁-6号6号6号建 物	(16)	-	ヨコナメ・ミ ヨコナメ・ミ ガキ	良品 0.25V60% (0.25V60%)	良好 1mm以下	1mm以下の赤褐色・褐色を 1%含む		
168	土植田	椎	底部-5号5号5号建 物	-	-	工具ナメ	0.25V60% (0.25V60%)	良好 1mm以下	1mm以下に	1mm以下に赤褐色・褐色・ 黑色あり	
169	土植田	椎	底部-5号5号5号建 物	-	-	縦方向のナ メ・工具ナ メ	良品 0.25V60% (0.25V60%)	良好 1mm以下	1mm以下に赤褐色を5%含む		
170	土植田	椎	底部-5号5号5号建 物	-	-	ヨコナメ・ミ ガキ	良品 0.25V60% (0.25V60%)	良好 1mm以下	1mm以下に赤褐色を5%含む		
171	土植田	椎	底部-5号5号5号建 物	-	5.3	ナメ・工具ナ メ・ミガキ	良品 0.25V60% (0.25V60%) 0.25V60% (0.25V60%) 0.25V60% (0.25V60%)	良好 1mm以下	1mm以下に赤褐色を1%以下含む	表面に黒斑あり	
172	土植田	椎	底部-6号6号6号建 物	-	-	ナメ・ミガキ	良品 0.25V60% (0.25V60%) 0.25V60% (0.25V60%) 0.25V60% (0.25V60%)	良好 1mm以下	1mm以下に赤褐色・褐色・ 黑色を3%含む	表面に黒斑あり	
173	土植田	壁	2号工坑	-	-	縦方向のナ メ	良品 0.25V60% (0.25V60%)	良好 1mm以下	1mm以下に赤褐色・褐色・ 黑色を3%含む	表面に黒斑あり	
174	土植田	壁	2号工坑	-	-	ヨコナメ	良品 0.25V60% (0.25V60%)	良好 1mm以下	1mm以下に赤褐色・褐色・ 黑色を3%含む	表面に黒斑あり	
175	土植田	壁	2号工坑	-	-	縦方向のナ メ	良品 0.25V60% (0.25V60%)	良好 1mm以下	1mm以下に赤褐色・褐色・ 黑色を3%含む	表面に黒斑あり	
176	土植田	壁	2号工坑	-	-	ヨコナメ	良品 0.25V60% (0.25V60%)	良好 1mm以下	1mm以下に赤褐色・褐色・ 黑色を3%含む	表面に黒斑あり	
177	土植田	壁	2号工坑	-	-	ヨコナメ	良品 0.25V60% (0.25V60%)	良好 1mm以下	1mm以下に赤褐色を3%含む	表面に黒斑あり	
178	土植田	壁	2号工坑	-	-	ヨコナメ	良品 0.25V60% (0.25V60%)	良好 1mm以下	1mm以下に赤褐色を3%含む	表面に黒斑あり	
179	土植田	壁	2号工坑	-	-	ヨコナメ	良品 0.25V60% (0.25V60%)	良好 1mm以下	1mm以下に赤褐色・褐色・ 黑色を3%含む	表面に黒斑あり	
180	土植田	壁	2号工坑	-	-	ヨコナメ	良品 0.25V60% (0.25V60%)	良好 1mm以下	1mm以下に赤褐色・褐色・ 黑色を3%含む	表面に黒斑あり	
181	土植田	壁	2号工坑	-	2.80	ヨコナメ	良品 0.25V60% (0.25V60%)	良好 1mm以下	1mm以下に赤褐色・褐色・ 黑色を3%含む	表面に黒斑あり	
182	土植田	樹付跡	2号工坑	-	-	工具ナメ	ヨコナメ・縦 方向の工具ナ メ	良品 0.25V60% (0.25V60%)	良好 1mm以下	1mm以下に赤褐色・褐色・ 黑色を3%含む	表面に黒斑あり
183	須根田	环	大井戸?調査区東側	-	-	回転ヨコナ メ	良品 0.25V60% (0.25V60%)	良品 0.25V60% (0.25V60%)	良品 0.25V60% (0.25V60%)	2mm以下	2mm以下の赤褐色を2%含む
184	須根田	环	身部-5号5号5号建 物	(10.0)	4.7	回転ヨコナ メ	良品 0.25V60% (0.25V60%) 0.25V60% (0.25V60%) 0.25V60% (0.25V60%)	良品 0.25V60% (0.25V60%) 0.25V60% (0.25V60%)	良品 0.25V60% (0.25V60%)	2mm以下	2mm以下の赤褐色を2%含む
185	須根田	环	身部-5号5号5号建 物	(10.0)	4.7	回転ヨコナ メ	良品 0.25V60% (0.25V60%) 0.25V60% (0.25V60%) 0.25V60% (0.25V60%)	良品 0.25V60% (0.25V60%) 0.25V60% (0.25V60%)	良品 0.25V60% (0.25V60%)	2mm以下	2mm以下の赤褐色を2%含む
186	須根田	环	身部-5号5号5号建 物	-	-	回転ヨコナ メ	良品 0.25V60% (0.25V60%) 0.25V60% (0.25V60%)	良品 0.25V60% (0.25V60%)	良品 0.25V60% (0.25V60%)	2mm以下	2mm以下の赤褐色を2%含む
187	須根田	环	身部-5号5号5号建 物	-	-	回転ヨコナ メ	良品 0.25V60% (0.25V60%) 0.25V60% (0.25V60%)	良品 0.25V60% (0.25V60%)	良品 0.25V60% (0.25V60%)	2mm以下	2mm以下の赤褐色を2%含む
188	須根田	环	身部-5号5号5号建 物	-	-	回転ヨコナ メ	良品 0.25V60% (0.25V60%) 0.25V60% (0.25V60%) 0.25V60% (0.25V60%)	良品 0.25V60% (0.25V60%) 0.25V60% (0.25V60%)	良品 0.25V60% (0.25V60%)	2mm以下	2mm以下の赤褐色を2%含む
189	須根田	环	身部-5号5号5号建 物	-	-	回転ヨコナ メ	良品 0.25V60% (0.25V60%) 0.25V60% (0.25V60%) 0.25V60% (0.25V60%)	良品 0.25V60% (0.25V60%) 0.25V60% (0.25V60%)	良品 0.25V60% (0.25V60%)	2mm以下	2mm以下の赤褐色を2%含む
190	須根田	环	身部-5号5号5号建 物	-	-	回転ヨコナ メ	良品 0.25V60% (0.25V60%) 0.25V60% (0.25V60%) 0.25V60% (0.25V60%)	良品 0.25V60% (0.25V60%) 0.25V60% (0.25V60%)	良品 0.25V60% (0.25V60%)	2mm以下	2mm以下の赤褐色を2%含む
191	土植田	壁	1回縁-底 部-5号5号5号建 物	20.8	-	縦方向のナメ・縦 方向のナメ	良品 0.25V60% (0.25V60%)	良好 1mm以下	2mm以下の赤褐色・褐色・ 黑色を3%含む	表面に黒斑あり	

第6表 青木遺跡出土土器等観察表⑥

遺物 番号	種別	品種	部位	出土地点	造形		調査技法・文様等		色調	焼成	胎土	備考			
					上部	底付	内面	外面							
192	土師器	甕	上部	調査区東側	-	-	-	-	ヨコナラ・ナラナ子 耳方向のナ 子・竪向斜方 の上唇部	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	4mm以下の黒灰・3mm以下 にぶつ頬・2mm以下灰白 色粘を1%含む		
193	土師器	甕	上部	調査区東側	-	-	-	-	ヨコナラ・ナラナ子 耳方向のナ 子・底子日タ キ子	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	2mm以下の灰白・黄白色粘を 1%含む		
194	土師器	甕	上部	調査区東側	-	-	-	-	横方向のヨコナラ・ナ ラナ子・底子日タ キ子	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	3mm以下の黒灰・灰白・1mm 以下の灰白色粘を1%含む		
195	土師器	甕	上部	調査区東側	-	-	-	-	ヨコナラ・ナラナ子 耳子日タキ子・ナ 子	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	4mm以下の黒灰・3mm以下 にぶつ頬・1mm以下灰白色粘を 1%含む	外面にスス付着	
196	土師器	甕	上部	調査区中央	-	-	-	-	ナ子	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	5mm以下の灰白・黄白色粘を15%, 1mm以下の灰白・赤褐色粘を 2%, 黄灰色粘を1%以下含 む		
197	土師器	甕	上部	調査区東側	-	-	-	-	ヨコナラ・ナラナ子・タキ 子のナ子	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好			
198	土師器	甕	上部	調査区東側	-	-	-	-	横方向のナラナ 子・底子・竪向 斜方向の工 具痕	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	7mm以下の灰白・2mm以下 の黄灰色粘を1%含む	外面にスス付着 に黒斑あり	
199	土師器	甕	上部	調査区東側 部	-	-	-	-	ナ子	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	1mm以下の灰白・黒色粘を1% 外面にスス付着・内面 に黒斑あり		
200	土師器	甕	底付	調査区中央	-	-	-	-	横方向斜方・横方向のナ ラナ子・底子・目貼 子・空透	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	1mm以下の灰白・黒灰・にぶ つ頬色粘を2%含む		
201	土師器	甕	底付	調査区中央	-	-	-	-	ナ子	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	2mm以下の黒灰・褐褐色粘を 外面にスス付着		
202	土師器	甕	底付	調査区中央	-	-	-	-	横方向のナラナ 子・底子・目貼 子・空透	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	1mm以下の灰白色粘を2% 含む		
203	土師器	甕	底付	調査区東側	-	-	-	-	ナ子	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	5mm以下の黒灰・灰白・黒灰 色粘を7%含む		
204	土師器	甕	底付	調査区東側	-	-	-	-	タキ子	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	2mm以下の灰白・黒灰・にぶ つ頬色粘を7%含む		
205	土師器	甕	底付	調査区中央	-	-	-	-	ナ子	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	2mm以下の灰白・黒灰・黒 色粘を5%含む	外面にスス付着	
206	土師器	甕	底部～底付	調査区中央 部	-	-	-	-	ナ子	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	1mm以下の黒灰・灰白・黒灰 色粘を7%含む		
207	土師器	甕	底部付近	5号墓立柱 建物	-	-	-	-	ハケヌ	タヌリ 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	3mm以下の黒灰色粘を1%, 3mm以下の黒褐色粘を1% 以上含む		
208	土師器	甕	底部	調査区中央	-	-	-	-	ナ子・底子・タキ 子	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	1mm以下の灰白・灰白・黒灰 色粘を2%含む		
209	土師器	甕	底部付近	調査区西側 ～底部	-	-	-	-	横方向のナラナ・ナ ラナ子	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	3mm以下の黒灰・黒灰・赤 褐色粘を3%含む		
210	土師器	高杯	底部	調査区東側	-	-	-	-	横方向斜方 のナラナ・チ ガキ	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	1mm以下の赤色粘を1%未満 内面に炭化物付着 含む		
211	土師器	高杯	底部	調査区中央	-	-	-	-	ナ子・ヨコナ ラナ子	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	1mm以下の赤色粘を5%, 黑 褐色粘を1%含む		
212	土師器	高杯	底部	当1号墓立柱 建物	-	-	-	-	ナ子	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	1mm以下の黒褐色粘を1% 以上含む		
213	土師器	高杯	底部	調査区東側	-	-	-	-	スビオサエ・ヨコナ ラナ子・横方向 のナラナ	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	3mm以下の赤褐色粘を1%未 満		
214	土師器	甕	底部	調査区東側	-	-	-	-	ナ子・ハケヌ	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	1mm以下の灰白・にぶつ赤 褐色粘を3%含む		
215	土師器	甕	底部	調査区東側	-	-	-	-	ナ子	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	2mm以下の灰白・黒灰・黒 色粘を7%含む		
216	土師器	甕	底部	調査区中央 部	-	-	-	-	ヨコナラ・ヨコナ ラナ子	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	4mm以下の赤色粘を1%, 白 色粘を1%以下含む		
217	土師器	甕	底部	調査区東側	-	-	-	-	ナ子	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	2mm以下の黒灰色粘を1% 含む		
218	土師器	小甕	底部	調査区東側	-	-	-	-	-	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良好	3mm以下の灰白・黒色粘を1% 含む		
219	土師器	小甕	底部	調査区中央	-	-	-	-	ヨココナラ・ヨココナ ラナ子	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	陶質 007006-4 007006-5 007006-6 007006-7	良質			

第7表 青木遺跡出土土器等観察表⑦

遺物 番号	種別	部類	出土地点	法規 成付	基高	調整目次・文様等		色調	形状	出土	備考
						内面	外面				
221	灰陶器	环	II層 湿潤区東側	-	-	-	回転コロナ	回転コロナ	灰	灰	堅頑
							デ	デ	233V(1)	233V(2)	
222	灰陶器	肩付付き体部-底	湿潤区中央	(8.7)	-	-	回転コロナ	回転コロナ	灰	灰	堅頑
							デ	デ	03V(1)	03V(2)	1mm以下の灰白色和を1%含む
223	灰陶器	肩付付き底部	1号溝	-	-	-	回転コロナ	回転コロナ	灰	灰	堅頑
							デ	デ	233V(1)	233V(2)	表面
224	灰陶器	环身	底部	湿潤区中央	(9.5)	-	回転コロナ	回転コロナ	灰	灰	堅頑
							デ	デ	233V(1)	233V(2)	2mm以下の灰白色和を2%、1mm以下の黒褐色和を1%以下、1mm以下の褐色+7褐色和を1%含む
225	灰陶器	瓦か?	湿潤区中央	-	-	-	格子目タスキ	灰	灰	良好	2mm以下の灰灰色和を1%含む
							233V(1)	233V(2)			
226	土師器	环	底部	(5.3)	-	-	回転コロナ	回転コロナ	灰	灰	良好
							デ	デ	03V(1)	03V(2)	1mm以下の半透明色和を1%、灰白色和を2%含む
227	土師器	環	底部付近 湿潤区東側 →底部	(9.4)	-	-	回転コロナ	底部へら切り	灰	灰	良好
							デ	デ	233V(1)	233V(2)	2mm以下の褐色和を10%、白にぶい赤褐色和を1%以下
228	土師器	环	湿潤区中央	(7.1)	-	-	回転コロナ	回転コロナ	灰	灰	良好
							デ	デ	233V(1)	233V(2)	1mm以下の被剥色和を1%含む
229	土師器	环	湿潤区中央	(7.2)	-	-	回転コロナ	回転コロナ	灰	灰	良好
							デ	デ	03V(1)	03V(2)	1mm以下の灰白色和を1%含む
230	土師器	上輪轍	底部付近 湿潤区東側 →底部	(5.6)	-	-	ナラ	ナラ	灰	灰	良好
							ナラ	ナラ	03V(1)	03V(2)	2mm以下の褐色和を2%、1mm以下の灰白色和を1%含む
231	土師器	上輪轍	底部	(7.1)	-	-	回転コロナ	ナラへら切り	灰	灰	良好
							デ	ナラ	233V(1)	233V(2)	4mm以下の赤褐色和を2%、2mm以下の透明光沢和を1%含む
232	土師器	上輪轍	底部付近 湿潤区中央 →底部	(8.1)	-	-	回転コロナ	回転コロナ	灰	灰	良好
							デ	デ	233V(1)	233V(2)	1mm以下の褐色+白にぶい褐色和、褐色和を3%含む
233	土師器	上輪轍	底部	(7.0)	-	-	回転コロナ	回転コロナ	灰	灰	良好
							デ	デ	03V(1)	03V(2)	3mm以下の褐色和を1%含む
234	土師器	環	II層 湿潤区中央	-	-	-	ナラ	ナラ	青苔	青苔	良好
							ナラ	ナラ	233V(1)	233V(2)	表面にえぐり有る
235	土師器	肩付上輪轍	湿潤区中央	-	-	-	布口盤	ナラ	灰	灰	良好
							ナラ	ナラ	233V(1)	233V(2)	2mm以下の褐色和を1%含む
236	土師器	肩付上輪轍	湿潤区中央	-	-	-	布口盤	ナラ	灰	灰	良好
							ナラ	ナラ	233V(1)	233V(2)	1mm以上の褐色和を1%以上
237	陶器	肩付輪轍	II層 底部	-	-	-	施釉	施釉	灰	灰	堅頑
							ナラ	ナラ	233V(1)	233V(2)	下部有
238	陶器	直	1号溝 底部	-	-	-	回転コロナ	底部	灰	灰	良好
							デ	デ	03V(1)	03V(2)	2mm以下の灰白色和を1%含む
239	陶器	肩付輪轍	II層 底部	(7.8)	-	-	-	-	灰	灰	堅頑
							ナラ	ナラ	233V(1)	233V(2)	表面に細ねじれ有る
240	陶器	肩付輪轍	底部-底付1号溝底 部	(4.4)	-	-	回転コロナ	施釉+回転コロナ+底付 ハラケアリ	灰	灰	堅頑
							ナラ	ナラ	233V(1)	233V(2)	内面に細ねじれ有る
241	陶器	肩付輪轍	底部	(4.8)	-	-	施釉	底部へら切り	灰	灰	堅頑
							ナラ	ナラ	233V(1)	233V(2)	表面

遺物 番号	種別	出土地点	法規 (cm)			重量 (kg)	備考
			最大径	最大幅	最大厚		
173	土師	5号棚穴遺物	4.31	1.82	1.53	10.6	色調 水黄褐 (10YR5/2) 検定孔径 4.5 ~ 5.5mm

第8表 青木遺跡出土石器観察表①

遺物番号	種別	石材	出土地点	法量(cm)			重量(gw)	備考
				最大長	最大幅	最大厚		
1	打製石斧	頁岩	1号土坑	18.5	9.9	2.6	406	刃潰し加工
2	打製石斧	頁岩	1号土坑	20.8	9.3	3.1	676	刃潰し加工
3	磨製石斧	砂岩	1号土坑	16.7	5.4	3.7	523	刃潰し加工
4	台石	砂岩	1号土坑	17.4	12.8	13.2	4922	被熱
6	打製石斧	ホルト	調査区西側	10.6	8.45	4.08	420.4	
7	打製石斧	頁岩	調査区東側	14.8	8.15	1.6	206.9	
8	打製石斧	頁岩	調査区西側	11.45	6.7	2.95	286.3	
9	打製石斧	頁岩		18.32	10.3	3.3	585.7	
10	打製石斧	頁岩	1号竪穴建物	7.7	7	2.4	206.2	
11	打製石斧	頁岩	1号竪穴建物	14.95	6.4	1.2	121.7	
12	打製石斧	頁岩	1号竪穴建物	12.8	6.65	2	161.6	
13	打製石斧	頁岩	6号竪穴建物	13.8	6.6	1.4	210.1	
14	打製石斧	頁岩	4号竪穴建物	7.8	4.6	1.15	38.09	
15	打製石斧	頁岩	2号竪穴建物	7.3	6.05	1.55	85.36	
16	打製石斧	頁岩	5号竪穴建物	6	6.5	1	62.77	
17	打製石斧	ホルト	5号竪穴建物	9.7	5.2	2.2	164	
18	磨製石斧	砂岩	調査区西側	9.9	6.25	4.3	291.4	
19	磨製石斧	ホルト	調査区東側	12.35	5.3	4	263.2	
20	磨製石斧未成品	頁岩	5号竪穴建物	15.4	5.8	3.3	380.3	
21	磨製石斧未成品	ホルト	1号竪穴建物	15.15	4.65	3.35	277.7	
22	磨製石斧未成品	ホルト	1号溝状遺構	15.6	5.85	4.6	528	
23	磨製石斧未成品	砂岩	NW 1	11.7	4.3	2.8	181.4	
24	磨製石斧	ホルト	調査区西側	8.55	4.25	2.2	126	
25	二次加工剥片	頁岩	3号竪穴建物	4.9	7.65	1	31.72	
26	ホルト		6号竪穴建物	5.9	4.4	1.3	36.6	
27	石鏃未製品か?	ホルト	6号竪穴建物	2.05	1.6	0.6	1.9	
28	石鏃	ホルト	5号竪穴建物	2.15	1.4	1.25	1.42	
29	使用痕剥片	ホルト	6号竪穴建物	4.35	2.9	0.7	11.3	
30	剥片	ホルト	5号竪穴建物	2.55	1.6	0.55	3	
31	二次加工剥片	黒曜石	6号竪穴建物	2.1	1.7	0.3	1.2	
32	使用痕剥片	ホルト	5号竪穴建物	2.2	1.2	0.45	0.88	
33	使用痕剥片	ホルト	5号竪穴建物	2.25	2.5	0.95	6.75	
91	磨製石斧未製品	頁岩	6号竪穴建物	10.6	6	1	82	
99	台石	砂岩	1号竪穴建物	26.6	23.6	11.7	4260	
100	擦石	砂岩	1号竪穴建物	13.05	7.75	6.9	1057.4	
101	擦石	砂岩	1号竪穴建物	5.8	2.45	1.4	29.09	
112	敲石	砂岩	2号竪穴建物	6.4	4.8	3.25	131	
113	台石	砂岩	2号竪穴建物	12.6	14.2	6.4	1402.1	
114	敲石	砂岩	2号竪穴建物	17.3	5.6	3.8	490.2	酸化鉄 (?)付着
130	台石	砂岩	4号竪穴建物	16	8.5	7.8	1153.2	
131	台石	砂岩	4号竪穴建物	12.85	6.95	7.45	731.5	被熱により赤化
132	台石	砂岩	4号竪穴建物	10	10.4	4.9	614.4	
133	敲石	砂岩	4号竪穴建物	9.5	8.6	3.6	372.5	
134	台石	砂岩	4号竪穴建物	19	7.4	9	1664.2	
174	砥石	砂岩	6号竪穴建物	8.5	6.3	3	118.9	
175	敲石	砂岩	6号竪穴建物	5.7	5.1	1.85	58.99	
176	敲石	砂岩	5号竪穴建物	12.8	10	4.85	904.3	
177	石皿	砂岩	5号竪穴建物	12.4	14.05	5.6	1140.3	被熱により赤化
178	管玉	緑色凝灰岩	6号竪穴建物	1.35	0.45	0.4	0.37	

第9表 青木遺跡出土石器観察表②

遺物 番号	種別	石材	出土地点	法量(cm)			重量 (gw)	備考
				最大長	最大幅	最大厚		
183	石錘	ホルフク灰	2号土坑	6.1	6.05	1.35	82.99	
219	磨製石斧	ホルフク灰		7.4	4.2	1	48.2	
242	砥石	砂岩	5号掘立柱建物	7.7	2.35	3.1	100.4	
243	擦石	砂岩	攢乱内	6.5	5.75	2.9	160.5	
244	擦石	花崗岩	攢乱内	14.1	9.8	4.8	1066.2	
245	擦石	花崗岩	7号掘立柱建物	7	7	2.8	213.4	
246	石錘	頁岩	調査区中央	7.15	8.05	1.65	135.8	
247	石錘	頁岩	1号溝状遺構	3.9	4.5	1	27.7	
248	不明	頁岩	調査区西側	5.6	4.55	1.45	42.08	

【引用・参考文献】

- 赤崎広志 2015 「みやざき地質ガイド：郷土宮崎を知るツールとしての地質学」『宮崎県文化講座研究紀要』42
- 今塙屋毅行・松永幸寿 2002 「日向における古墳時代中～後期の土師器・宮崎平野部を中心にして」『古墳時代中・後期の土師器・その編年と地域性』第5回九州前方後円墳研究会
- 高鍋町史編さん委員会 1987 『高鍋町史』
- 寺岡易司 2004 「九州の四万十累層群」『地質ニュース』599号
- 松永幸寿 2001 「宮崎平野部における弥生時代後期中葉～古墳時代中期の土器編年」『宮崎考古』第17号
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2004 『野首第1遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第86集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2005 『崩戸遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第103集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2006a 『下耳切第3遺跡（第1分冊・旧石器～縄文時代編）』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第125集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2006b 『下耳切第3遺跡（第2分冊・古墳時代以降編）』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第125集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2007a 『野首第1遺跡II』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第157集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2007b 『野首第2遺跡 第一分冊』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第158集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2008 『野首第2遺跡 第二分冊』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第172集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2009 『尾花A遺跡 I・旧石器時代～縄文時代編』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第185集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2010 『野首第2遺跡（二次・三次調査）』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第188集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2011 『尾花A遺跡II（弥生時代以降編・本文編第1分冊、弥生時代以降編・挿図編第2分冊、弥生時代以降編・写真図版編第3分冊）』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第195集
- 宮崎県教育委員会 1995 『東九州自動車道関連遺跡詳細分布調査報告書2（西都～延岡・延岡道路）』
- 宮崎県児湯郡高鍋町教育委員会 1982 『持田中尾遺跡発掘調査概要報告書』
- 宮崎県児湯郡高鍋町教育委員会 1989 『高鍋町遺跡詳細分布調査報告書』高鍋町文化財調査報告書第4集

第IV章 総括

はじめに

青木遺跡の今回の調査では、限られた範囲の調査にもかかわらず、縄文時代から近世にかけて幅広い時代の資料が得られた。総括では、全体の成果を概観したのち、周辺環境を含めた検討を加え主に掘立柱建物群の評価についてまとめておきたい。

第1節 調査成果の概観

1 縄文時代

縄文時代早期については、今回の調査では押型文土器（34・35）が出土したのみである。近接する崩戸遺跡や野首第1、第2遺跡、小丸川対岸の尾花A遺跡など、比較的密に早期の遺跡が確認されている地域であり、今回の調査区の希薄さはやや特異ではある。限られた調査範囲であり、偶然、分布が希薄な部分であったととらえることが妥当であろう。

晩期については、1号土坑のように、祭祀に関係すると考えられる遺構が確認されたのは大きな成果ではあるが、遺物量に比して遺構の分布は極めて希薄である。近辺の遺跡では、野首第2遺跡などで大規模な集落が確認されていることや、今回の調査区でも遺物自体は比較的多く出土していることから、集落などの生活空間の縁辺が今回の調査範囲であったと考えたい。

2 弥生時代

弥生時代に関しては、遺物の出土がわずかにみられたのみであった。遺物は、後期以降のものであり近辺では対岸の尾花A遺跡以外に目立った調査例は少ない。今回は限られた調査範囲であり、近接する北中原遺跡などでは当該期の遺物が表採されていることから、周辺には弥生時代の遺跡が広がっているのは確実である。

3 古墳時代

青木遺跡では、古墳時代の竪穴建物が6軒、土坑1基が確認されている。竪穴建物は、いずれも調査区内で全体像を確認できていないが、規模が復元できるものはいずれも一辺5mを超える。近接する野首第2遺跡で調査された集落の大型のものに比肩する。時期は中期前半から終末にかけてのものであり、周囲の大規模集落と比較すると、下耳切第3遺跡に先行し、対岸の尾花A遺跡に後出、野首第2遺跡の集落とは継続期間の前半が重なるとみることができる。今回の調査区で確認された竪穴建物で最も先行するものは1号竪穴建物であり、規模が比較的大型であること、方位を強く意識している可能性があることなどは、古墳時代の青木遺跡近辺の集落形成開始期の姿を考えるうえで重要であろう。

また、4号竪穴建物は5世紀中葉前後と考えたが、西壁に残る粘土塊が窓であれば、現状わかっていない範囲では日向において最も早い時期に導入されたこととなる。焼土や煙道などの施設が確認できていないが、積極的に評価するのであれば、このような先駆性を持つ集団であったと判断できるだろう。出

土した須恵器も日向では早い時期のものも（138・185など）散見でき、あるいは最新技術や文物を積極的に導入するような集落であったかもしれない。近隣には、山王古墳群、野首古墳群など青木遺跡で確認された集落と同時期と考えられる比較的規模が大きい古墳群が展開する。これらの古墳群の造営に関わって最前端の技術や文物を導入していた集落の一部であった可能性は高いと考えられる。

4 古代から中世

掘立柱建物が8棟確認されているが、4号以外の全てが方位に強く規制されている。また、柱穴の規模が大きく、建物の全体が検出されたものはないが、屋敷地や公的施設の存在が想起される。

掘立柱建物は詳細な時期を判断する材料に乏しく、遺構の重なりや全体の遺物の出土傾向から、古代から中世と幅広くとらえているが、近辺を大規模に調査する機会があれば、古墳時代の竪穴建物主体の集落から、古代の掘立柱建物主体の集落に変遷していく過程を追える可能性がある。前時代から継続する古代の中心的な集落であるとすれば、その意義は大きい。本報告書でも若干検討するが、周辺の状況も踏まえ評価することが必要となるだろう。

5 近世

近世については、溝状遺構2条と畠跡が確認できている。遺物の出土は希薄で、検出された遺構からも集落域からははずれた部分であったと考えられる。なお、ごく近隣には、古くからの青木地区に居住していた方もあり、野首第1遺跡などでは集落も確認されているので、広大な耕作域が広がっていたとは考えにくい。

以上、今回の調査成果を概観した。以下においては掘立柱建物群について、周辺の状況も加味し、若干の検討を加えたい。

第2節 青木遺跡で確認された大型掘立柱建物群と周辺にみられる方形区画について

1 遺跡周辺の状況

前述したように、青木遺跡で確認された掘立柱建物群は、方位に強く規制されていることが伺える。柱の規模も大きく屋敷地か何らかの公的施設であった可能性が高い。しかしながら、現在、周囲にはこれらの建物と関連するような施設は一見して見当たらず、また、地名等にもそれらを示唆するようなものはない。

今回の調査原因ともなった県道木城高鍋線は、現在の高鍋町と木城町の両市街地を結ぶ主要道路である。その経路は、今回の調査区の東端辺りから、野首丘陵を迂回するよう北に振れている。今回の調査で明瞭となったが、北に折れる道を敷設するにあたり、丘陵の先端を堀切状に大きく掘削していたようである。今回の調査に作業員として参加した古くからの地元住民によると、道路は元々、まっすぐ西に向かっていたという事であり、拡幅に伴って北に振れる道が敷設されたようである（第37図）。以上の前提で青木遺跡周辺を見ると、今回の調査範囲を対角線にするように方形の区画が確認される（第38図・図版1参照）。この区画の南辺の長さがおよそ110m程度である。この区画は、ほぼ方位に



第38図 青木遺跡の位置と旧道の経路 (1:1000)



第39図 青木遺跡の方形区画

併行しており、青木遺跡の掘立柱建物群はこの区画に規制された可能性もある。

2 周辺の方形区画

青木遺跡の周囲に目を向けると、旧道の経路に沿うように碁盤目状に道が交差する部分があることがわかる。1/1000 地形図を確認すると、現在青木地区の公民館となっている菅原神社周辺に顯著に広がっていることがわかった。碁盤目状に南北に広がる区画としては、古代条里などが想起される。条里やそれに準じる区画であった場合、一町（109m）四方の区画があることが予想される。そこで、地図上



第40図 青木遺跡周辺に見られる一町四方の区画

に一町四方の区画を網掛けで示し、現在の道に重ねてみたところ、よく合致することが確認できた。

3 方形区画の広がり

青木遺跡周辺の方位に正対した一町四方の区画としては菅原神社西側の二町四方、4区画分が特に顕著であるが、東側においてもややいびつではあるが方形の区画が確認できる。南東から県道木城高鍋線が東に折れる部分、地形的に言えば、山王古墳群が展開する小丸川南岸の段丘が形成されている部分から、野首丘陵の先端にかかる部分についてである。東西に五町分、南北に二町半から三町分については区画があると判断できる（第40図）。また、いびつな条里遺構としては宮城県の多賀城下の例（進藤2005）などもあり、後世の改変なども考慮にいれれば決して無理な想定ではないだろう。

4 駅跡としての可能性

この方形区画が古代までさかのぼりうるものであれば、当該箇所付近が駅の跡である可能性が浮上する。現在の児湯郡内にあると想定されている古代駅跡としては、去飛、児湯の2駅があり、去飛駅は現在の都農町、日向一の宮である都農神社周辺に比定される場合が多い。都農神社周辺から青木遺跡までは直線距離で14から15kmほどで、30里（約16km）毎に設置された古代駅としては距離的には無理のない位置であろう。地名や出土遺物などに、これを裏付ける情報はないが、今後、古代官道の経路の想定や地籍図などの確認なども含めて検討の俎上に上げるべきと考える。



第41図 方形区画の広がり

第3節　まとめ

青木遺跡の調査の調査成果の概観から、調査で確認された大型掘立柱建物群は、古墳時代から継続する中心的集落の可能性が高く、その規模から公的な施設であると評価した。周辺に一町四方の区画が存在することから、方形区画内に設けられた公的施設の内容として駅の可能性をあげた。今後、この方形区画がどの程度遡り得るか、国府や同時期の周辺遺跡との比較も含め検討を深める必要がある。

【参考文献】

- 出田和久2016『条里地割と道路』『遺跡と技術』日本古代の交通・交流・情報3
- 江口桂 編2014『古代官衙』考古調査ハンドブック11
- 進藤秋輝2005『古代多賀城の町並みを考える』『宮城の文化財』第114号
- 館野和己・出田和久編2016『遺跡と技術』日本古代の交通・交流・情報3
- 中村太一2016『駅家』『遺跡と技術』日本古代の交通・交流・情報3
- 永山修一2003『南九州の古代交通』『古代交通研究』第12号
- 藤岡謙二郎1973『古代日向の地域中心と交通路』『地理学評論』46巻10号
- 松村博2016『渡河施設』『遺跡と技術』日本古代の交通・交流・情報3
- 渡部徹也2003『南九州の道路の事例について』『古代交通研究』第12号



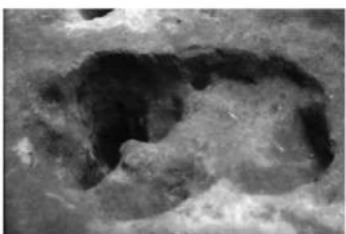
青木遺跡遠景(東より)



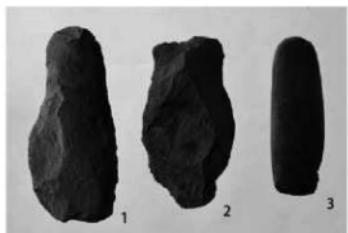
青木遺跡全景



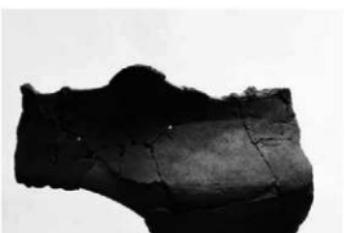
1号土坑検出状況



1号土坑完掘状況



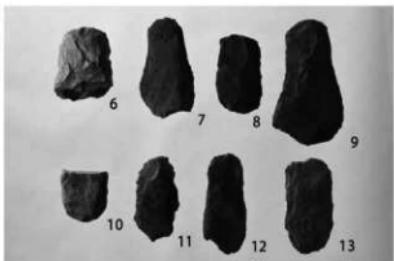
1号土坑出土遺物①



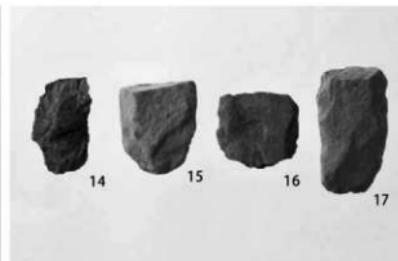
1号土坑出土遺物②



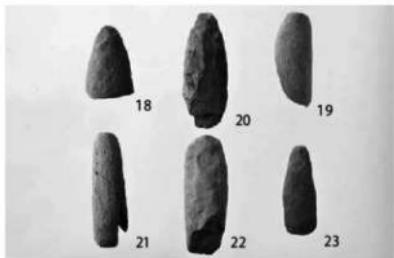
1号土坑出土遺物③



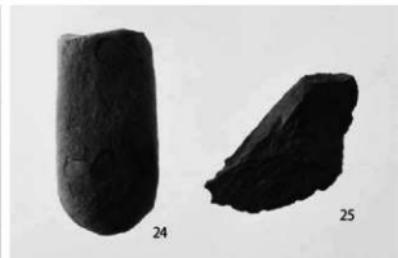
青木遺跡出土遺物①



青木遺跡出土遺物②



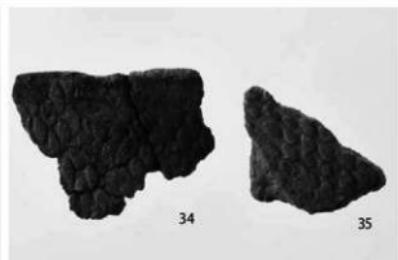
青木遺跡出土遺物③



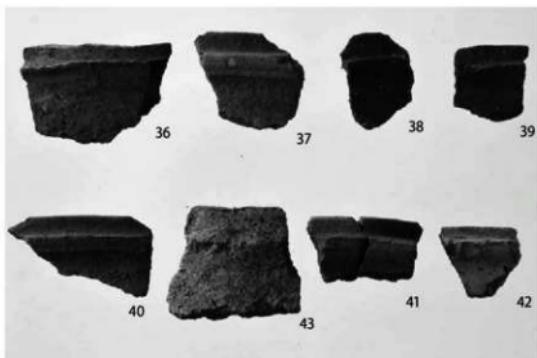
青木遺跡出土遺物④



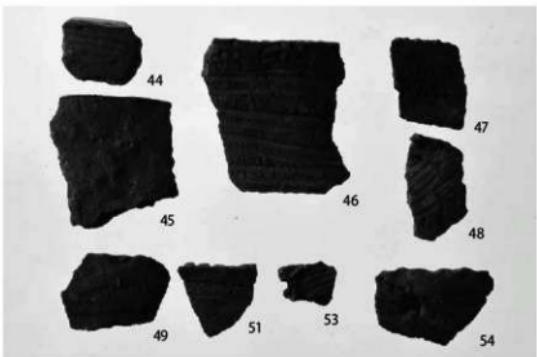
青木遺跡出土遺物⑤



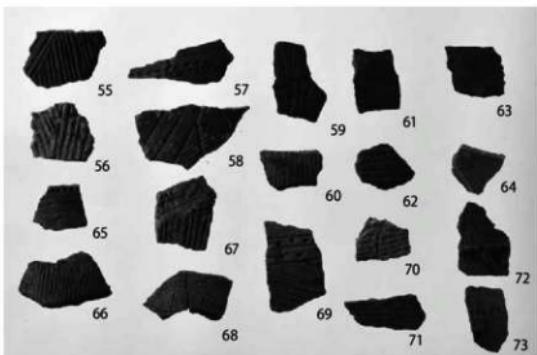
青木遺跡出土遺物⑥



青木遺跡出土遺物⑦



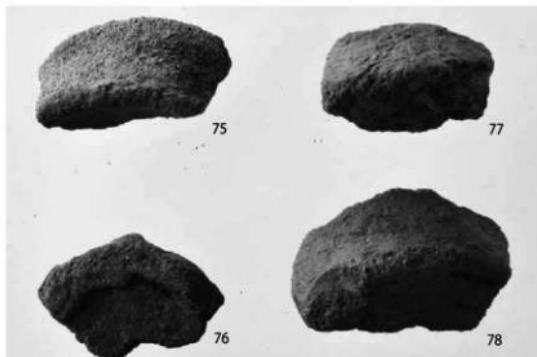
青木遺跡出土遺物⑧



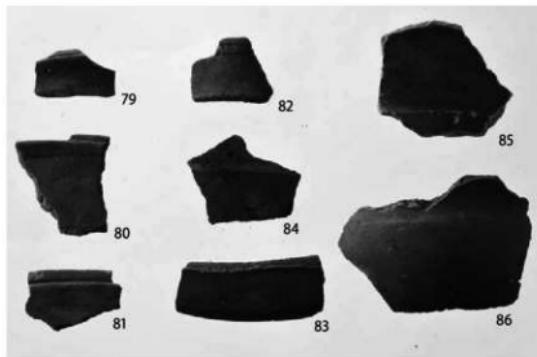
青木遺跡出土遺物⑨



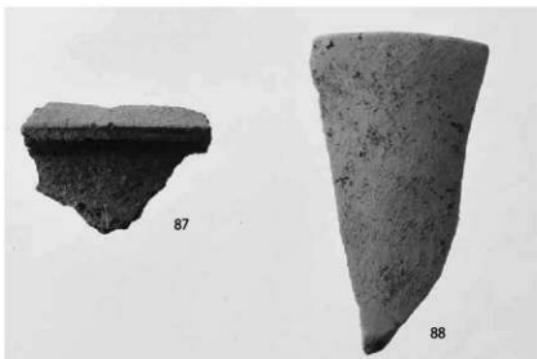
青木遺跡出土遺物⑩



青木遺跡出土遺物⑪



青木遺跡出土遺物⑫



青木遺跡出土遺物⑬



青木遺跡出土遺物⑭



青木遺跡出土遺物⑮

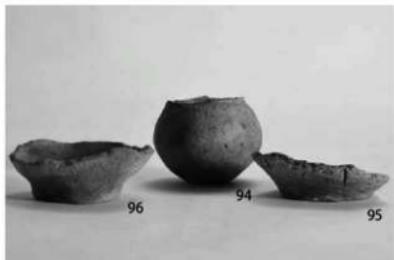
图版 6



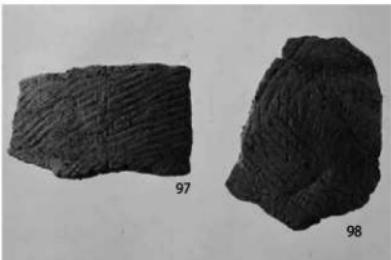
1号竖穴建物



1号竖穴建物出土遗物①



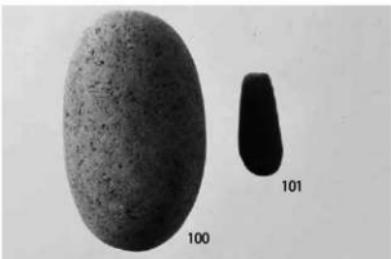
1号竖穴建物出土遗物②



1号竖穴建物出土遗物③



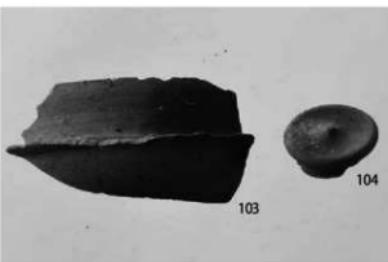
1号竖穴建物出土遗物④



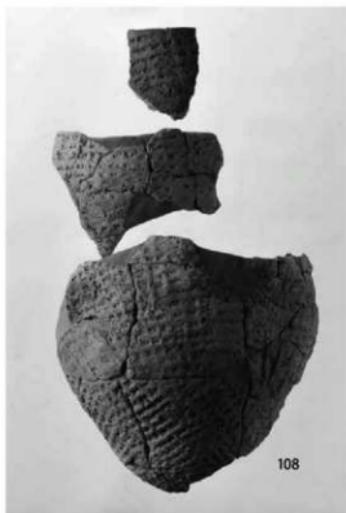
1号竖穴建物出土遗物⑤



2号および3号竪穴建物



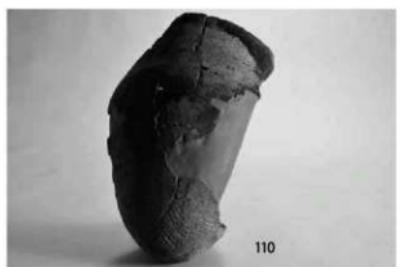
2号および3号竪穴建物出土遺物①



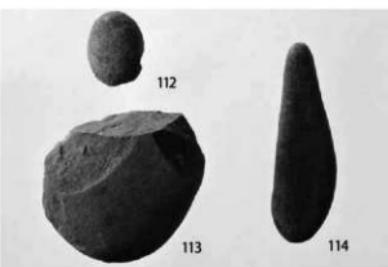
2号および3号竪穴建物出土遺物②



2号および3号竪穴建物出土遺物③



2号および3号竪穴建物出土遺物④



2号および3号竪穴建物出土遺物⑤



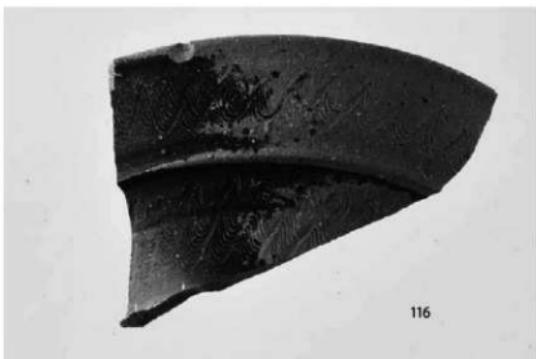
4号竪穴建物



4号竪穴建物内の粘土塊



高杯(117)出土状況



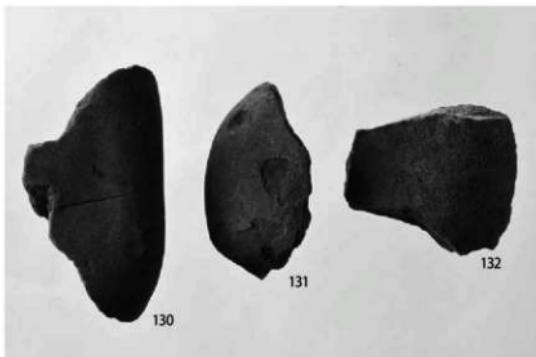
4号竖穴建物出土遗物①



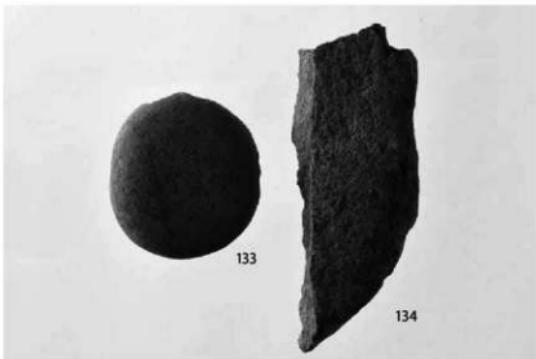
4号竖穴建物出土遗物②



4号竖穴建物出土遗物③



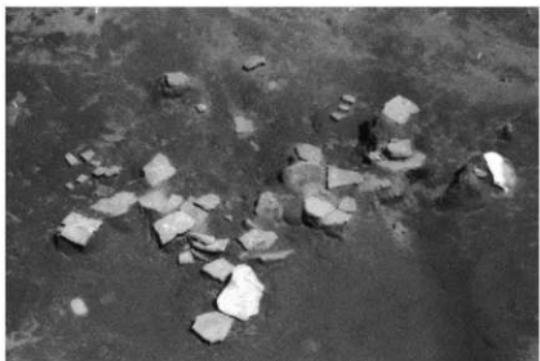
4号竖穴建物出土遺物④



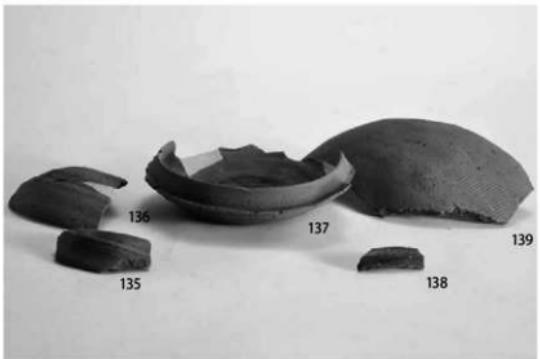
4号竖穴建物出土遺物⑤



5号および6号竖穴建物



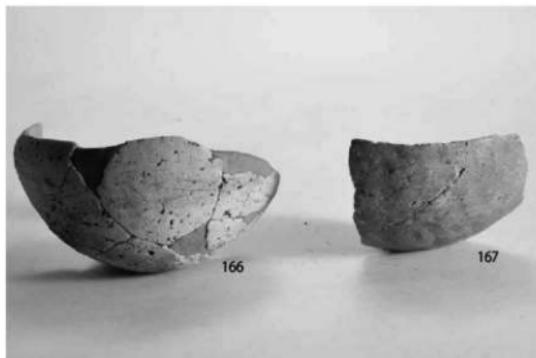
5号竪穴建物遺物出土状況



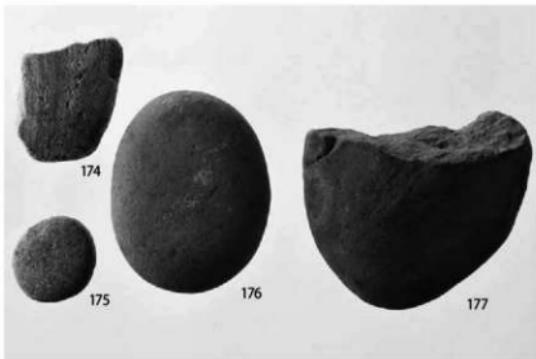
5号および6号竪穴建物出土遺物①



5号および6号竪穴建物出土遺物②



5号および6号竪穴建物出土遺物③



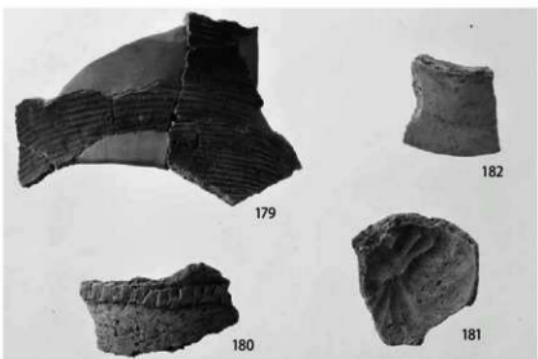
5号および6号竪穴建物出土遺物④



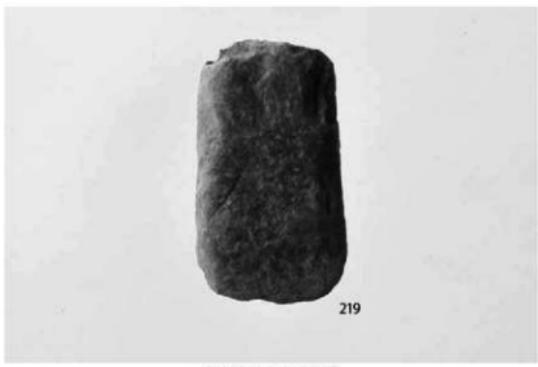
5号および6号竪穴建物出土遺物⑤



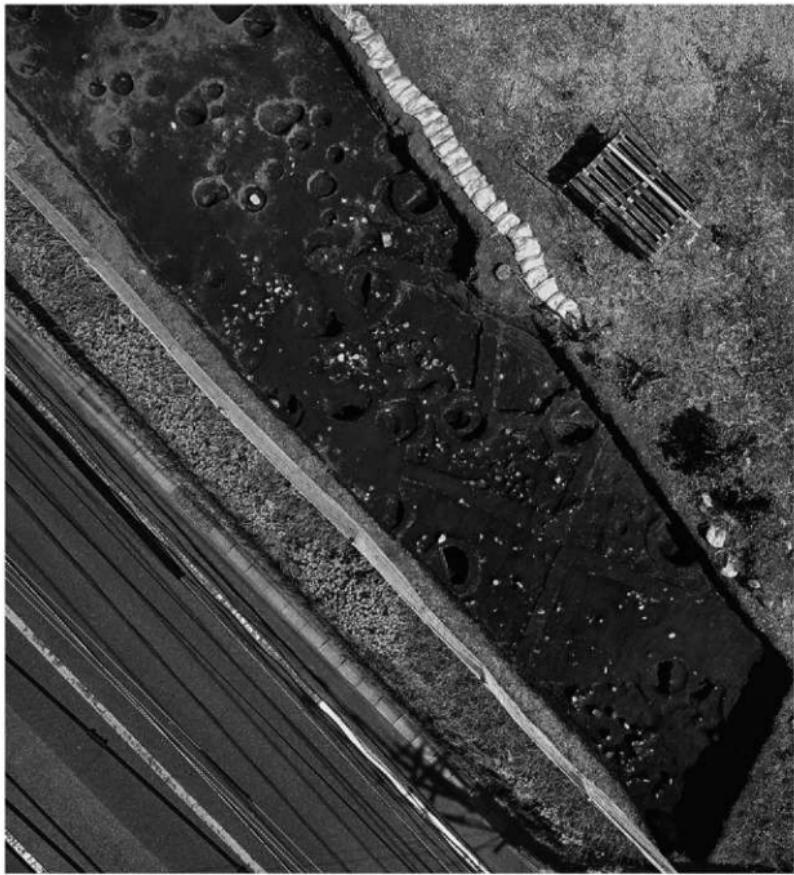
2号土坑(北より)



2号土坑出土遺物



青木遺跡出土遺物⑯



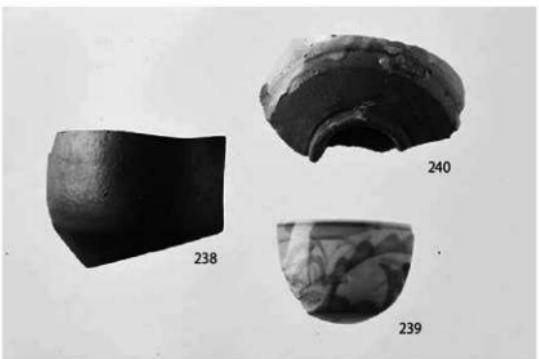
青木遺跡掘立柱建物群（5号から8号掘立柱建物）



窟跡



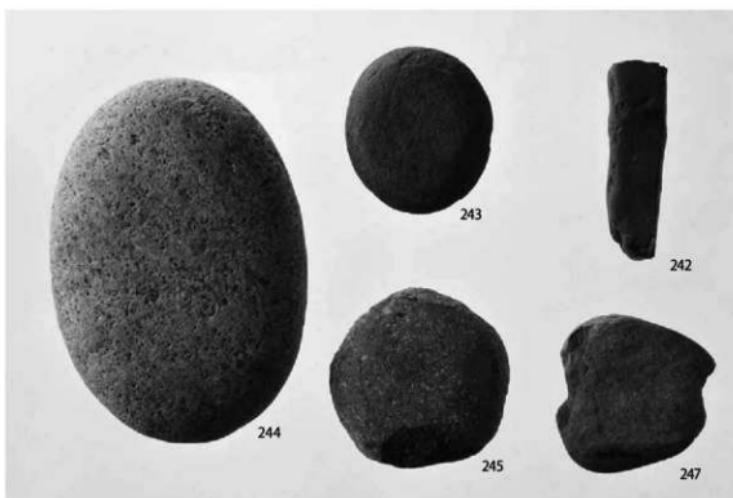
1号溝状遺構



1号溝状遺構出土遺物



青木遺跡出土輸入陶磁器（左 青花碗、右 同安窯青磁）



青木遺跡出土遺物⑫

報 告 書 抄 錄

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 248集

青木遺跡

一般県木城高鍋線（青木工区）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2019年3月

発 行 宮崎県埋蔵文化財センター

〒880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂4019番地

TEL 0985(36)1171 FAX 0985(72)0660

印 刷 北一 株式会社

〒 880-0903

TEL 0985(51)5100 FAX 0985(53)5640

Takanabe Town

AOKI Site

The Excavational Investigation Report of Miyazaki Prefectural Archaeological Center

vol.248

2019

Miyazaki Prefectural Archaeological Center